



考古学財団

ISSN 1342-6834

研究紀要 16

かながわの考古学

2011.3

財団法人 かながわ考古学財団

かながわの考古学

2011.3

財団法人 かながわ考古学財団

はじめに

今年度も、各時代の研究プロジェクトチームが提出した共同研究と、個人研究の成果を掲載することができました。

縄文時代、弥生時代、古墳時代、中世、近世の各研究プロジェクトチームは、設定したテーマの継続研究を続けております。旧石器時代、奈良・平安時代については新たなテーマを掲げて研究を行い、それぞれの目標に沿って検討を進めています。

また個人研究では今までの知識と経験を生かし、さらなる考古学の深化につながる研究を行っています。個人の能力・技術の研鑽と発展にも大いに役立つものと期待しております。

今後とも、こうしたグループの共同研究と個人研究を進めることによって職員の資質向上が図られ、より充実した内容を発表することで、皆様にもその成果が還元できるようであれば幸いです。

本書における研究成果が埋蔵文化財調査や考古学研究に広く活用されると共に、郷土かながわの歴史を学ぶ一助となることを期待して、巻頭の言葉とさせていただきます。

2011年3月

財団法人 かながわ考古学財団

理事長 伊藤 啓三

目 次

神奈川県における旧石器時代の遺物分布（その4）－B1層～L2層（1）－	
旧石器時代研究プロジェクトチーム	1
神奈川における縄文時代文化の変遷Ⅶ－後期前葉期 堀之内式土器文化期の様相 その2－	
縄文時代研究プロジェクトチーム	13
神奈川県内出土の弥生金属器（3）－まとめ－	
弥生時代研究プロジェクトチーム	25
考古学の先駆者 赤星直忠博士の軌跡（8）－通称「赤星ノート」の古墳時代資料の紹介－	
古墳時代研究プロジェクトチーム	37
神奈川県における古代の鉄（1）－生産関連遺物の集成－	
奈良・平安時代研究プロジェクトチーム	51
神奈川の中世城館（3）	中世研究プロジェクトチーム
	65
近世民家の集成（8）	近世研究プロジェクトチーム
	73
個人研究論文	
人物埴輪にみる地域相の分析と工人集団の復元－関東地域の人物埴輪を中心に－	
新山保和	85

例　　言

1. 本書は、財団法人かながわ考古学財団および神奈川県教育庁教育部文化遺産課の職員で構成する研究プロジェクトチームが、時代ごとに共同研究を行った結果を掲載するものである。また財団法人かながわ考古学財団が研究助成を行った個人研究の成果を掲載する。

2. 各研究プロジェクトチームの構成は以下のとおりである（五十音順・◎はプロジェクトリーダー、○はサブリーダーを示す）。

・旧石器（先土器・岩窟）時代研究プロジェクトチーム

　◎井関文明・○大塚健一・栗原伸好・砂田佳弘・鈴木次郎・長澤邦夫・畠中俊明・三瓶裕司・吉田政行・脇 幸生

・縄文時代研究プロジェクトチーム

　阿部友寿・天野賢一・井辺一徳・小川岳人・近藤匡樹・◎松田光太郎・○宗像義輝

・弥生時代研究プロジェクトチーム

　飯塚美保・○池田 治・櫻井真貴・新開基史・戸羽康一・○渡辺 外

・古墳時代研究プロジェクトチーム

　◎植山英史・○柏木善治・小西絵美・新山保和・林 雅恵・吉田映子

・奈良・平安時代研究プロジェクトチーム

　◎加藤久美・齊藤真一・○相良英樹・高橋 香・中田 英

・中世研究プロジェクトチーム

　◎松葉 崇・○宮坂淳一

・近世研究プロジェクトチーム

　◎木村吉行・○澁谷正信

神奈川県における旧石器時代の遺物分布（その4）

- B1層～L2層（1）-

旧石器時代研究プロジェクトチーム

はじめに

当プロジェクトでは、2007年度から遺物分布の集成を行っており、前年度は2007・2008年の両年度で行った漸移層～L1H層の遺物分布の集成について、石器集中を中心として漸移層～L1S層、L1S層～B0層、B0層～L1H層の3つにわけてまとめた。

今回からはB1層～L2層出土石器群の分布状態の集成を行うことにした。集成項目は2007・2008年度と同様、①遺跡No.、②遺跡名、③出土層位、④文化層、⑤調査面積（m²）、⑥各集中No.、⑦分佈範囲（m）、⑧石器点数、⑨分佈密度、⑩有状態、⑪基盤組成、⑫石材組成、⑬有伴遺物

（井関）

No.	遺跡名	出土層位	文化層	調査面積 (m ²)	各集中No.	分佈範囲 (m)	石器点数	分佈密度 (点/m ²)	有状態	基盤組成	石材組成	有伴遺物
99	草川穴神墓	B1上層	Ⅲ	3850	2	6×4	27	1.125	直	ア6、ア7、F14、壁石4	黒25、黒2	
100	中尾	B1直上	Ⅲ	1200	1	5×5	111	4.44	散在	ア9、ア10、壁1、壁2、UF2、壁G1、 F10、壁G2、CR5	黒10、黒51、井関洋1	鷹卵1基
101	寺尾	B1L～L2	Ⅳ	1200	1	2×3	35	5.83	散在	MF2、岩原5、P6、海月22	黒頁20、黒5	鷹卵1基
102	寺尾	B1L～L2	Ⅳ	1200	2	5×5	176	7.04	直	ナ7、ア1、ア1、壁1、RF3、 壁片2、洞26、P58、神石75、 壁2	黒頁16、黒56、黒34	
103	寺尾	B1L～L2	Ⅳ	1200	3	3×3	17	1.88	散在	ア9、ア1、壁1、洞2、F3、 壁片1、壁2	黒頁16、黒1	鷹卵1基
104	寺尾	B1L～L2	Ⅳ	1200	4	3×3	17	1.88	散在	ア1、RF1、UF1、G701、 洞22、F12	黒頁15、黒1	
105	寺尾	B1L～L2	Ⅳ	1200	5	2×5	26	2.6	直後	ナ1、RF1、6.刀1、洞1、 F12、神片9、壁1	黒頁4、黒10、黒1	
106	吉岡B区2次	B9～L2	Ⅳ	6100	1	10×6	731	12.1	直	ナ21、壁2、射5、壁5、魔1、 RF12、UF13、SP2、P69L、 CR7、壁65	黒60、黒1、黒頁1、 黒頁12、黒頁13、魔2、 チャート2、壁29、ホルン13	鷹卵1基
107	吉岡B区1次	壁～B1U	B1	28600	1	2.3×1.8	303	23.18	直	ア2、壁1、RF1、壁石1、 UF12、神片25、CR1、壁片1、 壁43	黒22、チャ23、ガ黒安 21、壁38	鷹卵1基
108	吉岡B区1次	壁～B1U	B1	28600	2	3.4×0.9	19	6.2	直	RF2、壁61、F16	黒2、チャ7、ガ黒安3、 壁1	
109	吉岡B区1次	壁～B1U	B1	28600	3	6.9×1.0	6	5.86	直	打撃痕有壁1、壁2、F5 壁1	黒1、ホルン4、ガ黒安1、 壁1	鷹卵1基
110	吉岡B区1次	壁～B1U	B1	28600	4	6.5×1.3	45	7.59	直	ナ1、壁石3、P48、神片6、 CR2、神片4	黒52、安5、RF3、桂賀 頁11、基1、ホルン2	
111	吉岡B区1次	壁～B1U	B1	28600	5	1.0×1.0	3	3	散在	F2、CR1	ホルン3	
112	吉岡B区1次	壁～B1U	B1	28600	6	1.9×0.8	5	3.24	散在	射1、UF2、P1、壁石1	ガ黒安1、壁頁1、黒2、 壁レイン1	
113	吉岡C区	B1	B1下 直	36000	1	3.1×2.0	129	16.65	直	ナ1、RF2、UF1、Y88、神片 25、CR5、壁51	黒77、ガ黒安51、砂金1	
114	吉岡C区	B1	B1下 直	36000	2	2.3×1.0	17	7.39	散在	ナ2、F12、神片3	黒10、ガ黒安7	
115	吉岡C区	B1	B1下 直	36000	3	0.9×0.1	3	33.33	散在	射2、CR1	黒1、桂賀頁1、壁頁1	

旧石器時代研究プロジェクトチーム

No.	遺跡名	出土層位	文化期	調査面積 (m ²)	各集中面 積(m ²)	分布範囲 (m)	石器点数	分布密度	分布状況	器種組成	石材組成	工具遺物
103	古岡D区	B1	B1下 部	4280	1	3.2×2.7	782	90.51	密	有孔尖頭器刃1、有孔尖頭器1、 例1、例1、UF10、UF5、 SP7、F11、例6/640	鈍2、黒780	磨耗2基
103	古岡D区	B1	B1下 部	4280	2	4.4×2.6	191	35.53	密	丸頭器2、台形器1、例1、KF6、 UF3、SP4、F20、例7/131	ガラス1、黒190	磨耗2基
103	古岡D区	B1	B1下 部	4280	3	3.2×5.0	78	3	散在	有孔尖頭器1、例1、例2、 KF7、UF1、F20、例3/32	鈍41、ガラス1、黒1、 銀鏡1、ガラス1、ホル シ12、黒14	磨耗物數1 方面
103	古岡D区	B1	B1下 部	4280	4	3.7×1.7	12	1.24	散在	例1、例2、F8、鉄片1	鈍6、黒1、銀1、 黒4	
102	古岡C区	B1	B1上 部	36000	1	3.0×1.4	19	4.52	散在	丸頭器1、例1、UF1、FT、 舜身2、例1、例2	ガラス1、ガラス4、ガラス1、 銀鏡13	
132	大岳段	B1		12			300個		十、刷、刷	生、空、刷、真	磨耗、配石	
224	寒波	B1地表					1		十	無		
126	宮ヶ瀬中層	B1L	V	8900	1	2.0×3.0	93	15.59	密集	例1、UF3、万2、F6、 C35、例1、例1、404	ガラス6、銀鏡49、銀中 銀鏡1、安1、銀鏡4、石 片2/1	配石2
126	宮ヶ瀬中層	B1L	V	8900	2	4.0×2.0	8	1.00	散在	例1、F4、鐵1	ガラス1、銀鏡1、安1、 銀鏡1	配石1
126	宮ヶ瀬中層	B1L	V	8900	3	5.0×5.0	166	6.44	密集	例2、KF3、UF1、万3、 GK、CE5、例3、例3	ガラス10、銀鏡12、銀1、 石1、砂砾3	配石1
126	宮ヶ瀬中層	B1L	V	8900	4	2.0×2.0	10	2.00	散在	万1、F4、C1	ガラス1、銀鏡1、黑1、配石1	
127	宮ヶ瀬中層	B1L	V	6300	1	2.0×2.0	5	1.25	散在	C4、例1	銀鏡4、銀鏡1	
127	宮ヶ瀬中層	B1L	V	6300	2	2.0×1.0	4	2.40	散在	F2、C2	銀鏡4	
127	宮ヶ瀬中層	B1L	V	6300	3	4.0×2.0	232	29.00	密集	万15、UF4、万5、F6、C18、 例6	銀鏡20、銀鏡12	
127	宮ヶ瀬中層	B1L	V	6300	4	3.0×3.0	49	5.44	散在	UF1、UF2、万2、F21、C17	銀鏡41、銀鏡5	銀鏡1
127	宮ヶ瀬中層	B1L	V	6300	5	3.0×2.5	5	0.87	散在	例1、F3、例1	銀鏡1、銀鏡2	配石1
127	宮ヶ瀬中層	B1L	V	6300	6	2.0×1.0	102	24.00	密集	万1、UF1、UF3、F29、C56、 例3	銀鏡77、銀鏡25	
127	宮ヶ瀬中層	B1L	V	6300	7	4.0×4.0	245	15.31	密集	例17、例1、例1、鐵1、UF1、 UF17、万5、F18、C9L、例3、 例3	銀鏡40、銀鏡42、銀 鏡3、石閃1	銀鏡1
127	宮ヶ瀬中層	B1L	V	6300	8	4.0×2.0	17	2.13	散在	鐵1、UF1、F9、C4、例1	銀鏡9、銀鏡8、銀 鏡2	配石1
127	宮ヶ瀬中層	B1L	V	6300	9	4.0×4.0	9	0.56	散在	例11、F5、鐵2、例1	銀鏡4、銀鏡4、安 配石1	
127	宮ヶ瀬中層	B1L	V	6300	10	2.0×2.0	15	3.75	散在	F11、C2、例2	銀鏡7、銀鏡6、中 銀2	配石1
127	宮ヶ瀬中層	B1L	V	6300	11	4.0×4.0	237	18.81	密集	例9、例1、万5、F5L、C17L、 例1	銀鏡209、銀鏡27、 例1	配石1
127	宮ヶ瀬中層	B1L	V	6300	12	2.0×2.0	19	4.35	散在	例2、UF1、例1、F9、C6	銀鏡19	印鑑1
127	宮ヶ瀬中層	B1L	V	6300	13	3.0×2.0	2	0.33	散在	F2	銀鏡2	
127	宮ヶ瀬中層	B1L	V	6300	14	3.0×2.0	35	3.83	散在	例3、UF1、例1、F3、C3、 例3、例1	銀鏡26、万9、銀 鏡1、中銀1	配石1
127	宮ヶ瀬中層	B1L	V	6300	15	3.0×1.0	7	2.33	散在	例1、UF2、例1、F2、例1	銀鏡4、銀鏡2、少 1	
127	宮ヶ瀬中層	B1L	V	6300	16	2.0×2.0	33	9.25	- 集合點	RF1、UF1、F26、C2、林3	銀鏡18、銀鏡14、黑 1	配石1
127	宮ヶ瀬中層	B1L	V	6300	17	3.0×2.0	48	8.00	密集	例4、万2、F2、C16、H2	銀鏡27、銀鏡21	
127	宮ヶ瀬中層	B1L	V	6300	18	3.0×3.0	18	2.00	散在	F21、例7、F8、C1	銀鏡19、銀鏡3	銀鏡1
127	宮ヶ瀬中層	B1L	V	6300	19	3.0×2.0	14	2.23	散在	例1、例1、UF1、万1、F8、 例2	銀鏡15、銀鏡2、復 銀2	銀鏡1
127	宮ヶ瀬中層	B1L	V	6300	20	4.0×2.0	76	9.50	密集	例1、UF1、UF2、万3、F6、 C16、例1、例1	銀鏡67、銀鏡9	銀鏡1
127	宮ヶ瀬中層	B1L	V	6300	21	2.0×2.0	66	17.25	密集	例10、例1、F6、F15、C41	銀鏡69	
127	宮ヶ瀬中層	B1L	V	6300	22	3.0×3.0	12	1.33	散在	例1、F9、例2	銀鏡16、銀鏡2	
127	宮ヶ瀬中層	B1L	V	6300	23	2.0×1.0	5	2.50	散在	F5	銀鏡4、銀鏡1	
127	宮ヶ瀬中層	B1L	V	6300	24	3.0×3.0	24	2.47	散在	例1、UF2、例1、F11、C8、 例1	銀鏡12、銀鏡3、黑 1	銀鏡1
127	宮ヶ瀬中層	B1L	V	6300	25	3.0×2.0	40	6.67	散在	C3	銀鏡39、銀鏡1	銀鏡1
127	宮ヶ瀬中層	B1L	V	6300	26	3.0×3.0	156	17.70	密集	例21、例1、KF1、万2、F6、 C46、例3	銀鏡140、銀鏡14、黑 7	銀鏡1、2集 中に銀鏡可視

神奈川県における旧石器時代の遺物分布（その4）

No.	遺跡名	出土部位	文化層	測量面積 (m ²)	各面積%	半面積幅 (m)	石器点数	分布密度	分布状況	高標地成	6村形成	年代遺物
127	宮ヶ瀬上原	BIL	V	6300	27	2.0×2.0	15	3.75	散在	F11, F12, C12, 横1	横標地3, 散標地2	新石器
127	宮ヶ瀬上原	BIL	V	6300	28	3.0×2.0	134	22.33	一部集中	F11, F12, UF2, N2, C12, C13, 横2	横標地10, 散標地26	2箇所に分離
127	宮ヶ瀬上原	BIL	V	6300	29	4.5×2.0	87	9.67	一部集中	F5, 横1, RF2, UF2, N2, C12, C13, 横2	横標地1	新石器
127	宮ヶ瀬上原	BIL	V	6300	30	—	3	—	点在	F2, C1	横標地3	新石器
127	宮ヶ瀬上原	BIL	V	6300	31	2.0×2.0	46	22.35	中央集中	N1, RF1, UF1, N2, F1, C1, F2, C1, 横2, 横3	横標地6, 中標2, 横2, 横3, 散砂1	新石器2
127	宮ヶ瀬上原	BIL	V	6300	32	3.0×2.0	191	21.83	散在	F9, 横1, 横2, RF1, UF2, N2, F12, C12, N1, 横3, 横4	横標地79, 舟11, 横砂1	新石器
127	宮ヶ瀬上原	BIL	V	6300	33	4.0×3.0	27	2.25	散在	ナ2, 横1, RF3, N4, F5, C12	横30, 散標地4, 散標地2, 舟5:	新石器
127	宮ヶ瀬上原	BIL	V	6300	34	4.0×3.0	81	7.33	散在	+5, 横1, 横1, 横1, 横1, N1, UF1, N2, F13, C14, 横1	横35, 横標地8, 黄玉3, 新石1:	新石器1, 配石1
127	宮ヶ瀬上原	BIL	V	6300	35	—	3	—	点在	F2, C1	舟3	
127	宮ヶ瀬上原	BIL	V	6300	36	5.0×4.0	61	3.65	散在	ナ7, 横1, 横1, 横1, RF1, UF2, F12, C16, 横1	横57, 横標地3, 散標地1	新石器
128	宮ヶ瀬 サザランケ	BIL	V	5900	1	3.0×1.0	9	3.00	散在	万2, F5, C2	横標地8, カヌ1	
128	宮ヶ瀬 サザランケ	BIL	V	5900	2	3.0×2.0	321	13.50	散在	F18, 横2, RF2, UF2, N2, F11, F12, C16, 横7	新10, 横標地4, 黄玉3, 新石1:	新石器
128	宮ヶ瀬 サザランケ	BIL	V	5900	3	1.0×3.0	179	14.82	散在	F11, F13, RF2, UF2, N2, F11, C16, 横3	横標地6, 黄55, 黄43, 黄15, 黄45, 黄46, 黄47, 舟1, 配石1:	新石器
128	宮ヶ瀬 サザランケ		V	5900	4	2.0×2.0	77	19.25	散在	UF2, F19, C15, 横1	散標地27	
207	北川表のト	L1S L1H N1H		15000	1号 ムニット	1.3×1.3	7	4.14	散在コア 12面中2 mm以下	横1, 横1, 刃片1, 剥・削 横1	理寶1, 緑色海波1:	
207	北川表の上	L1H - 中 SI		15000	2号 ムニット	6×6	39	1.66	2号に 分かれて 集中	横41, UF3, RF1, 沖縄1, 削1, ナ1, 横37	当標地は世界 遺産「リス	
207	北川表の上	L1H - 中 SI		15000	3号 ムニット	7×4	21	L1S2	2号に 分かれて 集中	UF4, RF4, 刃片30	リスは相模 野の世界遺産 を含んだ土壌 に分布	
207	北川表の上	L1H - 中 SI		15000	4号 ムニット	7.3×4.7	134	1.39	2号に 分かれて 集中 比較的規 則よく 分布する 中心	横41, UF11, RF6, U1, N1, ナ1, ナ1, ナ1, ナ1, 横37, 削1, 刃片37	リスは相 模野の世界 遺産を含んだ 土壌に分布	
207	北川表の上	L1H - 中 SI		15000	5号 ムニット	4.0×3.7	10	1.48	2号に 分かれて 集中	横2, 横2, UF1, 横1, 削1, ナ1, 刃片4	リスは相 模野の世界 遺産を含んだ 土壌に分布	
207	北川表の上	L1H - 中 SI		15000	6号 ムニット	1.2×1.5	18	1.0	2号に 分かれて 集中 比較的大 きな分布	横1, 刃片1, ナ1, 刃片18	リスは相 模野の世界 遺産を含んだ 土壌に分布	
20	東原中丸	B1半ば	V	12000	1	2.0×2.4	29	4.39	散在	ナ1, RF1, UF3, N2, F14, C12, 横1, 横2	横標地23, 散寶2, 黄3, 不明1	1号標
20	東原中丸	B1半ば	V	12000	2	4.0×3.2	114	7.74	やや密集	ナ10, 横1, RF7, UF1, N2, F11, F12, C16	横標地24, 散寶2, 黄3, 不明1	2号標
20	東原中丸	B1半ば	V	12000	3	3.0×3.6	85	6.58	やや密集	ナ2, 横1, UF4, N11, F11, F12, C16	横標地25, 散寶2, 黄3, 不明1, 横1, 不明1	3号標
20	東原中丸	B1半ば	V	12000	4	4.0×3.5	44	2.62	散在	ナ3, 横4, 横1, F25, C11	横標地26, 散寶2, 黄3, 不明1	4号標
20	東原中丸	B1半ば	V	12000	5	3.0×2.4	34	4.72	散在	+2, RF1, UF1, N1, 横1, 横3, F7, C18	横標地27, 散寶5	
20	東原中丸	B1半ば	V	12000	6	3.0×2.4	22	2.86	散在	ナ2, 万2, F8, C9	横標地28, 散寶1, 黄3, 不明1	5号標
20	東原中丸	B1半ば	V	12000	7	1.0×1.5	3	1.35	散在	万1, F2	第3	
20	東原中丸	H1半ば	V	12000	8	2.0×2.4	6	1.04	散在	UF2, F2, C2	横標地29, 散寶1, 黄3, 不明1	6号標
20	東原中丸	B1半ば	V	12000	9	1.0×1.2	14	0.33	中央密集	ナ1, F3, C10	横標地30, 散寶1	
20	東原中丸	B1半ば	V	12000	10	4.0×2.0	10	1.25	散在	UF1, 万2, F5, C1, 横1	横標地31, 散寶1, 第2	7号標

旧石器時代研究プロジェクトチーム

No.	遺跡名	出土層位	文化層	測量面積 (m)	各面積%	分査範囲 (m)	石器点数	分布密度	分布状態	器種組成	石材组成	其伴遺物
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	11	3.0×2.0	29	4.87	散在	UF2、M3、F11、C12	破片類2、駒頭1、葉玉1、基1、不明2	
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	12	3.2×2.0	35	8.33	中央密集	+7、UF2、M1、F3R、C4S	破片類9、駒頭10、葉玉4、駒頭1、不明2	
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	13	3.2×2.0	19	2.97	散在	+1、駒1、UF1、M2、F9、C5	駒頭6、駒頭6、葉玉3、葉玉1、不明1	12号櫛形
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	14a	4.8×3.6	72	4.17	散在	+15、RF5、UF2、M10、F15、C5S	駒43、不明、破片類5、葉玉4、不明1	11号櫛形
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	14b	2.0×2.0	9	2.25	散在	M2、駒1、F8、C1	破片類8、駒1	11号櫛形
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	15	4.0×3.2	140	16.44	散在	+5、RF1、UF2、M4、F4、C12	破片類20、駒22、葉玉13、葉玉5、駒1、葉玉1、不明1	
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	16a	3.2×2.4	32	3.91	散在	+6、駒3、UF2、UF1、M9、F11、C5S	駒29、破片類9、駒頭11、葉玉1、不明1、M1	9号櫛形
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	16b	3.6×2.2	9	0.78	非常に 散在	+3、駒1、UF1、F2、C2	駒6、破片類3	
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	17	6.0×4.8	114	3.90	散在	+11、駒2、RF1、UF1、M9、F11、C8S	駒65、破片類25、葉3、手2、駒頭1、散在1	10号櫛形
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	18	—	—	—	—	—	—	非常弱、尚 未発見なし
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	19	—	1	—	单件出土	M11	破片類1	13号櫛形
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	20	8.0×2.0	5	0.31	非常に 散在	UF1、F4	葉3、沙1、駒頭1	37号櫛形
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	21	3.6×2.8	12	3.18	散在	+1、RF1、UF2、M2、F2、C3	駒2、駒2、破片類1、 不明1	36号櫛形
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	22	4.0×3.6	67	4.85	散在	+11、駒1、RF3、UF2、M2、F2、C4S	駒43、破片類14、駒頭4、 手1、葉玉1、不明1	
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	23	4.6×1.6	13	1.85	散在	+1、M1、F8、C3	破片類6、葉5、手1、 散在1	36号櫛形
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	24	5.2×4.0	295	14.13	散在	+12、M1、RF2、M2、F3L、C28	破片類24、葉1	22号櫛形
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	25	2.6×3.6	71	2.40	散在	+3、RF1、UF5、M13、C6	破片類6、葉11、葉2、 葉1、不明2	
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	26	4.4×4.0	117	8.65	中央密集	+3、RF3、M8、駒1、F2、 C6S	破片類5、葉18、葉9、 葉13、葉1、葉1、不明1	16号櫛形
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	27	3.6×3.0	129	11.94	密集	+11、RF4、UF1、M10、F11、 C7S	駒44、葉44、破片類38、 葉玉2、不明1	
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	28a	3.2×2.0	37	3.78	中央散在	+3、M4、駒2、F2、C10	破片類21、葉14、葉2	
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	28b	3.6×3.0	99	3.77	散在	+2、RF3、UF4、M6、M2、 F9、C8、駒1	破片類20、葉1、 不明1	15号櫛形
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	28c	1.6×1.6	17	7.29	中央密集	+2、M3、F4、C8	葉11、破片類4、葉1、 不明1	
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	29d	2.4×1.4	6	1.79	散在	+2、F3、C1	葉3、破片類3	
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	29	3.6×2.4	21	2.43	散在	+2、駒1、M2、駒1、F3、 C10、土2	破片類6、葉4、葉1	
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	30	4.0×2.7	23	2.13	散在	+3、UF3、M1、F5、C11	破片類6、葉4、葉2、 方穿1	17号櫛形
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	31	4.0×2.5	56	8.80	中央散在	+2、駒1、UF2、M2、駒1、 F10、C36	破片類14、葉14、葉4、 葉2、不明1	16号櫛形
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	32	5.6×3.0	26	3.29	散在	+2、M1、M1、M1、F9、C12	破片類5、葉1、葉3	19号櫛形
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	33	2.4×2.0	56	11.87	散在	H4、F7、C4S	破片類6、葉38、葉7、 不明8	
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	34	4.0×2.8	36	5.00	中央散在	+7、RF1、UF5、M3、M1、 F10、C20	破片類6、葉11、葉10	
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	35a	2.8×1.6	17	3.79	散在	+1、駒1、RF2、UF1、M1、 F5、C6	葉1、葉1、駒頭6、葉玉1、 葉玉2、駒頭6、葉玉1、 駒頭1、小字2	20号櫛形
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	35b	4.8×4.0	77	4.81	散在	+5、駒1、M2、RF1、UF3、 M10、駒1、F23、C10	駒44、葉1、駒頭1、 葉17、C29	
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	36	6.0×3.0	52	2.98	散在	F11、M1、M2、駒1、F17、 C29	葉44、葉17、葉1	
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	37	6.4×4.4	165	5.95	中央散在	+11、UF2、M22、駒1、F48、 C10S	葉33、葉16、葉2、 不明4	21号櫛形
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	38	4.6×4.0	14	0.55	散在	M2、M2、RF2、M4、F7	葉33、葉16、葉2、 不明2	
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	39	4.0×2.0	66	5.87	中央散在	+6、M2、RF1、UF1、M7、 F10、C26	葉1、葉1、駒頭6、葉1、 葉玉1、不明1	
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	40a	3.2×2.0	16	2.39	散在	+2、M2、M4、F4、C3	葉33、葉1、駒頭6、葉1、 葉玉1、葉玉1、不明1	22号櫛形
70	東山中丸	B1半ば	V	12000	40b	5.6×3.2	31	1.75	散在	+3、M1、UF3、M6、M15、 C3	葉33、葉1、駒頭6、葉1、 葉玉2、葉玉1、不明1	23号櫛形

神奈川県における旧石器時代の遺物分布（その4）

No.	遺跡名	出土場所	文化層	調査面積 (m ²)	各面積中 分佈範囲 (m)	石器点数	分布密度	分布状態	調査結果	石器遺物	年代推定	
70	瀬戸中丸	B1半ば	V	12000	40±	4.0×3.6	87	6.04	点状散在	ナ1. ハ1. UF3. 納4. 框3. F20. C43	後期縄4. 京17. 銀河縄14. 番12. 不明1	2号縄群
70	瀬戸中丸	B1半ば	V	12000	40±	3.2×1.6	19	3.71	散在	ナ1. ハ1. RF1. UF1. 納3. F8. C4	後期縄11. 銀河縄5. 銀河縄14. 番11. 不明2	2号縄群
70	瀬戸中丸	B1半ば	V	12000	41	4.6×3.0	92	6.91	点状散在	ナ1. ハ1. RF1. UF2. 納2. M2. F10. C36	後期縄42. 銀河縄18. 番7. 番6. 銀河縄4. 銀河縄2. 番31. 不明2	2号縄群
70	瀬戸中丸	B1半ば	V	12000	42	3.8×3.2	281	25.26	密集	ナ1. ハ1. UF2. 納3. F34. C246	後期縄42. 銀河縄18. 番7. 番6. 銀河縄4. 銀河縄2. 番31. 不明2	2号縄群
70	瀬戸中丸	B1半ば	V	12000	43	6.4×5.2	77	2.13	散在	ナ1. UF2. 納9. 納2. F34. C29	後期縄40. 銀河縄4. 銀河縄2. 中縄1. 不明2	26~27号縄群
70	瀬戸中丸	B1半ば	V	12000	44	6.0×2.4	13	0.90	点状散在	ナ1. 番3. F1. C2	後期縄9. 銀河縄2. 番2. 番1.	3号縄群
70	瀬戸中丸	B1半ば	V	12000	45	4.5×4.6	134	6.98	点状散在	ナ9. ハ1. ハ2. RF1. UF3. 納7. M11. 納1. F25. C34. 番1	後期縄19. 番33. 番2. 番1. ハ1. 番1.1. 不明1	28号縄群
70	瀬戸中丸	B1半ば	V	12000	46	4.2×3.6	212	14.62	密集	ナ2. ハ1. UF2. 納3. F34. C110. C4	後期縄72. 番20. 番3. 小2. 番2. 番1.2. 不明11	29号縄群
70	瀬戸中丸	B1半ば	V	12000	47	6.0×2.4	21	1.46	散在	ナ2. ハ1. UF1. 番1. 框1. F9. C6	後期縄13. 番3. 番1. 小1. 番1. 番1. 不明1	30号縄群
70	瀬戸中丸	B1半ば	V	12000	48	6.3×6.0	18	0.89	点状散在	ナ2. ハ1. 番1. F2. C3	後期縄8. 番2. 番1. 番1. 番1. 番1. 小1	31号縄群
70	瀬戸中丸	B1半ば	V	12000	49	4.4×2.4	24	2.27	散在	ナ1. ハ1. F3. C3	後期縄7. 不明1	
70	瀬戸中丸	B1半ば	V	12000	50	2.0×2.0	8	2.00	散在	ナ1. ハ1. F3. C3	後期縄7. 不明1	
70	瀬戸中丸	B1半ば	V	12000	51	4.0×1.0	4	1.00	散在	F2. C2	後期縄1. 小1	
70	瀬戸中丸	B1半ば	V	12000	52	1.2×1.2	2	1.00	散在	C2	後期縄2	
70	瀬戸中丸	B1半ば	V	12000	53	2.4×0.4	4	1.39	散在	F4	後期縄4	
70	瀬戸中丸	B1半ば	V	12000	54	1.0×1.0	3	3.00	散在	F1. F2	後期縄3	
70	瀬戸中丸	B1半ば	V	12000	55	1.4×1.0	5	3.37	散在	UF2. M2. C1	後2. 後縄2	18号縄群
70	瀬戸中丸	B1半ば	V	12000	56	1.2×1.2	3	2.00	散在	H1. F1. C1	後縄1. 番1. 番1	
332	横山5丁目	B1	H	1000	1	5×2.1	7	0.79	散在	RF1. F6	—	1号縄群
332	横山5丁目	B1	H	1000	2	6.5×1.4	10	1.09	散在	RF1. F9	—	
332	横山5丁目	B1	H	1000	3	5.2×2.8	56	3.85	凸レシノ 状	+9. RF6. UF6. F35	—	2号縄群
332	横山5丁目	B1	H	1000	4	4×4	25	1.36	散在	F5. RF2. 框1. F17	—	
332	横山5丁目	B1	H	1000	5	5.8×5	145	5.03	散在	ナ9. RF8. UF3. 納2. F12. — 不透視1	—	
332	横山5丁目	B1	H	1000	6	3×3	9	1.00	散在	F1. F8	—	
332	横山5丁目	B1	H	1000	7	3×1.6	25	5.20	中心地帯中	/ナ7.1. RF2. F22	—	
332	横山5丁目	B1	H	1000	8	2×2	22	5.50	点状散在	ナ3. RF4. F12	—	3号縄群
332	横山5丁目	B1	H	1000	9	1.8×1.8	6	1.23	散在	F4	—	4号縄群
332	横山5丁目	B1	H	1000	10	5.4×5	56	2.30	凸レシノ 状	ナ3. 番6. RF5. UF2. 框3. — 番6. 番7	—	5号縄群
332	横山5丁目	L1H	H	1000	11	2.5×1.7	5	1.18	散在	ナ1. RF3. F1	—	7号縄群
332	横山5丁目	B1	H	1000	12	4.2×3.3	6	0.45	散在	ナ1. ハ1. RF1. UF2. F1	—	8号縄群
332	横山5丁目	B1 F面	H	1000	13	1.8×1.3	8	3.42	散在内 シテ状	RF1. F7	—	9号縄群
332	横山5丁目	H1	H	1000	14	3.9×1.2	56	11.75	凸レシノ 状	ナ4. 番2. RF4. UF2. F6	—	10~12号縄群
332	横山5丁目	B1	H	1000	15	5.8×4.4	19	0.99	点状散在	ナ2. RF1. 番2. F5	—	
332	横山5丁目	B1	H	1000	16	7.2×3.8	47	1.72	点状散在	ナ2. 番1. RF5. F12. F20	—	13号縄群
332	横山5丁目	B1 下部～ L2～上部	H	1000	17	4.2×4.2	41	2.32	凸レシノ 状	ナ2. 番1. RF1. RF4. UF1. F20	—	15号縄群
61	田毛福岡山地区	B1 下部～ L2～上部	H	347	—	4.5×3	4	0.30	散在	ナ2. F2	番2. 番1. ハ1	縄群
299	当神丸所	L2下部	H	1	4.5×3.3	49	3.23	集中	ナ3. RF3. UF1. 番3. F30	番12.6		

旧石器時代研究プロジェクトチーム

No.	遺跡名	出土地点	文化層	測量面積 (a)	各面積(m ²)	分布範囲(m)	G面積(枚)	分布密度	分布形態	遺物組成	石材調査	著作資料
216	下森遺跡	B1下部	Ⅲ		1.0	1.6×0.6	16	10.11	細粒一分散	F39	手18	
216	下森遺跡	B1下部	Ⅲ		2.0	4.4×2.3	53	5.21	中大密度 集中	手12, RF1, 桿1, F39	手1, 線1, 線20, 線1	
216	下森遺跡	B1下部	Ⅲ		3.0	1.5×1.3	21	12.31	中大密度 集中	手1, F23	手21, 線1, 線2	
216	下森遺跡	B1下部	Ⅲ		1.0	2.5×1.5	12	3.26	中大密度 集中	手1, 手1, 線2, F9	線8, 手1, 線2, 線1	
216	下森遺跡	B1下部	Ⅲ		5.0	4.4×2	17	1.95	—	手1, 線1, 線2, F12	手16, 線1	
216	下森遺跡	B1下部	Ⅲ		6.0	3.1×3.1	33	2.06	中大密度 集中	去2, 線1, 桿1, RF2, UF1, 線2, F21	手7, 手18, 線6, 線1, F1	参考資料
216	下森遺跡	B1下部	Ⅲ		7.0	1.8×1.4	12	4.76	小規模	UF1, 桿2, F9	手11, 線1	
216	下森遺跡	B1下部	Ⅲ		8.0	4.1×2.4	29	2.92	中大密度 集中	手2, 線1, 桿1, RF1, UF1, 線2, F21	手16, 線1, 線2, 手1, F15, 他5	参考資料
216	下森遺跡	B1下部	Ⅲ		9.0	1.5×1.2	16	0.99	小規模	去2, 線1, 桿1, F1	手11, 線1, 線2	参考資料
216	下森遺跡	B1下部	Ⅲ		10.0	2.5×0.7	11	0.29	細粒一分散	手1, 線1, UF1, F8	線5, 手3, 線1, 実1, F1	参考資料
216	下森遺跡	B1下部	Ⅲ		11.0	3.2×2	13	2.60	—	RF2, UF1, 桿1, 線1, F6	手3, 線2, 線2, 線3, F1	
216	下森遺跡	B1下部	Ⅲ		12.0	2.6×0.9	10	1.97	細粒一分散	手1, 線1, 桿1, UF1, 桿1, F1	手2, 線1, 線2, 線3, F1	
216	下森遺跡	B1下部	Ⅲ		13.0	6.3×4.8	111	3.67	中大密度 集中	手2, 手12, 線1, RF2, UF2, 線8, 線1, F90	手68, 線17, 線3, 実9, F2, 線11, 他1	
216	下森遺跡	B1下部	Ⅲ		14.0	4.2×3.3	25	1.60	—	手4, RF1, UF1, 桿1, 線1, F17	手2, 線1, 線2, 線3, F1	
216	下森遺跡	B1下部	Ⅲ		15.0	3.2×1.5	31	0.68	細粒一分散	去2, F29	線2, 手28, 線1	
216	下森遺跡	B1下部	Ⅲ		16.0	2.4×1	9	1.29	部分的分佈	手2, 線1, 桿1, F3	手3, 線5, 線1	
68	中村(C遺跡)	B1上～B2下	V	E380	1	4.8×1.5	10	0.46	—	手2, 線1, UF1, 桿1, F4	線3, 実5, 手1, 線1,	
68	中村(C遺跡)	L1S1～ H1上	V	E380	2	8.5×4.6	33	0.94	數値	F4, UF2, 桿1, 線3, F22	線1, 実1, 実20, 手10, F1	参考資料
68	中村(C遺跡)	L1H	V	E380	3	3.6×1.5	2	0.44	小規模	刀2	手1, 線1	
68	中村(C遺跡)	B1中～L2	V	E380	4	1.5×0.8	2	1.07	小規模	手1, F1	手1, 線1	
68	中村(C遺跡)	L1S1～ H2U	V	E380	5	7.5×1	155	3.17	一部集中	手20, 線1, UF9, 桿1, 線9, F59	手2, 線2, 線3, 線4, F52, 線52, 線53	
68	中村(C遺跡)	B2上～L2	V	E380	6	4.2×2.1	30	4.41	細粒一分散	手11, 実1, RF1, UF3, 桿1, F23	手2, 実3, 線4, 線5, F17	
68	中村(C遺跡)	L1S1～ L2E	V	E380	7	6.7×1.6	122	3.94	細粒一分散	手12, 線2, UF8, H4, H28, F 68	手2, 手11, 線20, 線21, F49, 他2	
68	中村(C遺跡)	B1	V	E380	8	1.5×1.5	5	2.22	數値	月1, F4	手1, 線1	
68	中村(C遺跡)	L1S1～ H2L	V	E380	9	6.5×5.5	292	3.62	塊状形	手11, 線1, UF1, 桿1, 線9, F30	手6, 実14, 線15, 線16, F14	
68	中村(C遺跡)	B2上～I	V	E380	10	6.0×3.7	67	3.96	數値	手2, F12, RF9, 桿1, 線1, F54	手4, 線2, 線3, 線4, F15	
68	中村(C遺跡)	L1H1～ B1上	V	E380	11	3.5×2.2	19	2.47	數値	手1, UF4, 桿1, 線1, F5	手4, 線1, 細粒化, 線 5	
68	中村(C遺跡)	L1S1T～ B2U	V	E380	12	6.5×4.8	263	12.38	細粒一分散	手2, 手12, 線2, 桿1, UF4, F77, 桿2, F61, F29	手10, 実16, 線22, 細粒 2, 線2, 線3, 実14, 線22, F62, 線23, 実1, 線1	
68	中村(C遺跡)	L1H1T～ B1上	V	E380	13	3.0×1.0	5	1.61	數値	UF1, 月1, F3	手1, 実1, 細粒化	
68	中村(C遺跡)	L1H	V	E380	14	—	3	—	小規模	手1, 月1, F1	手2, 細粒化	
68	中村(C遺跡)	L1H1T～ B1F	V	E380	15	5.5×4.5	22	0.99	塊状一分散	F3, 桿3, H3, F13	手2, 実6, 細粒化, 線1, F1	
68	中村(C遺跡)	L1H1T～ L2F	V	E380	16	2×1.2	7	2.92	小規模一分散	手1, 月1, F3	細粒化, 線2, 線3, F1	
68	中村(C遺跡)	L1H1P～ L2T	V	E380	17	1.4×3.0	31	1.08	數値	+3, MF2, UF3, 桿2, 線3, F6	手1, 実12, 細粒化, 線7, F6	
68	中村(C遺跡)	L1H1P～ L2T	V	E380	18	2.5×2.2	6	1.09	塊状形數値	F6	手1, 実2, 線3	
68	中村(C遺跡)	L1H1P～ L2T	V	E380	19	5.0×2.0	32	1.31	細粒一分散	手6, 月1, RF1, L1F2, 桿1, F9, F22	手1, 実9, MF2, 細粒化3, F4	

神奈川県における旧石器時代の遺物分布（その4）

旧石器時代研究プロジェクトチーム

No.	遺跡名	出土箇所	文化層	測量面積 (m ²)	各層面積 (m ²)	分布面積 (m ²)	石器点数	分布密度 (点/m ²)	分布状況	堆积構成	石材組成	貝殻類
76	下越原平一号	B1L～ L2U	N	900	1	7.0×5.0	8	2.51	集中	鈍、ナ、刃、RF、UF、剝片類、 石刀、石刀状剥片、打削調整剥片、 石核、碎石	安山岩、チ、輪田岩、鳥羽、 鹿島、砂岩、ハンレイ岩	鷺群2
76	下越原平一號	B1L～ L2U	N	900	2	8.0×5.0	58	1.45		ナ2、刃2、石刀2、RF1、UF1、 打削調整剥片2、RF4、UF3		
76	下越原平二号	B1L～ L2U	N	900	3	5.0×4.0	19	0.95		ナ1、刃2、石刀2、RF1、UF1、 核1		
76	下越原平二號	B1L～ L2U	N	900	4	6.0×3.0	27	1.00		ナ2、刃4、石刀狀2、RF1、 核3	黑色風化、ガウス質結石	
88	鹿児嶺御山	H1U	■	275	1A	1.0×2.0	8	1.09	散在	刃1、RF1、核1	ガラス、海綿層1、灰1、 砾砂1	
88	鹿児嶺御山	B1L	■	275	1	3.5×2.1	30	4.08	散在	袖1、ナ2、F1	黑36	鷺群1
88	鹿児嶺御山	B1L	■	275	2	4.0×1.2	2	0.61	散在	袖1、F1	黑2	鷺群2
88	鹿児嶺御山	B1L	■	275	3	6.2×3.3	36	1.75	散在	袖2、核2、海綿層1、石刀2、 RF2、UF2、UV2、F22	黑36	鷺群1
88	鹿児嶺御山	H1L	■	275	4	6.0×3.0	3	0.11	散在	RF2、F1	黑2	鷺群1
88	鹿児嶺御山	B1L	■	275	5	1.5×1.2	24	10.60	密集	ナ2L、F3	黑24	鷺群2
88	鹿児嶺御山	H1L	■	275	6	1.8×1.8	6	1.85		ナ6	黑6	
88	鹿児嶺御山	H1L	■	275	7	9.7×3.1	19	1.07		GR3、ナ3、RF31、F12	黑15	
88	鹿児嶺御山	H1L	■	275	8	2.6×2.5	31	3.44	散在	F31	黑31	
88	鹿児嶺御山	B1L	■	275	9	2.0×2.8	16	1.99		ナ5、UF1、F10		
88	鹿児嶺御山	B1L～L2	N	275	1	6.0×5.0	90	1.73		ナ2R、ヌ2、袖1、袖3、RF2、 GR36、石核3	黑9	
88	鹿児嶺御山	B1L～L2	N	275	2	4.5×2.2				ナ、石刀		
88	鹿児嶺御山	B1L～L2	N	275	3	2.6×2.5				F		
89	鹿児神社南	B1U	■	275	1	1.8×1.1						黒化物質のみ
88	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	N	11,736	1	2.2×1.2	40	18.15	集中	尖1、ビニール、F28	黒1、チ1	
88	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	N	11,736	2	2.8×3.0	10	1.79	散在	尖1、F2、UF6、核1	黒1、チ3	
88	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	N	11,736	3	3.0×2.5	35	2.20	集中	ナ1、尖1、F21、核2	チ1、ヌ3、袖2	
88	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	N	11,736	4	1.3×1.3	9	5.33	集中	UF1、F2	チ1、ヌ1、尖1、袖1	鷺群3
88	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	N	11,736	5	4.0×3.6	39	1.25	散在	尖1、袖2、UF1、F13、核2	チ1、袖3	
88	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	N	11,736	6	2.0×1.1	5	1.50	散在	F3		
88	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	N	11,736	7	6.0×4.4	337	12.77	散在	尖1、石刀1、UF2、F28	黒1、チ1、ヌ3、袖7	
88	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	N	11,736	8	1.0×3.6	60	4.17	散在	尖1、石刀1、石刀2、UF1、 F16	黒1、ヌ1、UF2、核1	
88	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	N	11,736	9	4.5×4.4	358	17.42	密集	袖2、尖1、UF2、F36、核4	黒5、ヌ31、袖1、袖3	
88	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	N	11,736	10	6.4×4.0	741	34.30	散在	尖15、ナ3、袖1、RF2、UF6、 F46、UF3	黒99、チ8、ヌ60、袖1	
88	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	N	11,736	11	4.5×3.4	481	29.48	集中	ナ3、チ1、RF2、UF6、 F46、UF3	黒17、チ1、ヌ60、袖2	
88	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	N	11,736	12	4.0×6.4	4	2.56	散在	F4		
88	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	N	11,736	13	1.2×6.7	5	3.91	散在	F6		
88	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	N	11,736	14	1.6×6.4	5	7.81	散在	UF1、F4	チ1、袖1	

神奈川県における旧石器時代の遺物分布（その4）

No.	遺跡名	出土層位	文化期	調査面積 (m ²)	各集中%	分布面積 (m)	心器点数	分布密度	分布状態	堆积構成	石材組成	其他の情報
81	月見野遺跡群 上野遺跡一地点	L1S～B1U	IV	11,736	15	0.6×0.5	3	12.00	散在	F3		
82	月見野遺跡群 上野遺跡一地点	L1S～B1U	IV	11,736	16	2.2×1.0	17	7.75	散在	文1、シ15、残1	馬1、鶴4	
83	月見野遺跡群 上野遺跡一地点	L1S～B1U	IV	11,736	17	5.8×4.6	106	6.11	集中	文1、扇1、UF5、F96、 残1	馬13、少16	櫛標2
84	月見野遺跡群 上野遺跡一地点	L1S～B1U	IV	11,736	18	3.2×1.6	10	1.85	散在	UF1、F9	鶴1	
85	月見野遺跡群 上野遺跡一地点	L1S～B1U	IV	11,736	19	7.8×5.6	616	14.10	密集	安4、シ1、扇1、石刀1、UF4、 UF16、F98	馬40、少11、文1、鶴1、 沙1	
86	月見野遺跡群 上野遺跡一地点	L1S～B1U	IV	11,736	20	4.4×3.6	345	21.28	散在	安4、扇1、石刀2、UF3、UF2、 F22、残1	馬5、シ1、点14、櫛2	
87	月見野遺跡群 上野遺跡一地点	L1S～B1U	IV	11,736	21	4.4×3.4	29	1.34	散在	文2、ナ1、UF1、UF1、F15	馬4、櫛2	
88	月見野遺跡群 上野遺跡一地点	L1S～B1U	IV	11,736	22	5.8×4.0	102	4.55	散在	安3、UF3、F96	馬2、文5	
89	月見野遺跡群 上野遺跡一地点	L1S～B1U	IV	11,736	23	2.6×2.1	23	3.39	散在	ナ1、F22	馬1	
90	月見野遺跡群 上野遺跡一地点	L1S～B1U	IV	11,736	24	1.6×0.8	5	0.91	散在	ナ1、F4	文1	
91	月見野遺跡群 上野遺跡一地点	L1S～B1U	IV	11,736	25	4.4×4.0	16	0.91	散在	UF1、F15	櫛1	
92	月見野遺跡群 上野遺跡一地点	L1S～B1U	IV	11,736	26	2.8×2.4	7	1.04	散在	F7		
93	月見野遺跡群 上野遺跡一地点	L1S～B1U	IV	11,736	27	5.8×2.4	19	1.58	散在	安2、F17	馬2、文1	
94	月見野遺跡群 上野遺跡一地点	L1S～B1U	IV	11,736	28	5.4×3.4	2	0.61	散在	UF1、F1	櫛1	
95	月見野遺跡群 上野遺跡一地点	L1S～B1U	IV	11,736	29	2.4×1.1	5	2.08	散在	F5		
96	月見野遺跡群 上野遺跡一地点	L1S～B1U	IV	11,736	30	1.8×0.8	4	6.67	散在	F4		
97	月見野遺跡群 上野遺跡一地点	L1S～B1U	IV	11,736	31	5.8×4.4	184	7.47	密集	安7、ナ2、UF2、UF2、F 17	馬1、ナ17、文2、櫛2、 沙6	
98	月見野遺跡群 上野遺跡一地点	L1S～B1U	IV	11,736	32	1.1×0.3	2	0.09	散在	文1、ナ1、F1	馬1、文1	
99	月見野遺跡群 上野遺跡一地点	L1S～B1U	IV	11,736	33	5.1×4.6	11	0.45	散在	安3、F8	文3	
100	月見野遺跡群 上野遺跡一地点	L1S～B1U	IV	11,736	34	5.0×3.6	11	0.61	散在	F11		
101	月見野遺跡群 上野遺跡一地点	L1S～B1U	IV	11,736	35	2.6×1.0	3	1.50	散在	F3		
102	月見野遺跡群 上野遺跡一地点	L1S～B1U	IV	11,736	36	2.4×1.0	9	1.00	散在	文3、F6	文3	
103	月見野遺跡群 上野遺跡一地点	L1S～B1U	IV	11,736	37	3.6×2.0	13	1.81	散在	ナ1、G刀2、F10	文3、砂1	
104	月見野遺跡群 上野遺跡一地点	B1L～L2	V	11,736	1	3.6×2.6	5	0.89	散在	ナ1、UF2、F2	馬1、櫛1、ナ1	
105	月見野遺跡群 上野遺跡一地点	B1L～L2	V	11,736	2	2.8×1.0	5	2.50	散在	F5		
106	月見野遺跡群 上野遺跡一地点	B1L～L2	V	11,736	3	5.0×2.3	15	1.88	散在	ナ1、F12	ナ1	
107	月見野遺跡群 上野遺跡一地点	B1L～L2	V	11,736	4	3.5×2.4	6	0.60	散在	F5		
108	月見野遺跡群 上野遺跡一地点	B1L～L2	V	11,736	5	3.5×2.0	19	2.00	集中	F10、残1	文、櫛	
109	月見野遺跡群 上野遺跡一地点	B1L～L2	V	11,736	6	3.6×3.4	79	5.72	集中	ナ5、残1、石刀1、ハンマー2、 UF5、F53、石核3	ナ12、櫛4、砂5、櫛2	
110	月見野遺跡群 上野遺跡一地点	B1L～L2	V	11,736	7	3.2×2.0	4	0.83	散在		櫛1	
111	月見野遺跡群 上野遺跡一地点	B1L～L2	V	11,736	8	2.0×1.8	9	2.50	散在	ナ1	ナ3	
112	月見野遺跡群 上野遺跡一地点	B1L～L2	V	11,736	9	1.5×1.0	3	2.00	散在			
113	月見野遺跡群 上野遺跡一地点	B1L～L2	V	11,736	10	6.6×4.0	8	0.33	散在	ナ2、UF1	ナ4	
114	月見野遺跡群 上野遺跡一地点	B1L～L2	V	11,736	11	4.9×1.2	4	0.76	散在	F4		
115	月見野遺跡群 上野遺跡一地点	B1L～L2	V	11,736	12	1.6×1.2	6	3.13	散在	ナ1、F5	馬9、ナ4	

旧石器時代研究プロジェクトチーム

No.	遺跡名	出土層位	文化層	測定面積 (m ²)	各面積 (m ²)	分布範囲 (m)	石器点数	分布密度	分類状態	器種組成	石材組成	其の道徳
81	貝見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L~L2	V	11,736	13	0.5×0.5	2	8	散在	F2		
82	貝見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L~L2	V	11,736	14	2.0×1.2	7	2.92	散在	UF3, F4	第2, 第2	
83	貝見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L~L2	V	11,736	15	5.2×1.6	112	4.49	集中	F6, F11, G61, UF2, F27	第4, 第8, 第9	
84	貝見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L~L2	V	11,736	16	3.0×2.4	4	6.66	散在	UF3, F4	第2, 第2	
85	貝見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L~L2	V	11,736	17	4.0×3.1	18	1.45	集中	W6, W1, RF2, CT1, F13	第1, 第1, 第2	標記3
86	貝見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L~L2	V	11,736	18	2.0×1.0	12	6	集中	F12		
87	貝見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L~L2	V	11,736	19	2.0×1.0	3	1.5	散在	F3		
88	貝見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L~L2	V	11,736	20	1.7×1.4	4	1.88	散在	W1, F3	第1	
89	貝見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L~L2	V	11,736	21	5.1×4.7	91	3.8	集中	W6, RF1, UF6, F75, G61	第1, 第1	
90	貝見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L~L2	V	11,736	22	5.4×2.6	81	3.55	集中	W9, W1, ノツチ1, RF1, UF4, F84, 桃1	第5, 第21, 第1	
91	貝見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L~L2	V	11,736	23	6.5×5.0	46	1.46	散在	F2, W1, ノツチ1, RF1, UF5, F30	第3, 第10, 第1	
92	貝見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L~L2	V	11,736	24	6.0×3.3	13	0.79	散在	W8, RF1, UF6, F75, G61	第2, 第4, 第1	
93	貝見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L~L2	V	11,736	25	2.4×2.0	5	1.04	散在	UF1, F4	第1	
94	貝見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L~L2	V	11,736	26	4.4×3.2	9	0.64	散在	W1, UF1, F7	第1	
95	貝見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L~L2	V	11,736	27	5.9×3.6	33	1.47	集中	W2, ノツチ1, UF4, F23, 桃2	第29	標記1
96	貝見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L~L2	V	11,736	28	1.8×1.2	4	1.85	散在	F4		
97	貝見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L~L2	V	11,736	29	2.4×2.9	31	3.11	散在	W2, RF1, W10, F22	第7	
98	貝見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L~L2	V	11,736	30	6.8×4.6	75	3.22	集中	W10, RF1, UF5, F52, 桃2	第10, 第15, 第1	
99	貝見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L~L2	V	11,736	31	4.7×3.8	266	11.20	密集	W3, 桃1, ハンダ1, W11, RF3, UF11, F185, 桃2	第21, 第1, 第1	
100	貝見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L~L2	V	11,736	32	2.0×4.7	45	1.91	散在	F7, W1, ノツチ1, F36	第1, 第7, 第2, 第1	
101	貝見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L~L2	V	11,736	33	2.9×1.8	6	1.45	散在	UF2, F3, 桃3	第4, 第2	
102	貝見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L~L2	V	11,736	34	6.0×2.4	13	1.35	散在	G21, F16, 桃1	第2	
103	貝見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L~L2	V	11,736	35	2.8×2.6	4	0.55	散在	W1, W1, UF1, F1	第3	
104	貝見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L~L2	V	11,736	36	4.8×4.2	41	2.05	散在	W1, F10	第1	
105	貝見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L~L2	V	11,736	37	1.1×3.6	32	2.17	散在	W6, 石刀2, F24	第7, 第1	標記1
106	貝見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L~L2	V	11,736	38	1.9×0.8	3	3.33	散在	F3		
107	貝見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L~L2	V	11,736	39	1.8×1.2	3	1.56	散在	F3		
108	貝見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L~L2	V	11,736	40	2.5×2.2	20	3.64	散在	W1, F19	K1	
109	貝見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L~L2	V	11,736	41	2.8×1.5	5	1.67	散在	W1, ノツチ1, F1, 桃2	第3, 第1	
110	台山	B1U	III	2,962	1	5.7×2.9	30	1.01	+	W5, RF1, F24	第30,	標記1
111	台山	B1U	III	2,962	2	5.8×1.2	106	4.92	+	W1, RF1, UF2, F19, G61	W103, 第1	
112	台山	B1U	III	2,962	3	5.8×1.1	35	2.25	+	W1, UF1, F29, G61	第29, 第3	標記1
113	台山	B1U	III	2,962	4	4.5×2.8	34	2.78	+	W3, RF3, F25	第39	
114	台山	B1U	III	2,962	5	3.7×1.2	92	2.16	+	W5, W93, UF1, F48, G61	W50, 第1	

神奈川県における旧石器時代の遺物分布（その4）

No.	遺跡名	出土場所	文化層	測量面積 (m ²)	各施設名	分査範囲 (m)	石器点数	分査面積	分査状況	登録件数	古材造成	古材遺構
85	長塚北	B1U	V	648	1	5.2×3.5	128	7.00		ビニル1, RPF1, UF3, F13, 桟1		遺跡1
85	長塚北	B1U	V	648	2	4.0×1.5	62	10.20		+ナ1, ナシマ1, UF2, F54, 桟2		
85	長塚北	B1U	V	648	3	1.5×1.2	10	5.50		+ナ1, UF2, F7		
85	長塚北	B1U	V	648	4	2.2×1.6	3	0.85		+ナ2, ナ1		
85	長塚北	B1U	V	648	5	0.5×0.4	2	10.00		+ナ1, F1		
85	長塚北	B1U	V	648	6	1.2×1.0	3	2.50		F2		
85	長塚北	B1U	V	648	7	1.2×1.0	2	1.67		F2		
85	長塚北	B1U	V	648	8	4.0×1.0	2	0.50		+ナ1, ナ1		
85	長塚北	B1U	V	648	9	1.0×0.8	2	2.00		F2		
85	長塚北	L2	V1	648	1	4.2×3.2	13	9.07		+ナ2, P11		遺跡1
85	長塚北	L2	V1	648	2	4.8×4.0	329	17.14		+ナ1, ナ1, RPF5, UF1, F28, 桟1		遺跡2
85	長塚北	L2	V1	648	3	4.5×4.2	47	2.48		+ナ2, RPF1, UF1, F28, 桟3		
85	長塚北	L2	V1	648	4	4.2×3.5	51	3.47		+ナ2, ナ2, RPF3, UF1, F44		
86	F踏面長塚	B1U	II	414	1	4.0×4.0	135	8.43	集中	+ナ1, +ナ2, UF6, F16, 桟1	遺跡2, ナ, 脱, 新	遺跡2
86	下踏面長塚	B1U	II	414	2	10.0×5.0	1,814	20.20	密集	+ナ1, +ナ2, RPF3, UF1, F28, 桟1	遺跡1, ナ, 脱, 面2	遺跡1
86	F踏面長塚	B1U	II	414	3	2.1×0.7	21	14.28	散在	+ナ1	新	
86	下踏面長塚	B1U	II	414	4	11.0×5.9	205	2.90	集中	+ナ1, +ナ2, 桟1, RPF6, UF2, F17	ナ1, ナ, 基, 面	遺跡1
86	下踏面長塚	H1L	II	414	1	4.5×3.5	856	29.20	密集	+ナ2, ナ1, 石刀状F53, 桟7	粘28, 粘29	遺跡1
86	下踏面長塚	H1L	II	414	2	4.0×3.0	191	15.91	散在	+ナ2, ナ1, +ナ2, 基61, 桟1, 桟3	ナ28	遺跡2
86	下踏面長塚	H1L	II	414	3	5.0×4.0	669	33.45	散在	+ナ2, +ナ2, 基2, 基1, 桟1, 桟3	粘49, 粘111	遺跡2
86	F踏面長塚	B1L	II	414	4	2.5×2.0	81	16.20	散在	+ナ2, +ナ1, F47, 桟1	粘24, 粘25	遺跡2
86	下踏面長塚	B1L	II	414	5	5.0×4.0	182	9.00	散在	+ナ2, +ナ1, +ナ2, F109, 桟2	ナ29, 粘22, 基, 新	遺跡3
86	下踏面長塚	B1L	II	414	6	8.0×4.5	215	9.55	散在	+ナ2, +ナ2, 基2, 基1, F202, 桟1	粘26, 粘27, 基, 新, ナ	遺跡2
86	下踏面長塚	B1L	II	414	7	2.5×2.0	367	73.49	密集	+ナ2, +ナ1, F34B, 桟3	粘20, 粘24	遺跡2
86	下踏面長塚	B1L	II	414	8	3.0×2.5	325	43.30	密集	+ナ2, F306, 桟2	ナ29, 粘143	遺跡2
86	F踏面長塚	B1L	II	414	9	5.5×4.5	323	12.05	密集	+ナ2, +ナ2, 基1, 基1, F246, 桟1	粘26, 基, 新	
86	下踏面長塚	B1L	II	414	10	3.5×2.5	234	26.74	密集	+ナ2, +ナ2, 基1, F222	粘31, 黒40, 新, ナ	
86	下踏面長塚	B1L	II	414	11	2.0×2.0	220	53.00	密集	+ナ2, +ナ100, 桟1	粘13, 黑62, 新, 基	
86	下踏面長塚	B1L	II	414	12	6.0×4.0	363	15.12	散在	+ナ2, +ナ1, F344, 桟1	粘39, ナ22, 黒35, 基, 新, ナ	
86	下踏面長塚	B1L	II	414	13	4.0×4.0	449	28.06	密集	+ナ2, +ナ1, ピニン1, F492, 桟2	粘33, 黑40, 黒43, ナ, 新, ナ	
86	下踏面長塚	B1L	II	414	14	3.0×2.0	63	10.20	散在	+ナ2, ピニン1, F49	粘26, ナ, 基, 新, 室	
86	下踏面長塚	B1L	II	414	15	3.0×2.5	97	12.95	散在	+ナ2, +ナ2, F498, 桟2	ナ29, 小21, 基, 新, 面	
86	下踏面長塚	B1L	II	414	16	2.0×2.0	24	8.00	密集	石刀状F4, T, 粘29	粘26	
86	下踏面長塚	L2M	IV	414	1	3.0×2.6	55	7.05	密集	+ナ2, +ナ1, RPF1, 桟1, F59	黒32, 室1, 四脚ヒン剣1	
87	長塚南	B1U	III	4,096	1	6.7×3.4	28	3.42	集中	+ナ2, ピニン1, 桟1, RPF1, UF1, F25	黒24, 基1, 新2, 稲田 貯蔵1	遺跡1
87	長塚南	B1U	III	4,096	2	6.1×3.1	27	1.42	散在	+ナ2, RPF1, F23, 稲田1	黒23, 基2, 室1, 新1	遺跡5
87	長塚南	B1U	III	4,096	3	5.1×3.8	100	5.15	散在	+ナ2, RPF1, 打削溝F11, F12, 桟1	黒24, 基2, 基4, 室1, 稲田貯蔵1, 室1	遺跡3
87	長塚南	B1U	III	4,096	4	0.5×3.5	27	1.45	散在	+ナ2, RPF1, F25	黒25, ナ7	
87	長塚南	B1U	III	4,096	5	1.8×1.8	13	3.00	散在	+ナ2, 桟1	ナ2, 基2, 基2, 新2	
87	長塚南	B1U	III	4,096	6	6.9×4.2	28	1.33	散在	+ナ2, ピニン1, F26, 桟3	黒26, ナ1, 室1, 基1, 稲田 貯蔵1, 室1, 稲田貯蔵1	
87	長塚南	B1U	III	4,096	7	7.5×6.2	56	0.84	散在	+ナ2, ピニン1, F26, 桟3	黒26, ナ1, 室1, 基1, 稲田 貯蔵2, 室2, 新2	遺跡5

旧石器時代研究プロジェクトチーム

No.	遺跡名	出土部位	文化層	測量面積 (m ²)	各集中場	分布面積 (m)	不整点数	分布密度	分布状態	器種統成	不詳箇所	特殊遺物	
87	長崎南	BIU	Ⅲ	4,096	8	4.1×2.2	21	2.44	基1, 壁1, UF1, F16, 桟2, 不明1	基2, ナ3, 壁1, 壁2, 在質10, ナ4, 不明1		壁1	
87	長崎南	BIU	Ⅲ	4,096	9	4.9×3.2	25	1.69	ナ3, F17, 桟1, 不明4	基15, 壁6, 不明4		壁1	
87	長崎南	BIU	Ⅲ	4,096	10	2.9×2.0	19	3.52	ナ2, UF1, F12, 桟1, 不明3	基13, 壁2, 光質理1, 不明2			
87	長崎南	BIU	Ⅲ	4,096	11	5.3×3.6	42	3.22	ナ7, 壁1, 壁1, RF1, UF2, F45, 桟4, 不明1	基27, ナ11, 壁1, 壁2, 在2, 壁8, 不明2			
87	長崎南	BIU	Ⅲ	4,096	12	2.7×1.7	20	4.26	UF1, F18, 壁1	基3, ナ2, 壁4, 在質15, 不明		壁1	
87	長崎南	BIU	Ⅲ	4,096	13	4.2×2.9	24	1.97	散在	ナ1, UF2, RF1, F29	在質10, 壁1, 壁2,		
87	長崎南	BIU	Ⅲ	4,096	14	4.9×3.1	27	1.78	ナ1, 壁1, F24, 桟1	基4, ナ2, 壁1, 壁5, 在質14, 壁4, 壁7			
87	長崎南	BIU	Ⅲ	4,096	15	9.0×4.5	74	1.63	ナ6, RF2, 壁1, UF2, F54, 桟3, 不明6	基28, ナ1, 壁1, 壁4, 壁2, 在質1, 不明6			
87	長崎南	BIU	Ⅲ	4,096	16	4.9×2.3	13	1.13	RF1, 壁1, 不明2	基2, ナ5, 壁1, 壁3, 不明2			
87	長崎南	BIU	Ⅲ	4,096	17	3.7×3.1	28	2.44	ナ7, 壁1, F20	基28			
87	長崎南	BIU	Ⅲ	4,096	18	2.2×1.6	13	1.67	ナ1, UF1, F11	基13			
87	長崎南	BIU	Ⅲ	4,096	19	2.7×2.2	32	14.66	散在	ナ6, RF1, 壁1, 壁2, 壁3, 不明10	基22, ナ4, 壁2, 壁1, 壁1, 不明10		
87	長崎南	BIU	Ⅲ	4,096	20	5.8×4.7	47	1.72	ナ3, F29, 不明5	基33, ナ2, 壁2, 在質1, 壁2, 壁1, 不明5			
87	長崎南	BIU	Ⅲ	4,096	21	2.9×1.3	12	3.18	UF1, F9, 桟1, 不明1	基11, 不明1			
87	長崎南	BIU	Ⅲ	4,096	22	7.9×6.0	139	2.93	ナ7, 壁2, 壁1, 壁1, RF1, UF4, F59, 桟3, 不明7	基35, ナ16, 壁1, 壁2, 在質21, 壁1, 壁2, 壁3, 壁5, 壁1, 壁1, 壁14, 壁5, 不明7			
87	長崎南	BIU	Ⅲ	4,096	23	6.5×5.9	52	1.36	ナ2, 壁1, F21, 壁1, RF1, 壁1, 壁2, 壁3, 不明9	基2, ナ20, 壁2, 在質3, 壁5, 不明9			
87	長崎南	BIU	Ⅲ	4,096	24	3.4×1.6	39	3.99	RF1, F17, 不明1	基2, ナ16, 安1, 不明1			
87	長崎南	BIU	Ⅲ	4,096	25	1.8×1.0	18	10.00	壁1, RF2, F32, 不明3	基12, ナ2, 壁1, 不明3			
92	上草原第1地点	B1	II	1,480	1	3.9×3.5	110	8.66	密集	ナ1, RF2, F107	基109, 壁1		
92	上草原第2地点	B1	I	1,276	A	3.8×3.5	18	1.35	集中	ナ1, 壁1, F20, 桟4, 壁1	基13, ナ2, 安2, 壁1		
92	上草原第3地点	B1	I	1,276	B	3.4×3.8	19	20.52	密集	ナ6, F10, 桟片3	基3, ナ13, 安1, 壁1, 壁1		
92	上草原第2地点	B1	I	1,276	C	3.8×1.4	7	5.32	集中				
92	上草原第2地点	B2LU	II	1,276	A	4.3×5.6	566	15.47	密集	ナ7, 角9, スカ5, RF1, UF2, F255, 桟片97, 桟3, 不明2	基560, ナ1, 安1, 壁1, 壁4	壁1	
92	上草原第2地点	B2LU	II	1,276	B	4.3×7.5	20	0.32	散在	ナ2, 角1, F12, 桟2, 壁1	基19, 不明1		
91	上草原第3地点	BIU	II	1,280	1	4.2×1.9	32	1.56	密集	ナ5, 壁1, 壁1, F5	ナ11, 安1		
91	上草原第3地点	BIU	IV	1,280	1	1.3×0.5	4	6.12	散在	F4	ナ4		
95	福井丸ノ辻	L1S~L2	G	144	1	3.5×1.9	71	10.68	集中	ナ3, 安1, UF1, F16, 桟1	基56, 壁13	壁1	
95	福井丸ノ辻	L1S~L2	S	144	2	2.5×2.2	39	7.09	ナ7, スカ1, F30, 壁1	基23, 壁5, 壁1	壁1		
95	福井丸ノ辻	B1L	III	144	1	2.8×0.8	7	3.50	集中	F4, 桟3	基4, K1, ナ1		
95	福井丸ノ辻	L2~R2L(B2L)	V	144	1	1.5×1.5	8	4.10	F7, 壁1	基5, ナ7, 安2			
95	福井丸ノ辻	L2~R2L(B2L)	V	144	2	2.6×1.9	9	1.82	ナ2, UF1, F6	基3, 壁1, K5	壁1		
95	福井丸ノ辻	L2~R2L(B2L)	V	144	3	1.9×0.8	4	2.65	F3, 桟1	基4	壁1		
95	福井丸ノ辻	L2~R2L(B2L)	V	144	4	2.6×3.5	11	1.00	ナ3, F7, 壁1	基1, ナ1, 壁1, 壁8	壁1		

表1 器種統成(ナ:ナイフ形石器等, 積:先端丸い圓錐形, 撥:撥水器, 槌:槌形石器等, 壁:壁面, 壁1:斜面, 壁2:直面, 桟:柵形石器等, 壁3:複数面斜面, 壁4:複数面直面, 壁5:板面, 壁6:板面, 壁7:板面, 壁8:板面, 壁9:板面, 壁10:板面, 壁11:板面, 壁12:板面, 壁13:板面, 壁14:板面, 壁15:板面, 壁16:板面, 壁17:板面, 壁18:板面, 壁19:板面, 壁20:板面, 壁21:板面, 壁22:板面, 壁23:板面, 壁24:板面, 壁25:板面, 壁26:板面, 壁27:板面, 壁28:板面, 壁29:板面, 壁30:板面, 壁31:板面, 壁32:板面, 壁33:板面, 壁34:板面, 壁35:板面, 壁36:板面, 壁37:板面, 壁38:板面, 壁39:板面, 壁40:板面, 壁41:板面, 壁42:板面, 壁43:板面, 壁44:板面, 壁45:板面, 壁46:板面, 壁47:板面, 壁48:板面, 壁49:板面, 壁50:板面, 壁51:板面, 壁52:板面, 壁53:板面, 壁54:板面, 壁55:板面, 壁56:板面, 壁57:板面, 壁58:板面, 壁59:板面, 壁60:板面, 壁61:板面, 壁62:板面, 壁63:板面, 壁64:板面, 壁65:板面, 壁66:板面, 壁67:板面, 壁68:板面, 壁69:板面, 壁70:板面, 壁71:板面, 壁72:板面, 壁73:板面, 壁74:板面, 壁75:板面, 壁76:板面, 壁77:板面, 壁78:板面, 壁79:板面, 壁80:板面, 壁81:板面, 壁82:板面, 壁83:板面, 壁84:板面, 壁85:板面, 壁86:板面, 壁87:板面, 壁88:板面, 壁89:板面, 壁90:板面, 壁91:板面, 壁92:板面, 壁93:板面, 壁94:板面, 壁95:板面, 壁96:板面, 壁97:板面, 壁98:板面, 壁99:板面, 壁100:板面, 壁101:板面, 壁102:板面, 壁103:板面, 壁104:板面, 壁105:板面, 壁106:板面, 壁107:板面, 壁108:板面, 壁109:板面, 壁110:板面, 壁111:板面, 壁112:板面, 壁113:板面, 壁114:板面, 壁115:板面, 壁116:板面, 壁117:板面, 壁118:板面, 壁119:板面, 壁120:板面, 壁121:板面, 壁122:板面, 壁123:板面, 壁124:板面, 壁125:板面, 壁126:板面, 壁127:板面, 壁128:板面, 壁129:板面, 壁130:板面, 壁131:板面, 壁132:板面, 壁133:板面, 壁134:板面, 壁135:板面, 壁136:板面, 壁137:板面, 壁138:板面, 壁139:板面, 壁140:板面, 壁141:板面, 壁142:板面, 壁143:板面, 壁144:板面, 壁145:板面, 壁146:板面, 壁147:板面, 壁148:板面, 壁149:板面, 壁150:板面, 壁151:板面, 壁152:板面, 壁153:板面, 壁154:板面, 壁155:板面, 壁156:板面, 壁157:板面, 壁158:板面, 壁159:板面, 壁160:板面, 壁161:板面, 壁162:板面, 壁163:板面, 壁164:板面, 壁165:板面, 壁166:板面, 壁167:板面, 壁168:板面, 壁169:板面, 壁170:板面, 壁171:板面, 壁172:板面, 壁173:板面, 壁174:板面, 壁175:板面, 壁176:板面, 壁177:板面, 壁178:板面, 壁179:板面, 壁180:板面, 壁181:板面, 壁182:板面, 壁183:板面, 壁184:板面, 壁185:板面, 壁186:板面, 壁187:板面, 壁188:板面, 壁189:板面, 壁190:板面, 壁191:板面, 壁192:板面, 壁193:板面, 壁194:板面, 壁195:板面, 壁196:板面, 壁197:板面, 壁198:板面, 壁199:板面, 壁200:板面, 壁201:板面, 壁202:板面, 壁203:板面, 壁204:板面, 壁205:板面, 壁206:板面, 壁207:板面, 壁208:板面, 壁209:板面, 壁210:板面, 壁211:板面, 壁212:板面, 壁213:板面, 壁214:板面, 壁215:板面, 壁216:板面, 壁217:板面, 壁218:板面, 壁219:板面, 壁220:板面, 壁221:板面, 壁222:板面, 壁223:板面, 壁224:板面, 壁225:板面, 壁226:板面, 壁227:板面, 壁228:板面, 壁229:板面, 壁230:板面, 壁231:板面, 壁232:板面, 壁233:板面, 壁234:板面, 壁235:板面, 壁236:板面, 壁237:板面, 壁238:板面, 壁239:板面, 壁240:板面, 壁241:板面, 壁242:板面, 壁243:板面, 壁244:板面, 壁245:板面, 壁246:板面, 壁247:板面, 壁248:板面, 壁249:板面, 壁250:板面, 壁251:板面, 壁252:板面, 壁253:板面, 壁254:板面, 壁255:板面, 壁256:板面, 壁257:板面, 壁258:板面, 壁259:板面, 壁260:板面, 壁261:板面, 壁262:板面, 壁263:板面, 壁264:板面, 壁265:板面, 壁266:板面, 壁267:板面, 壁268:板面, 壁269:板面, 壁270:板面, 壁271:板面, 壁272:板面, 壁273:板面, 壁274:板面, 壁275:板面, 壁276:板面, 壁277:板面, 壁278:板面, 壁279:板面, 壁280:板面, 壁281:板面, 壁282:板面, 壁283:板面, 壁284:板面, 壁285:板面, 壁286:板面, 壁287:板面, 壁288:板面, 壁289:板面, 壁290:板面, 壁291:板面, 壁292:板面, 壁293:板面, 壁294:板面, 壁295:板面, 壁296:板面, 壁297:板面, 壁298:板面, 壁299:板面, 壁300:板面, 壁301:板面, 壁302:板面, 壁303:板面, 壁304:板面, 壁305:板面, 壁306:板面, 壁307:板面, 壁308:板面, 壁309:板面, 壁310:板面, 壁311:板面, 壁312:板面, 壁313:板面, 壁314:板面, 壁315:板面, 壁316:板面, 壁317:板面, 壁318:板面, 壁319:板面, 壁320:板面, 壁321:板面, 壁322:板面, 壁323:板面, 壁324:板面, 壁325:板面, 壁326:板面, 壁327:板面, 壁328:板面, 壁329:板面, 壁330:板面, 壁331:板面, 壁332:板面, 壁333:板面, 壁334:板面, 壁335:板面, 壁336:板面, 壁337:板面, 壁338:板面, 壁339:板面, 壁340:板面, 壁341:板面, 壁342:板面, 壁343:板面, 壁344:板面, 壁345:板面, 壁346:板面, 壁347:板面, 壁348:板面, 壁349:板面, 壁350:板面, 壁351:板面, 壁352:板面, 壁353:板面, 壁354:板面, 壁355:板面, 壁356:板面, 壁357:板面, 壁358:板面, 壁359:板面, 壁360:板面, 壁361:板面, 壁362:板面, 壁363:板面, 壁364:板面, 壁365:板面, 壁366:板面, 壁367:板面, 壁368:板面, 壁369:板面, 壁370:板面, 壁371:板面, 壁372:板面, 壁373:板面, 壁374:板面, 壁375:板面, 壁376:板面, 壁377:板面, 壁378:板面, 壁379:板面, 壁380:板面, 壁381:板面, 壁382:板面, 壁383:板面, 壁384:板面, 壁385:板面, 壁386:板面, 壁387:板面, 壁388:板面, 壁389:板面, 壁390:板面, 壁391:板面, 壁392:板面, 壁393:板面, 壁394:板面, 壁395:板面, 壁396:板面, 壁397:板面, 壁398:板面, 壁399:板面, 壁400:板面, 壁401:板面, 壁402:板面, 壁403:板面, 壁404:板面, 壁405:板面, 壁406:板面, 壁407:板面, 壁408:板面, 壁409:板面, 壁410:板面, 壁411:板面, 壁412:板面, 壁413:板面, 壁414:板面, 壁415:板面, 壁416:板面, 壁417:板面, 壁418:板面, 壁419:板面, 壁420:板面, 壁421:板面, 壁422:板面, 壁423:板面, 壁424:板面, 壁425:板面, 壁426:板面, 壁427:板面, 壁428:板面, 壁429:板面, 壁430:板面, 壁431:板面, 壁432:板面, 壁433:板面, 壁434:板面, 壁435:板面, 壁436:板面, 壁437:板面, 壁438:板面, 壁439:板面, 壁440:板面, 壁441:板面, 壁442:板面, 壁443:板面, 壁444:板面, 壁445:板面, 壁446:板面, 壁447:板面, 壁448:板面, 壁449:板面, 壁450:板面, 壁451:板面, 壁452:板面, 壁453:板面, 壁454:板面, 壁455:板面, 壁456:板面, 壁457:板面, 壁458:板面, 壁459:板面, 壁460:板面, 壁461:板面, 壁462:板面, 壁463:板面, 壁464:板面, 壁465:板面, 壁466:板面, 壁467:板面, 壁468:板面, 壁469:板面, 壁470:板面, 壁471:板面, 壁472:板面, 壁473:板面, 壁474:板面, 壁475:板面, 壁476:板面, 壁477:板面, 壁478:板面, 壁479:板面, 壁480:板面, 壁481:板面, 壁482:板面, 壁483:板面, 壁484:板面, 壁485:板面, 壁486:板面, 壁487:板面, 壁488:板面, 壁489:板面, 壁490:板面, 壁491:板面, 壁492:板面, 壁493:板面, 壁494:板面, 壁495:板面, 壁496:板面, 壁497:板面, 壁498:板面, 壁499:板面, 壁500:板面, 壁501:板面, 壁502:板面, 壁503:板面, 壁504:板面, 壁505:板面, 壁506:板面, 壁507:板面, 壁508:板面, 壁509:板面, 壁510:板面, 壁511:板面, 壁512:板面, 壁513:板面, 壁514:板面, 壁515:板面, 壁516:板面, 壁517:板面, 壁518:板面, 壁519:板面, 壁520:板面, 壁521:板面, 壁522:板面, 壁523:板面, 壁524:板面, 壁525:板面, 壁526:板面, 壁527:板面, 壁528:板面, 壁529:板面, 壁530:板面, 壁531:板面, 壁532:板面, 壁533:板面, 壁534:板面, 壁535:板面, 壁536:板面, 壁537:板面, 壁538:板面, 壁539:板面, 壁540:板面, 壁541:板面, 壁542:板面, 壁543:板面, 壁544:板面, 壁545:板面, 壁546:板面, 壁547:板面, 壁548:板面, 壁549:板面, 壁550:板面, 壁551:板面, 壁552:板面, 壁553:板面, 壁554:板面, 壁555:板面, 壁556:板面, 壁557:板面, 壁558:板面, 壁559:板面, 壁560:板面, 壁561:板面, 壁562:板面, 壁563:板面, 壁564:板面, 壁565:板面, 壁566:板面, 壁567:板面, 壁568:板面, 壁569:板面, 壁570:板面, 壁571:板面, 壁572:板面, 壁573:板面, 壁574:板面, 壁575:板面, 壁576:板面, 壁577:板面, 壁578:板面, 壁579:板面, 壁580:板面, 壁581:板面, 壁582:板面, 壁583:板面, 壁584:板面, 壁585:板面, 壁586:板面, 壁587:板面, 壁588:板面, 壁589:板面, 壁590:板面, 壁591:板面, 壁592:板面, 壁593:板面, 壁594:板面, 壁595:板面, 壁596:板面, 壁597:板面, 壁598:板面, 壁599:板面, 壁600:板面, 壁601:板面, 壁602:板面, 壁603:板面, 壁604:板面, 壁605:板面, 壁606:板面, 壁607:板面, 壁608:板面, 壁609:板面, 壁610:板面, 壁611:板面, 壁612:板面, 壁613:板面, 壁614:板面, 壁615:板面, 壁616:板面, 壁617:板面, 壁618:板面, 壁619:板面, 壁620:板面, 壁621:板面, 壁622:板面, 壁623:板面, 壁624:板面, 壁625:板面, 壁626:板面, 壁627:板面, 壁628:板面, 壁629:板面, 壁630:板面, 壁631:板面, 壁632:板面, 壁633:板面, 壁634:板面, 壁635:板面, 壁636:板面, 壁637:板面, 壁638:板面, 壁639:板面, 壁640:板面, 壁641:板面, 壁642:板面, 壁643:板面, 壁644:板面, 壁645:板面, 壁646:板面, 壁647:板面, 壁648:板面, 壁649:板面, 壁650:板面, 壁651:板面, 壁652:板面, 壁653:板面, 壁654:板面, 壁655:板面, 壁656:板面, 壁657:板面, 壁658:板面, 壁659:板面, 壁660:板面, 壁661:板面, 壁662:板面, 壁663:板面, 壁664:板面, 壁665:板面, 壁666:板面, 壁667:板面, 壁668:板面, 壁669:板面, 壁670:板面, 壁671:板面, 壁672:板面, 壁673:板面, 壁674:板面, 壁675:板面, 壁676:板面, 壁677:板面, 壁678:板面, 壁679:板面, 壁680:板面, 壁681:板面, 壁682:板面, 壁683:板面, 壁684:板面, 壁685:板面, 壁686:板面, 壁687:板面, 壁688:板面, 壁689:板面, 壁690:板面, 壁691:板面, 壁692:板面, 壁693:板面, 壁694:板面, 壁695:板面, 壁696:板面, 壁697:板面, 壁698:板面, 壁699:板面, 壁700:板面, 壁701:板面, 壁702:板面, 壁703:板面, 壁704:板面, 壁705:板面, 壁706:板面, 壁707:板面, 壁708:板面, 壁709:板面, 壁710:板面, 壁711:板面, 壁712:板面, 壁713:板面, 壁714:板面, 壁715:板面, 壁716:板面, 壁717:板面, 壁718:板面, 壁719:板面, 壁720:板面, 壁721:板面, 壁722:板面, 壁723:板面, 壁724:板面, 壁725:板面, 壁726:板面, 壁727:板面, 壁728:板面, 壁729:板面, 壁730:板面, 壁731:板面, 壁732:板面, 壁733:板面, 壁734:板面, 壁735:板面, 壁736:板面, 壁737:板面, 壁738:板面, 壁739:板面, 壁740:板面, 壁741:板面, 壁742:板面, 壁743:板面, 壁744:板面, 壁745:板面, 壁746:板面, 壁747:板面, 壁748:板面, 壁749:板面, 壁750:板面, 壁751:板面, 壁752:板面, 壁753:板面, 壁754:板面, 壁755:板面, 壁756:板面, 壁757:板面, 壁75

神奈川における縄文時代文化の変遷VIII

—後期前葉期 堀之内式土器文化期の様相 その2— —主要遺跡の一括出土事例—

縄文時代研究プロジェクトチーム

I. はじめに

本プロジェクトでは昨年度から後期前葉期・堀之内式土器文化期の様相をめぐる研究を開始した。昨年度は報告書を中心とした文献収集、基礎的なデータベース作成を行い、研究略史、地名表・参考文献を『研究紀要15』に掲載した。2年次目の今年度は資料のデータシートを作成すると共に、住居址検出遺跡を中心とした主要遺跡の集成化と、来年度以降編年案を構築するため、短期間に形成されたと考えられる一括出土事例（層位的出土事例を含む）の検討を行った。本号では一括出土事例の中から、良好な一括出土事例12例を選んで掲載した。なお挿図の縮尺は住居址が1/120、土器が1/10を基本にしている。本文中の遺構名は報告書に準拠した。土器の脇の括弧内の番号は報告書の図番号を示す。土器の記述は一般的に用いられている用語を使用することにし、磨消縄文という用語には充填縄文を含むものとする。

（松田光太郎）

II. 一括出土事例

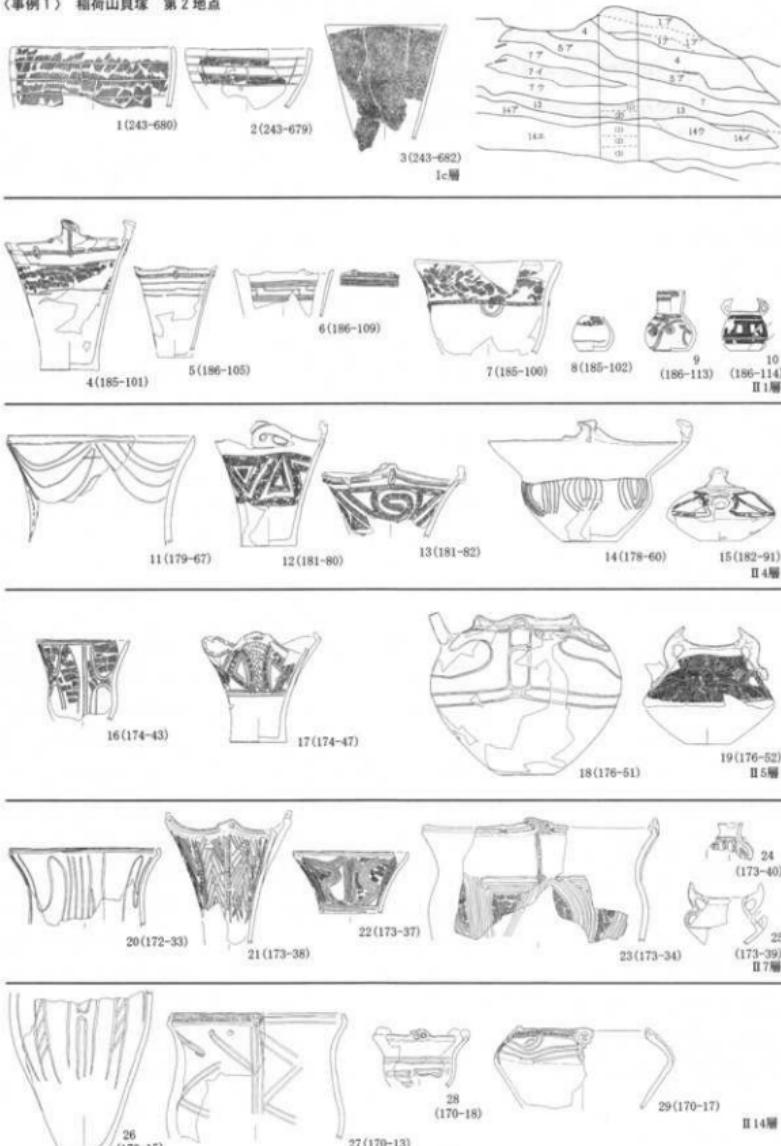
〈事例1〉 稲荷山貝塚 第2地点（第1図）

稻荷山貝塚は、横浜市南区山谷に所在する遺跡で、台地上に5ヶ所の貝層が存在していた。1930年の池田健夫氏らの調査で貝層の上下において出土土器に違いがあることが指摘されていたが、2000年のかながわ考古学財団の第1・2地点の発掘調査でも、貝層の層位によって土器の様相に違いが見られた。ここでは第2地点の出土事例を紹介する。第2地点では貝層（II層）は14層（II 1～II 14層）に細分され、貝層上にIc層（黒色土層）が存在していた。報告書では貝層中では504点、Ic層では65点の土器が掲載されている。貝層全層位から土器は出土しているが、時期的にまとまりのある層からの出土遺物を抽出して第1図に示した。貝層は原則的に数字の大きい層ほど下位に存在した。II 14～II 7層は堀之内I式土器、II 6～II 2層は堀之内2式土器、II 1層は堀之内2式・加曾利B1式土器、Ic層は加曾利B1式土器を主に出土した。

第1図26～29はII 14層出土土器である。26は縦位の曲線的沈線文様をもつ深鉢、27は直線的沈線文様をもつ深鉢形土器、28は頸部を無文とする鉢形土器、29は口縁が内湾する上器である。20～25はII 7層出土土器である。20～22は深鉢形土器で、20は縦位の曲線的沈線文様をもつもの、21は直線的沈線文様をもつもの、22は沈線文と縄文をもつものである。23は頸部を無文とする鉢形土器、24は壺形土器、25は注口土器である。16～19はII 5層出土土器である。16は縦位の曲線的沈線文様をもつ深鉢、17は磨消縄文をもつ深鉢形土器、18は無頸壺のような器形をなす注口をもつもの、19は注口土器である。11～15はII 4層出土上器である。11～13は深鉢形土器で、11は縦位の曲線的沈線文様、12・13は磨消縄文をもつものである。14は頸部を無文とする鉢形土器、15は注口土器である。4～10はII 1層出土土器である。4～6は深鉢形土器で、4は横位帯状の磨消縄文をもつものである。7は頸部を無文とする鉢形土器の流れをくむもの、8は口縁が内湾するもの、9は壺形、10は注口土器である。1～3はIc層出土の加曾利B1式土器。

（松田光太郎）

〈事例1〉 稲荷山貝塚 第2地点



第1図 一括出土事例（1）

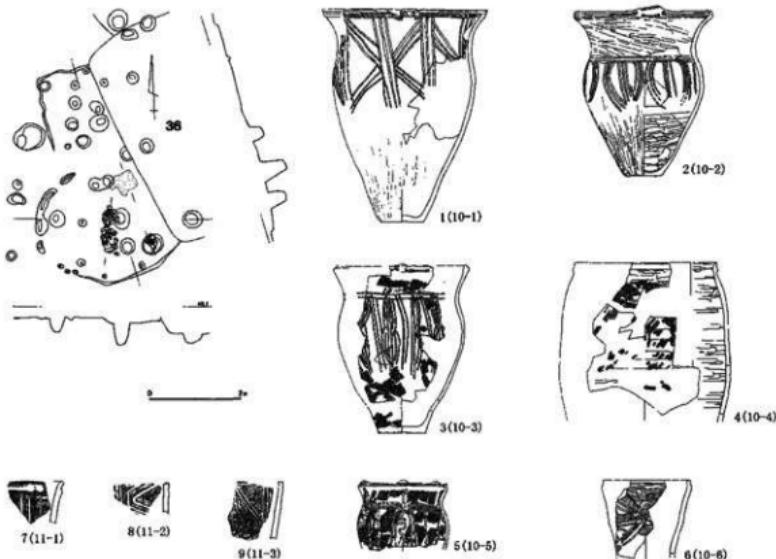
〈事例2〉 岡上丸山遺跡 第J3号竪穴住居址（第2図）

岡上丸山遺跡は、川崎市麻生区岡上字丸山675番地に所在する。鶴見川の支流によって開拓された丘陵の舌状台地のつけね部に立地し、標高は約50～60mを測る。昭和59年に確認調査、60年に本格調査が実施され、一例ではあるが竪穴住居址が約25軒検出されており、中期末～後期前葉の集落址が確認されている。

第J3号竪穴住居址は調査区の北西端、B・C-4・5グリッドに位置し、住居址の東側1/3程は古墳時代の第36号竪穴住居址に切られており、遺存状態はよくない。炉が住居址のほぼ中央部に配置され、柄巣形の形態を呈するようであるが、遺存状態のためか不明であると報告されている。遺物は上器が多く出土しているが、石器は皆無である。報告書には1～9の掘之内1式に帰属する上器が掲載されており、出土位置はいずれも床面に近いものと思われる。1は炉の南西部から出土しており、2と互いの底部を向き合わせせるような状況を呈して出土している。頸部がわずかにくびれる深鉢形土器であり、懸垂文と斜位の沈線で文様を描いている。2は頸部に無文帯をもつ深鉢形土器である。胴部に2条の沈線が横位に巡り、その直下に3条1単位の懸垂文、弧状文の沈線で文様を描いている。3は住居址南壁付近から出土した深鉢形土器である。縱位、弧状の沈線で文様を描き、短い単位の縄文を施している。4は炉の南東部から出土した樽形を呈する深鉢形土器である。縄文がほぼ器面全体に施されている。5は頸部がわずかにくびれる小形の深鉢形土器である。縄文を地文とし沈線と刺突により文様を描いている。6は小型の深鉢形土器である。横・斜位、弧状の沈線により文様が描かれている。7～9は口縁部、胴部の破片資料であり、主に沈線により文様が描かれている。

(近藤匡樹)

〈事例2〉 岡上丸山遺跡 第J3号竪穴住居址



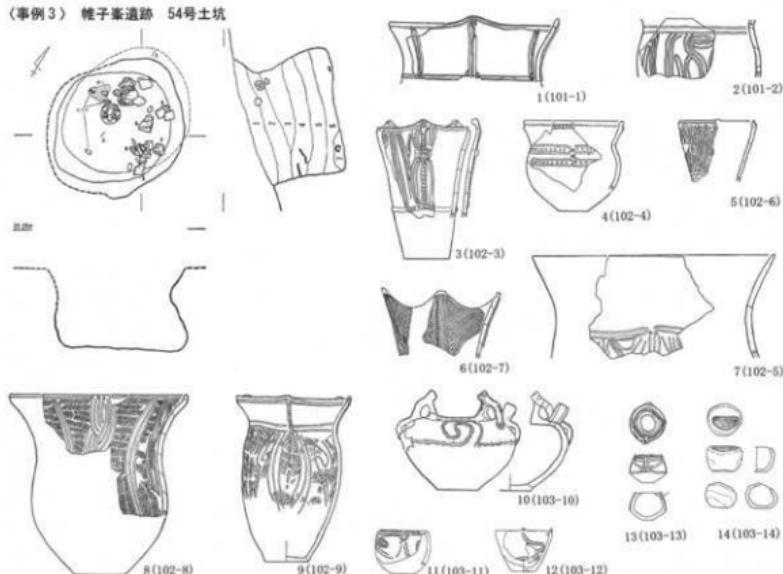
第2図 一括出土事例（2）

〈事例3〉 帯子峯遺跡 54号土坑（第3図）

帯子峯遺跡は、横浜市保土ヶ谷区に所在する遺跡で、多摩丘陵の一部、帯子川に臨んだ通称常盤台台地の東南端に位置し、標高35～50mを測る。昭和56・57年にかけ断続的に実施された発掘調査により、中期後葉から後期前葉の集落が検出された。

54号土坑は台地南西側斜面に広がる土器捨て場で検出された。底径157cm、深さ126cmを測る比較的大形の土坑である。壁面はオーバーハングし、フラスコ状を呈する。土器140点、石器5点が出土し、報告書中に1～14の土器が掲載されている。土器は覆土中位から出土する土器1～8と土坑底面から出土した9～12に分かれる。底面から出土した9～12は完形ないし略完形で、注口土器と小形土器を含み注目される。1は深鉢の口縁部で緩やかな波状を呈し、沈線と隆帯を垂下させる。2は深鉢の胴部破片。3条の平行沈線で渦巻き文等の文様を描く。3・6・7は口縁に向かって直線的に開く深鉢である。3は3単位の波状口縁で、波頂部から刻み目を持った隆帯を垂下させ、間に沈線で文様を描く。5は縄文の地文上へ蛇行する沈線を垂下させるもの。6も波状口縁で、波頂部から刻み目を持った隆帯を垂下させる。また沈線は密に施され器面を埋めている。4は口径に比較し器高の低い鉢で、沈線で描いた楕円形の区画文を横位に施す。7～9はキャリバー形の深鉢。7は沈線による楕円形区画により口縁部と胴部を画す。8は3条の沈線で文様を描き、間に縄文で埋めたもの。9は沈線で口縁部と胴部を画し、胴部に沈線と縄文を施す。10は注口土器である。注口の上下に把手をつけ、隆線で文様を描く。11～14はミニチュア土器。11・12は沈線で文様を描くもの。13は2対の小把手を有する算盤玉状の土器である。14は無文であるが、内外面が赤彩される。（小川岳人）

〈事例3〉 帯子峯遺跡 54号土坑



第3図 一括出土事例（3）

〈事例4〉 原出口遺跡 20・21号住居址



第4図 一括出土事例(4)

〈事例4〉 原出口遺跡 20・21号住居址 (第4図)

原出口遺跡は横浜市都築区川和台に所在し、多摩丘陵に位置する遺跡である。集落は後期の住居址・掘立柱建物・ピット群・墓塚などで構成され、標高55～60mの台地に密度高く分布している。時期の主体は堀之内式後半から堀之内式前半期である。20・21号住居址は重複する住居で、焼失住居の20号住居が新しい。緩やかに傾斜する南斜面の集落南端に構築されている。壁は奥壁の一部のみで、20号住居址床面には焼土がやや厚く堆積する。20号住居址の遺物は比較的豊富な量が認められ、復元資料17点・破片資料37点・土製品2点・石器などである。1～5は床面、6～17は覆土である。朝顔形深鉢1～4・6・7・10、深鉢8・9・11、注口土器12・13、沈線文のみで文様が描かれる深鉢形土器14～16などがある。

21号住居址の出土遺物は復元資料1点・破片資料21点・石器・石製品などである。18は算盤玉状の器形を呈する注口土器である。

(天野賢一)

〈事例5〉 小丸遺跡 29号住居址（第5図）

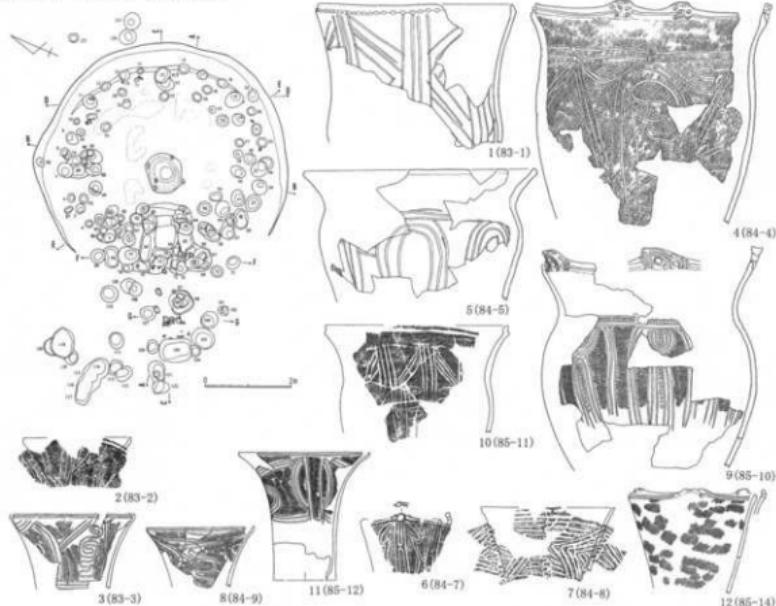
本遺跡は港北ニュータウン地域の西部、横浜市都筑区大丸11付近に所在する。標高53～63mに位置し、第1次調査が昭和50年～51年、第2次調査が昭和57年に行われ、遺跡全体に縄文時代、特に後期前葉から中葉にかけての住居址を中心とする遺構が検出された。

本住居は西側の谷に向かう傾斜地で、標高58mに位置する。奥壁上と主体部入口では1mを超える標高差があるため、入口部分から張り出し部では掘り込みの検出が出来なかった。柱穴の配列から3軒の重複があり、2回の建て替えを考えている。また床面が被熱していたことから火災にあったと報告されている。出土遺物は床直上ではほとんど見られず、大半は覆土からの発見で、住居に伴うものというよりは、周辺に形成された包含層の遺物が本址に流れ込んだと判断している。大半は堀之内1式の後半から終末にかけてのものである。報告者は住居の特徴を加味して、構築時期も出土した土器と同時期と推定している。

報告書には出土遺物は土器を50点、石器を45点掲示している。報告されている土器は、土器蓋2点・土製品1点を除き、すべて深鉢である。頸部がくびれるもの（1・4・5・10・11）、口縁部が外反するもの（2・3・8・12）、底部から直立するもの（7・8・12）が見られる。また体部の施文は、懸垂文や蛇行文といった沈線のみのもの（1・2・5・7・10）、縄文と沈線を組み合わせたもの（3・4・6・8・9・11）、縄文のみのもの（12）が見られる。この紙面に取り上げなかった土器も沈線を主体とするものか、縄文と沈線と組み合わせたものである。

(宗像義輝)

〈事例5〉 小丸遺跡 29号住居址



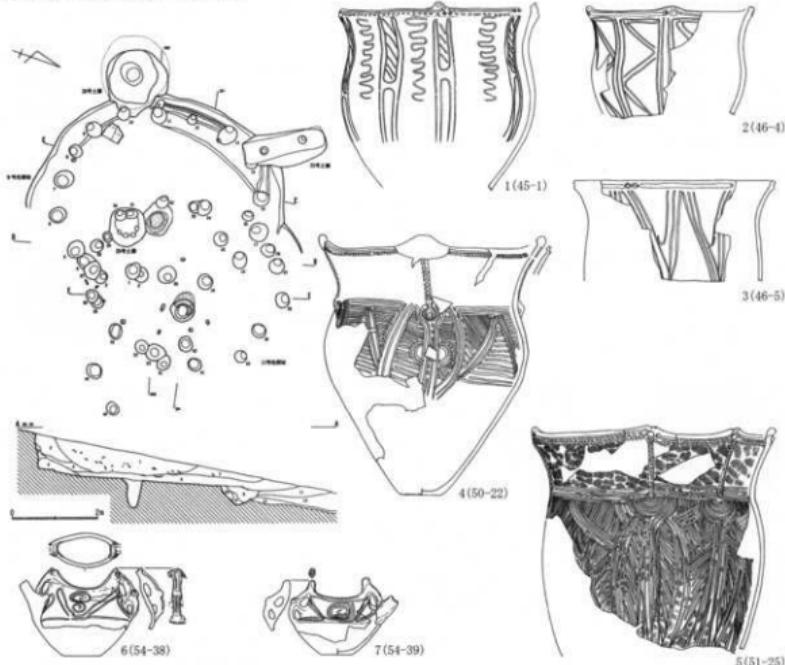
第5図 一括出土事例（5）

〈事例6〉 華藏台南遺跡 9号住居址（第6図）

本遺跡は港北ニュータウン地域の北西部、都筑区荏田南一丁目20付近の多摩丘陵東端にあり、堀之内1式を主体とする後期の集落址である。9号住居址に堀之内1式の良好な一括出土事例がある。本住居址は標高60m付近の東に下る傾斜地にあり、東半部に11号住居址と切り合いをもちこれを切っている。9号住居址は主軸4.5mほど、副軸5.6mほどの橢円を呈する主体部のみが発見され、張り出し部の検出はない。9号住居址覆土1層下層から2層中に大量の土器片が投棄された。報告書に掲載された復元土器は堀之内1式に帰属する39点、出土した土器片には堀之内1式初頭の土器や主体となる土器群とは時間的間隙をもつ堀之内2式土器も出土している。1は唯一床面で発見された深鉢形土器で、「H」状文と蛇行文を交互に配する。2以下はすべて覆土中からで、2には懸垂文とそれを連結する斜行文、3も2に類するもので「y」字形をなすもの、他に懸垂文に弧状文で取り囲むもの、懸垂文と蛇行文を配するものなどがあり、これらが本地域の主体をなすとされる。4、5は頸部以下の胴部を主文様域とするもので、懸垂文と、満巻文が多用される。これに比べて短い鉢形土器や満巻文の施された注口土器（6、7）もある。図示しえないが朝顔形深鉢1点、粗製深鉢（複数沈線、指痕による条痕文、縄文）、浅鉢、壺形土器、袖珍壺、が出土している。報告者によると、これら主体となる土器は堀之内1式の終末に位置づけられる。

(阿部友寿)

〈事例6〉 華藏台南遺跡 9号住居址



第6図 一括出土事例（6）

〈事例7〉 池端・椿山遺跡 J 9号竪穴住居址（第7図）

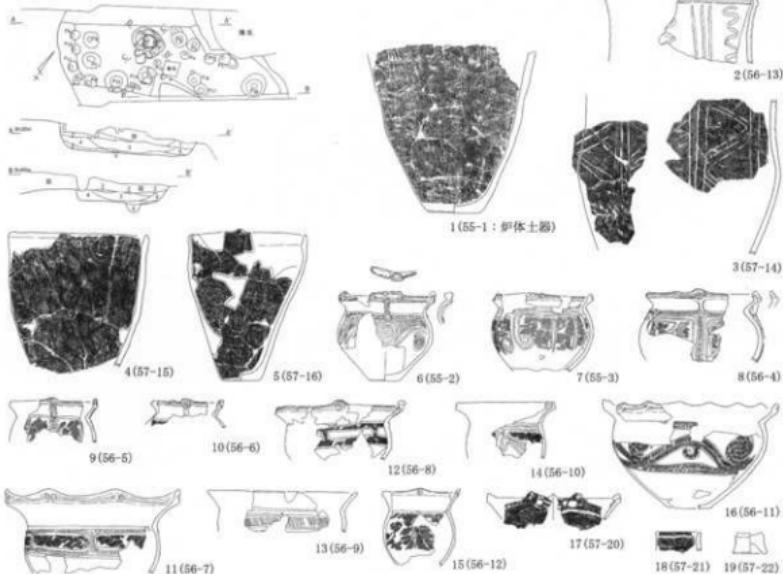
池端・椿山遺跡は、伊勢原市池端に所在する遺跡で、標高30m程の伊勢原台地北縁に位置している。平成14年に実施された発掘調査により、中期中葉・後葉、後期前葉～中葉期の存在が明らかになった。

J 9号竪穴住居址は、いわゆる柄鏡形の形態を探り、石圓埋甕炉が付されている。本址埋没後にJ 1号敷石住居址（堀之内2式期以降か）が構築されており、直接的な切り合いを有する重複事例となっている。報告書には、後期前葉～中葉期に帰属する復元資料22個体（深鉢8・鉢11・浅鉢1・壺形土器1・台付土器1）、破片資料78点（深鉢43・鉢27・浅鉢3・注口土器5）が掲載されている。

第7図1は石圓埋甕炉の炉体土器として用いられていた無文粗製深鉢で、口縁部は意図的に打ち欠かれたものと思われる。2・3は頭部に緩やかな括れを有し、縱位基調の沈線が施される深鉢である。いずれも3単位の沈線による懸垂文が施されているが、2は懸垂文間に縱位蛇行沈線を配し、3は3単位の斜行沈線で懸垂文を連絡している。4・5はナデ基調の調整が施された無文の粗製深鉢で、炉体土器に類似した資料である。6～16は胸部が球頭状をなし、強く外反する口縁部が付された鉢である。口縁部は無文を基調とし、小波状をなすもの（11・16）や小突起が付されるもの（6～10・12・15）が多く、縱位隆帯（6・9・10）や橋状把手（8）が付されるものもある。胸部には縱位基調（7・12）、あるいは幾何学状（6・8～14・16）の区画文が配されており、区画内には縄文（7～12・14・16）や沈線（6・13）が充填されている。11～13・16は胸部文様帶の下端区画が明瞭で、胸部上半を中心とする狭い範囲に文様が展開する。一方、6～9・14・15は下端区画が不明瞭で、施文域は胸部下半にまで及んでいる。17は直線的にひらく無文の浅鉢である。口縁部には小突起が付され、突起下には円形の押捺文が施されている。18は壺形土器、19は台付土器として分類されている小形の資料である。

(井辺一徳)

〈事例7〉 池端・椿山遺跡 J 9号竪穴住居址



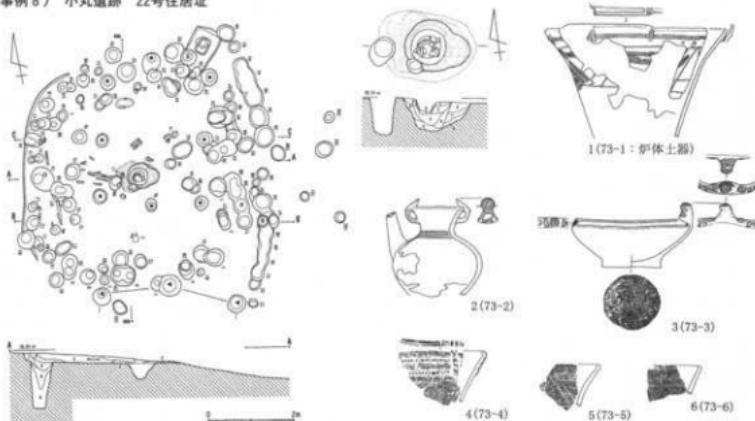
第7図 一括出土事例（7）

〈事例8〉 小丸遺跡 22号住居址（第8図）

遺跡の概要是〈事例5〉で触れている。本遺跡の中で堀之内2式の良好な遺構として22号住居址が挙げられる。標高59mに位置し、東側の谷を望む斜面への占地で入り口を谷の方角へ向けている。周辺には多数の掘立柱建物址が存在しており7号と37号と切りあい関係にあり、本址の方が新しいと判断される。他の竪穴住居との切り合いはみられない。また、本址は最低3回の建て替えがあったと想定されている。もっとも新しいと判断されるa号は火災にあってることが床面と覆土中の炭化材の遺存と焼土の堆積から想定されている。b号はa号とほぼ同じ箇所、もしくはa号よりわずかに内側に柱穴を配置している。これはa号がb号を踏襲したものと考えられる。c号は奥壁側、左右壁側とともに3柱穴からなる住居址を想定している。出土遺物は土器が14点、石器が5点報告されている。

1はa号炉址の炉体土器。接合状態が悪いため図上復元となっている。焼成はややもろい面がみられるが、炉に用いられたことによる二次焼成の可能性がある。報告者は口縁部は南三十稻場式の特徴を受け継いでいるとしている。2は注口土器。胴部最大径18cm弱。現器高は17.5cm。黒褐色を基調とした焼成良好な土器。器面は良好に研磨されている。頭部くびれ部をめぐる平行沈線が注口部付け根を巡る沈線と連絡するが、注口部の反対側にはこうした文様の施文はない。把手は全体に施文があるが簡素。炉址の左側空間で出土した。3は完形の浅鉢形土器。口径24cm弱。突起を含めた器高は12.8cm。1箇所のみ棒状の突起がつき、その周囲に集中して文様が施されている。また、その対面にも満巻文が施されているが、この箇所の口縁はごくわずかに高く成形されており、器面は横位に研磨されている。淡い黒褐色を呈する焼成良好な土器である。床面上から柱穴59にかけて出土した。4～6は破片資料。いずれも平行沈線で横帯区画した部分に充填縄文を施している。4は横帯区画から垂下、5は斜行した区画も見られる。これら以外の破片類は若干古い段階のものも含まれるが、1～3の時期と近い段階のものが主体であると報告されている。（宗像義輝）

〈事例8〉 小丸遺跡 22号住居址



第8図 一括出土事例（8）

〈事例9〉 稲ヶ原遺跡 B-9号土坑（第9図上段）

稲ヶ原遺跡は、横浜市緑区に所在する。遺跡は多摩丘陵の一段低位の台地上に位置し、標高は32から35m。鶴見川の支流である恩田川の谷に面している。平成2～3年にかけての調査により、中期後葉、中期末葉～後期前葉の集落が検出されている。うち2基の土坑から後期堀之内式期の良好な資料が得られている。

B-9号土坑は調査区の南端で検出された。タライ形の土坑である。南側の壁面はややオーバーハング気味、北側の壁面は傾斜をもって立ち上がる。報告書には覆土上層から出土した土器1～3が掲載されている。第9図1はキャリバー形を呈する深鉢である。胴上半に平行沈線を垂下させ、間に縄文を充填するが、図左右の沈線間に縄文が施されるのに対し、正面の逆U字形の区画はその外側に縄文が施されるなど、一定していない。2は壺形の土器。上部に把手の欠落痕がある。平行沈線により渦巻き・円形文を描き、平行沈線の中に縄文を充填する。3は浅鉢である。渦巻き状の突起を3箇所に有し、口縁内側には沈線・刺突文をめぐらせる。

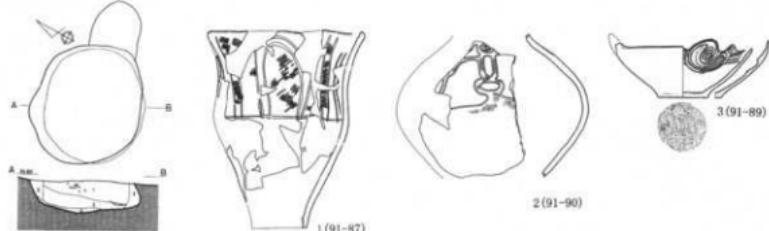
(小川岳人)

〈事例10〉 稲ヶ原遺跡 B-11号土坑（第9図下段）

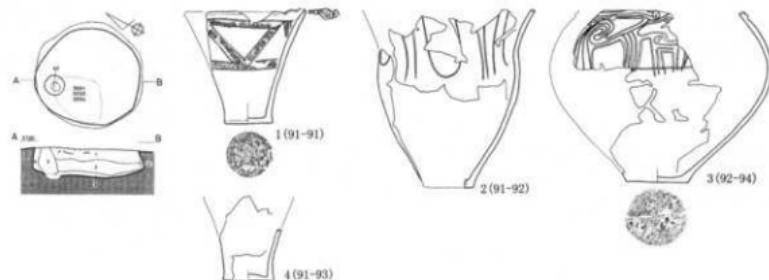
B-11号土坑も稲ヶ原遺跡の調査区南端で検出された。B-9号土坑同様タライ形を呈し、壁面は全体にややオーバーハングする。覆土上層からまとまった土器が出土している。1は朝顔形の深鉢で、山形を描く平行沈線内に縄文を施す。口縁には突起を有し、内面に刺突と沈線が施される。2はキャリバー形の深鉢。胴上半に沈線を垂下させる。3は頸部が窄まり、口縁が外側へ開く深鉢とみられる。残存部の上半に沈線で渦巻き文・曲線文を描く。4は無文であるが、朝顔形に開く深鉢の胴下半とみられる。

(小川岳人)

〈事例9〉 稲ヶ原遺跡 B-9号土坑

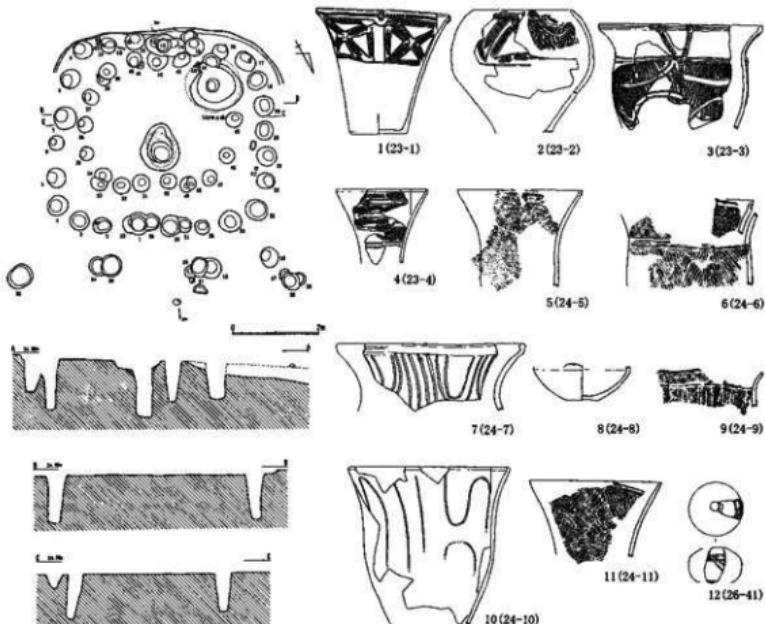


〈事例10〉 稲ヶ原遺跡 B-11号土坑



第9図 一括出土事例（9）

〈事例11〉 川和向原遺跡 8号住居址



第10図 一括出土事例(10)

〈事例11〉 川和向原遺跡 8号住居址 (第10図)

川和向原遺跡は横浜市都築区川和台に所在し、多摩丘陵に位置する遺跡である。集落は後期初頭から前葉にかけての住居址・掘立柱建物・ピット群・貯蔵穴・墓葬・半壇埋甕などで構成され、標高51～55mの台地西側に密度高く分布している。時期は称名寺式から認められるが、主体は塙之内1式後半から塙之内2式前半期である。8号住居址は緩やかに傾斜する北斜面の集落南端に構築されている。斜面部であることなどから壁は奥壁の一部が確認され、炉と柱穴列などが確認されている。柱穴は方形に近い形態で配列し、内側に古段階の柱穴列が見られる。炉の大部分は重複していると考えられている。住居址の周囲には包含層が広範囲に広がっており、覆土出土遺物との接合関係も多く認められている。遺物は復元資料11点・破片資料28点・土製品1点・石器などである。1は入口部床面相当レベル出上の朝顔形深鉢で、貼付文・刻み隆帯などと四角棒と斜方向の帶縄文により、幾何学的な文様を描く。2は覆土上部出土の無頸の鉢形土器で、帶縄文により枠状・弧線などの文様を描く。3は西側覆土中出土の鉢形土器で、懸垂する隆帯と集合沈線による文様などが描かれている。4・5は覆土と530号土坑など他遺構との接合関係がある資料である。6は緻密な地文の縄文と沈線などによる文様、7は沈線のみで「H」字状などの文様を描く。8は床面出土の注口土器、11は朝顔形の土器で沈線などによる幾何学的な文様を描いている。41は球状を呈する土製品である。

(天野賢一)

〈事例12〉はじめ沢下遺跡 J1号敷石住居址（第11図）

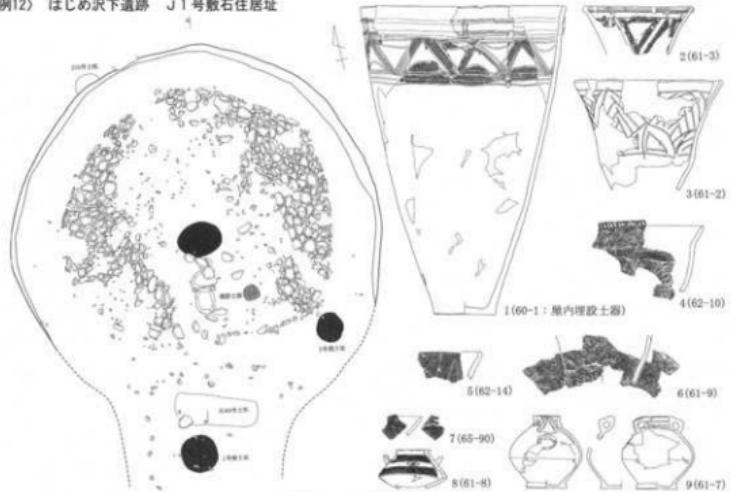
はじめ沢下遺跡は、相模原市緑区城山4丁目に所在する遺跡で、標高160～175mを測る津久井湖北岸の段丘上に位置している。平成18・19年に実施された発掘調査により、敷石住居址・列石・配石遺構からなる後期前葉期の集落が展開している事が明らかになった。

J1号敷石住居址は主体部径が9mを超える大形のもので、主体部全面に縁石を伴う敷石が付され、屋内埋設土器1基、屋内焼土址2（箇所）を作り。出土遺物は堀之内1式土器と2式土器が混在しているが、量的には堀之内2式土器が主体を占める。報告書には、復元資料9個体（深鉢7・注口土器2）、破片資料78点（深鉢59・鉢11・浅鉢1・注口土器3）が掲載され、埋設土器の帰属時期をもって堀之内2式期の住居址とされている。

第11図1はピット状の掘り方中に破碎された状態で埋置されていた埋設土器である。大形の朝顔形深鉢で、縦長の8字状貼付文で連絡された2条の隆線が巡り、その下段には三角形と半円形を組み合わせた幾何学的な磨消繩文帯が配されている。2は内折する口唇部直下に円形貼付文を伴う隆線が廻る朝顔形深鉢形で、磨消繩文により三角形基調のモチーフが表出されている。3は幅広の口縁部文様帶を有する朝顔形深鉢で、沈線のみで表出された重三角形基調のモチーフが展開している。4・5は頭部に緩やかな括れを有し、縦位基調の沈線が施される深鉢である。4は口縁部～頭部に広い無施文部をもち、口唇部内面に刻みが施されている。5は口唇部が内折するもので、逆U字基調の懸垂文が粗く配されている。6は外面にケズリにちかい調整が施された粗製の深鉢である。7はやや内湾ぎみにひらく無文の浅鉢で、波状口縁をなすようだ。内面に沈線による文様が施されているがモチーフ等は判然としない。8・9は把手が付された注口土器である。8は胴部が算盤玉状を呈するもので、胴部上半に綾杉状沈線を充填した横帯が2段廻っている。9は床面からやや浮いた状態で出土したものである。直立気味に立ち上がる口縁部には窓枠状の区画沈線が施され、満巻文が施された橋状の把手が付されている。

(井辺一徳)

〈事例12〉はじめ沢下遺跡 J1号敷石住居址



第11図 一括出土事例（11）

神奈川県内出土の弥生時代金属器（3）

－まとめ－

弥生時代研究プロジェクトチーム

はじめに

これまでに「神奈川県内出土の弥生時代金属器」として、二回に亘って鉄器と銅製品の集成を行ってきたのであるが、今回は集成結果に基づいて若干の分析を行い、神奈川県内における弥生時代から古墳時代前期の金属器の出土傾向についてまとめを行うこととする。分析にあたって、時期区分は弥生時代中期後半、弥生時代後期前半、弥生時代後期後半、弥生時代後期末～古墳時代初頭、古墳時代前期前半に区分することとした。各遺物の時期判断は基本的に報告書に記載された出土遺構の時期判断に従っているが、弥生時代後期とだけ報告されている事例については、伴出土器を検討して区分できるものについては区分し、時期区分ができる土器が出土していない事例、遺構外出土資料および未報告資料については、今回の分析対象から省略した。なお、新たに報告された資料について追加集成し、検討材料に加えた。追加集成した資料については第14・15図と第3・4表として巻末に掲載した。挿図中の遺物番号は鉄器、銅製品とともに当初の集成（弥生時代研究プロジェクトチーム2008・2009）の続き番号としてある。当初集成を併せて見て頂きたい。今回の追加集成及び分析にあたってはプロジェクトメンバーで作業分担し、文責は各文末に記した。（池田 治）

神奈川県内における鉄器の出土傾向について

弥生時代中期後半から古墳時代前期における鉄器出土遺跡総数および出土鉄器総数は61遺跡120点である。今回は弥生時代中期後半から古墳時代前期前半のうち、共伴土器から帰属時期を判断可能な53遺跡112点について、時期別の数量推移と出土遺跡の分布の傾向について分析を行った。対象遺物の帰属時期は第1表の通り。なお、遺物単体の器種では数量傾向が捉えにくいため、農工具（板状鉄斧、袋状鉄斧、鎌、鉄鑿、刀子、鉄鍊）・武器（鉄劍、鉄鎗）・漁労具（釣針、ヤス）・装身具（鉄鏡）・その他（上記以外）の大きく5つの用途種類別に集計を行い、数量推移を示した（第1図）。

1. 弥生時代中期後半

11遺跡から31点の鉄器が出土している。農工具が圧倒的に大きな割合を示している。遺物の内訳をみると板状鉄斧が最も多く出土し、次いで鉄鑿が多く出土している。板状鉄斧は基本的に片刃で、大きさ・厚さにバリエーションがあり、伐採用と加工用のものが存在するものと考えられる。砂田台遺跡では合計11点の鉄器が集中して出土している。同遺跡出土の板状鉄斧は鉄劍を再加工して作られており、注目される。

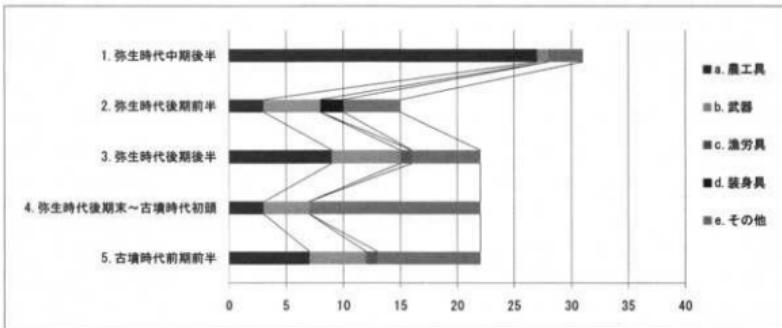
遺跡分布は下木吉台地・多摩丘陵に集中し、三浦半島にも分布する。県東部に偏りが見られる。

2. 弥生時代後期前半

11遺跡から15点の鉄器が出土している。農工具の出上割合が減少し、武器・装身具の割合が増加する。この時期から武器に鉄劍、装身具に鉄鏡が出現する。これらが出土する遺構は主に方形周溝墓からで、この時期に鉄器の副葬が開始される。鉄鎗が3点出土しているが、いずれも三角形状の無茎鎗で、そのうち2点は逆刺をもつ。農工具は鉄鍊が出現し、器種が増加する。

第1表 鉄器の時期別分布（数字は図版の遺物番号）

112点	a. 農工具	b. 武器	c. 漁労具	d. 装身具	e. その他
1. 弥生時代中期後半 17~22, 24~29, 31, 34, 38	1 ~ 7, 9 ~ 11, 13, 14, 17~22, 24~29, 31, 34, 38	71			35, 98, 99
2. 弥生時代後期前半	39, 45, 46	55, 62, 65, 68		77, 78	51, 103 ~ 105
3. 弥生時代後期後半	15, 16, 32, 33, 37, 44, 107	52, 60, 61, 69, 73, 75	50		79, 95, 97, 102, 110, 114
4. 弥生時代後期末～ 古墳時代初頭	8, 40	56, 66, 70, 76			81 ~ 90, 94, 100, 101, 116
5. 古墳時代前期前半	12, 30, 42, 43, 47, 48, 106	57, 63, 64, 72, 74, 108	49		36, 41, 109, 111, 112, 118, 120



第1図 鉄器時期別種類構成

遺跡分布は弥生時代中期後半と同様に、下末吉台地・多摩丘陵、および三浦半島に分布が偏る。

3. 弥生時代後期後半

16遺跡から21点の鉄器が出土している。出土遺跡数は最大となる。農工具が出土資料の約半分の割合を占める。新たに有茎の鉄鎌が出現する。新たな器種として、漁労具である釣針が毘沙門洞穴遺跡から出土している。鉄劍の副葬は継続して行われる。

遺跡分布は県北西部の丹沢山地等を除いて、下末吉台地・多摩丘陵、三浦半島、境川流域、相模川流域、金目川流域、酒匂川流域と弥生時代中期後半、後期前半と比べ、県内に広く分布する。

4. 弥生時代後期末～古墳時代初頭

11遺跡から22点の鉄器が出土している。資料の大半がその他に分類されるため、数量の傾向は捉えにくい。その他を除けば、農工具、武器がほぼ半々の割合で出土する。鉄劍の副葬は継続される。その他の鉄器の中には、三角形状の鉄片や棒状の鉄片が見られる。これらは鉄製品の破片と考えられるが、村上恭通氏が指摘するような鍛冶を行った際に切りおとされた鉄片の可能性も考えられる（村上 1998）。

遺跡分布は弥生時代中期後半から後期後半まで下末吉台地・多摩丘陵、三浦半島といった県東部に集中する傾向が見られたが、この時期は相模川流域、金目川流域といった県央部に集中する。

5. 古墳時代前期前半

10遺跡22点の鉄器が出土している。新たな器種として、農工具で神戸・上宿遺跡から袋状鉄斧、漁労具で油壺遺跡からヤスが出現する。ヤスは釣針同様、沿岸部の遺跡から出土しており、立地に伴う遺跡特有の遺

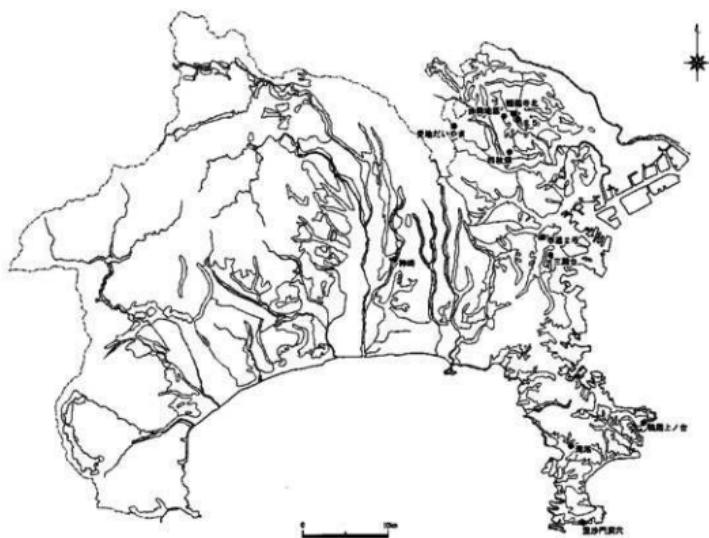
神奈川県内出土の弥生時代金属器（3）



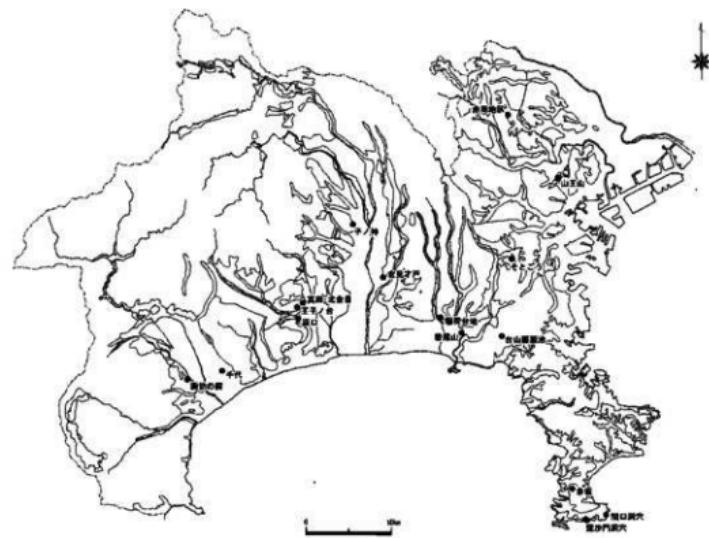
第2図 鉄器出土遺跡分布図（全時期）



第3図 鉄器出土遺跡分布図（弥生時代中期後半）



第4図 鉄器出土遺跡分布図（弥生時代後期前半）



第5図 鉄器出土遺跡分布図（弥生時代後期後半）



第6図 鉄器出土遺跡分布図（弥生時代後期末～古墳時代初頭）



第7図 鉄器出土遺跡分布図（古墳時代前期前半）

物と考えられる。鉄鎌にも新たな形態が出現する。現時点では墳墓から鉄器が出土した例はなく、弥生時代後期前半から古墳時代初頭まで続いている鉄器の副葬が途切れる。小田原市千代南原遺跡第IV地点から鉄滓が出土しており、高温操業可能な鍛冶を行っていたことを示唆する。真田・北金目遺跡出土の鉄鎌（第14図108）は鉄鎌と報告されているが、鎧の可能性がある。また、同遺跡から出土している鉄鎌破片（第14図120）は覆土中からの出土状況や形態から古墳時代前期前半以降のものである可能性がある。

遺跡分布は金目川流域を中心とする県央部、弥生時代後期末から古墳時代初頭に一旦希薄となった三浦半島を中心に分布する。

（戸羽康一）

神奈川県内における銅製品の出土傾向について

神奈川県内出土の弥生時代から古墳時代前期前半の銅製品は、今回の追加集成資料を含めて196点が集成された。このうち分析にあたって時期別推移を示す資料としたものは、時期判断可能な伴出土器が報告されている遺構出土資料に限定したため、対象資料数は87点である。対象遺物の帰属時期は第2表に示した。

出土銅製品の種類は、銅鏡、銅劍、銅環（小銅環）、銅鏡、小銅鐸（銅鐸形銅製品）、筒状銅製品などがあり、また板状銅製品や銅板破片、不明銅製品、用途不明品の名称で報告されているものがある。これらを用途別にまとめると、銅鏡は弓矢の矢の鐵であり武器、銅劍は本来輪轂であり呪術的要素を有しているが装身具、指輪状を呈する銅環または小銅環とされるものは、具体的に指輪としての使用状況を示す出土例はないが、銅劍とともに装身具と考える。また、これら銅劍と銅環（小銅環）の破片は元の用途に従って装身具類として集計する。板状銅製品、銅板破片、不明銅製品と報告されているものは、細く扁平な板状を呈するものであるが、幅や厚み、断面の形状をみると、帯状銅鏡を切断して丸みを延ばした再加工品と推測される。再加工後の用途は不明である。ここでは銅劍の断片を再加工・再利用していると考えられる物品も、装身具として集計した。銅鏡、小銅鐸（銅鐸形銅製品）、筒状銅製品は、数量が少なく特殊品であることから祭祀具と考えるべきかもしれないが、今回は「その他」として括ることにする。用途不明品とされているものは、不定形の銅薄板を折り曲げたもので、鋳造時の素材や失敗品の可能性があるが、これ自体が製品であることはないと思われる。これも「その他」として扱うこととする。

限られた資料数であるが、以下に出土銅製品の時期別数量推移と出土遺跡分布について概略をまとめる。

1. 弥生時代中期後半

神奈川県内では、弥生時代中期の銅製品は出土例がなく、弥生時代後期になってから出現する。

2. 弥生時代後期前半

5遺跡10点の銅製品が出土している。この時期から銅製品が出土するようになり、武器類である銅鏡と装身具類である銅劍、銅環がある。銅劍は貝輪系の銅劍片のみで、三浦半島の基部に所在する手広八反目遺跡や持田遺跡で出土している。また銅環が下末吉台地の山王山遺跡や三浦半島の高原遺跡で出土している。筒状銅鏡もこの時期に出現していると考えられるが未だ出土例はない。銅鏡は三浦半島の高原遺跡と県央部に位置する相模川左岸の日久尻川流域にある神崎遺跡で各1点出土している。

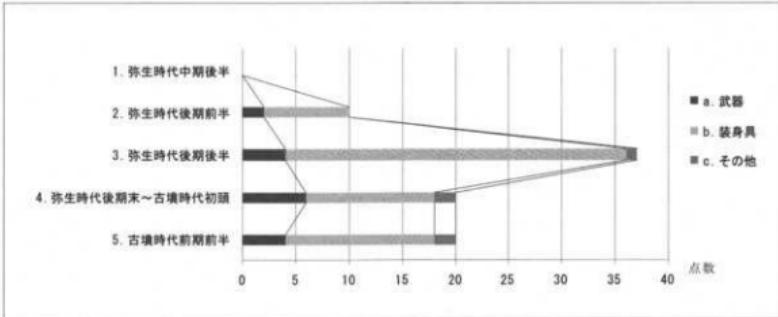
この時期は全般的に銅製品の出土は県東部地域に偏っていて、県西部では未だ出土していない。

3. 弥生時代後期後半

11遺跡37点の銅製品が出土している。この時期には武器類の銅鏡、装身具類の銅劍、銅環に加え、銅鏡の出土例がある。銅鏡は4遺跡4点が出土していて、そのうち酒匂川左岸の千代台地に立地する千代仲ノ町遺

第2表 銅製品の時期別分布（数字は図版の遺物番号）

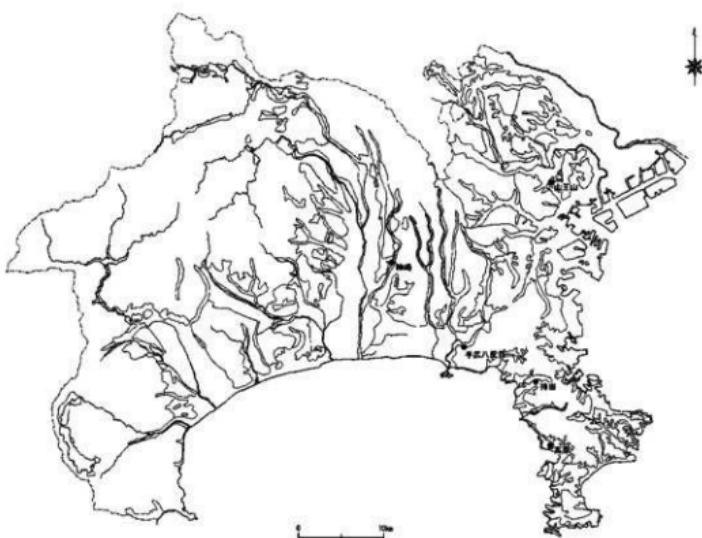
87点	a. 武器	b. 装身具	c. その他
1. 弥生時代中期後半			
2. 弥生時代後期前半	8, 13	36, 39, 73~77, 80	
3. 弥生時代後期後半	2, 14, 23, 106	31, 49, 52~55, 60, 68, 72, 79, 81, 87, 90~93, 109, 110, 113, 118~120, 125, 128, 129	126
4. 弥生時代後期末～古墳時代初頭	1, 4, 7, 10, 17, 20	32~35, 38, 45, 84, 89, 96, 114, 117, 123	99, 105
5. 古墳時代前期前半	15, 16, 29, 30	46, 48, 51, 56, 57, 59, 85, 88, 95, 111, 112, 115, 116, 122	102, 103



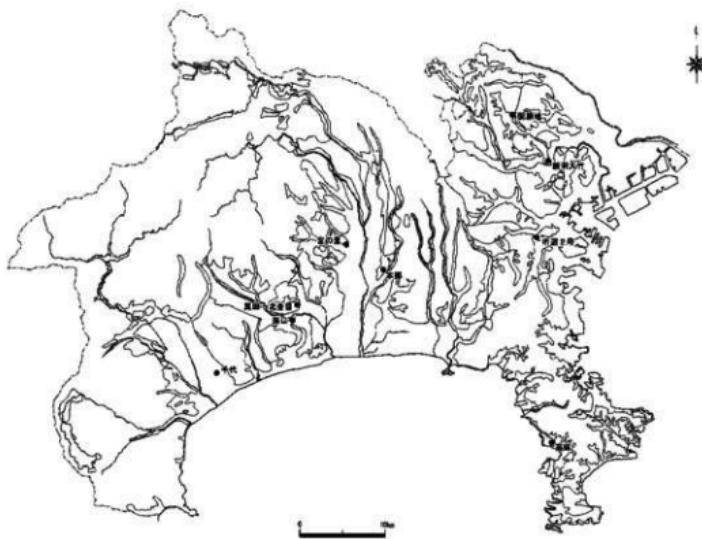
第8図 銅製品時期別種類構成



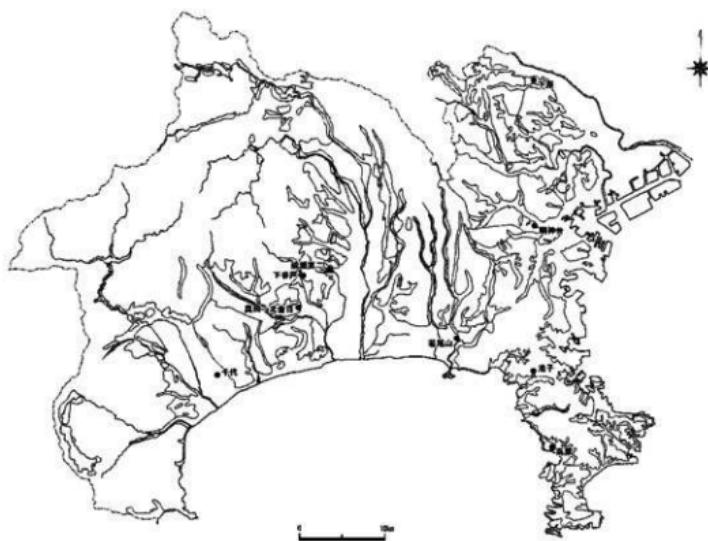
第9図 銅製品出土遺跡分布図（全時期）



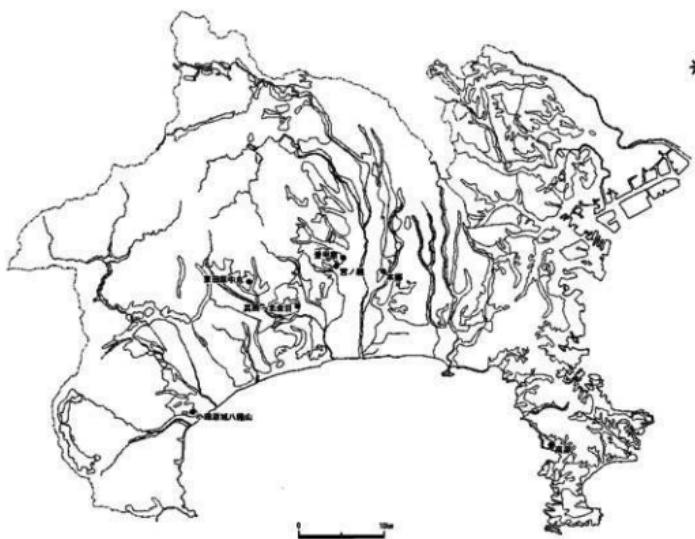
第10図 銅製品出土遺跡分布図（弥生時代後期前半）



第11図 銅製品出土遺跡分布図（弥生時代後期後半）



第12図 銅製品出土遺跡分布図（弥生時代後期末～古墳時代初頭）



第13図 銅製品出土遺跡分布図（古墳時代前期前半）

跡では、多孔銅鏡が出土している。銅劍では帯状銅劍の完形品が多摩丘陵の閑耕地遺跡と金目川流域の原口遺跡、真田・北金目遺跡群で出土していて、原口遺跡と真田・北金目遺跡群では方形周溝墓の埋葬施設から出土している。また真田・北金目遺跡群では重圓文鏡と推測される破片が出土していて、注目される。

この時期に銅製品出土量は増大し、出土遺跡も県東部から県央部、県西部まで県内全域に広がる。

4. 弥生時代後期末～古墳時代初頭

9遺跡20点の銅製品が出土している。この時期は、銅鏡、銅劍、銅環、銅鏡、用途不明品が出土している。前時期より装身具類の出土量が減少したため全体の出土量は減るが、武器類（銅鏡）の出土量は増加している。銅鏡は6遺跡で出土していて、出土遺跡は下末吉台地・多摩丘陵、三浦半島、境川流域、金目川流域に所在し広範囲である。装身具類は4遺跡で出土しているが、前時期の9遺跡から遺跡数、数量ともに大きく減少している。相模川右岸の成瀬第二地区遺跡群で小型微製鏡が出土している。

この時期の特徴として、県東部から県西部まで出土遺跡が分布するが、県央部での出土が希薄である。

5. 古墳時代前期前半

7遺跡20点の銅製品が出土している。前時期と出土点数は変わらないものの、出土遺跡数は9から7へ減少している。装身具類出土遺跡は、金目川流域の真田・北金目遺跡群で銅劍と銅環が出土しているほかは、東田原中丸遺跡で銅環1点が出土しているだけである。稀少遺物として、三浦半島の高原遺跡で筒状銅製品が出土し、相模川左岸の本郷遺跡で小銅鐸が出土している。

この時期の出土遺跡分布は、県東部の下末吉台地・多摩丘陵での出土は見られなくなり、県央部の相模川左岸でも希薄である。相模川右岸から金目川流域に出土遺跡が多くなっている。
(池田)

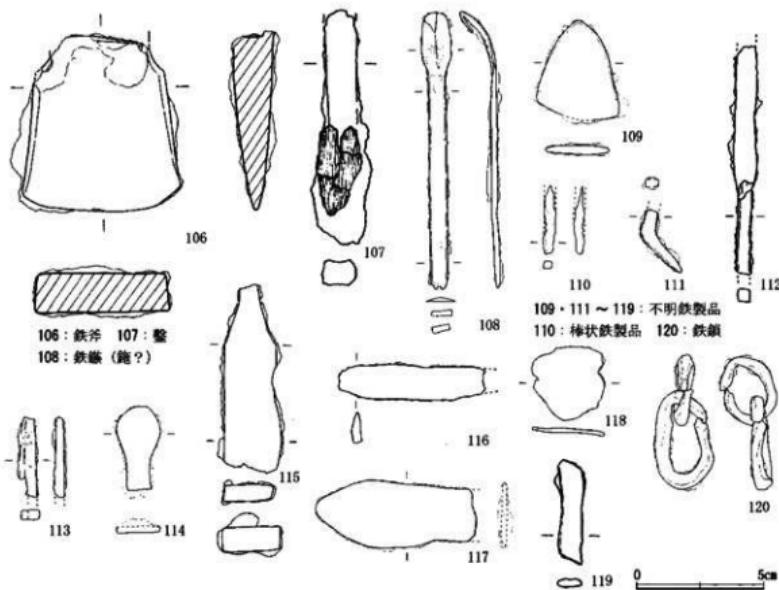
まとめ

弥生時代から古墳時代前期にかけての鉄器および銅製品の出土傾向について分析を行い、特徴を時期別にまとめてきた。鉄器は弥生時代中期後半から農工具を中心として出現するようになり、後期前半に装身具の出現、武器類の増加があり、後期後半には漁労具が新たに加わり、古墳時代前期に至って新たな器種の出現と鉄滓の多量出土という現象が見られる。これに対して銅製品は弥生時代後期になってから出現し、武器、装身具が基本的器種であり、後期後半に数量が増大し、鏡などのその他器種が散見されるようになり、以後数量は減少するという傾向があり、鉄器とは異なる推移を示している。一方、出土遺跡の分布については両者同様の傾向を示し、当初は県東部に多く、後期後半以降広範囲に広がり、次第に県西部に分布中心が移ることが共通した傾向である。これは遺跡全体の時期別分布動向と関連する現象と考えられる。
(池田)

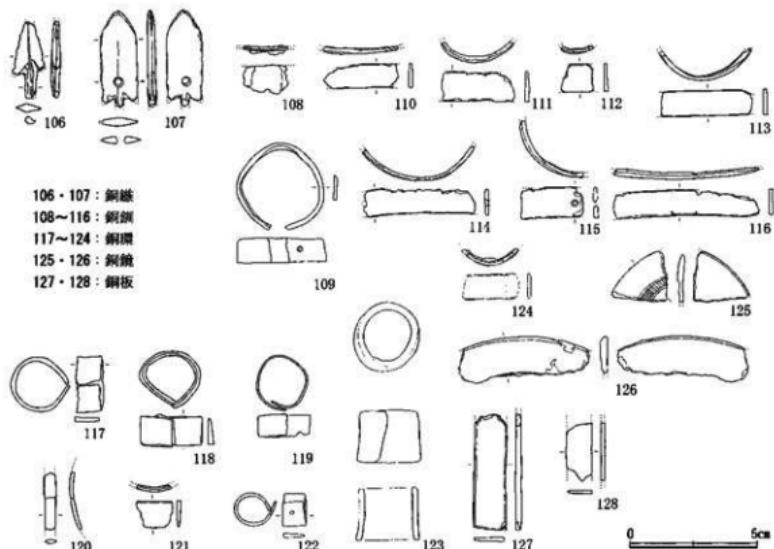
追加集成報告書等文献（第3・4表に対応）

- a. 平塚市真田・北金目遺跡調査会 2010 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書7』 平塚市真田・北金目遺跡調査会
- b. 小田原市教育委員会 2010 『千代南原遺跡第XVI・XVII・XX地点』 小田原市文化財調査報告書第154集

神奈川県内出土の弥生時代金器（3）



第14図 鉄器追加集成 [S=1/2]



第15図 銅製品追加集成 [S=1/2]

第3表 鉄製品追加資料一覧表

市町村	遺跡名	遺構名	遺物名	数量	時期	図番号	備考	文献 No.
平塚市	真田・北金目遺跡群	34B区 S1091	鉄鏃	1	古墳前期	108	鍔の可能性有	a
		44 区 S10098	不明鉄製品	1	古墳前期	109		
		34A区 S1040	棒状鉄製品	1	弥生後期～古墳前期	110		
		44 区 S10075	不明鉄製品	1	古墳前期	111	角釘状の破片	
		36B区 S11023	不明鉄製品	1	弥生後期～古墳前期	112	棒状で断面方形	
		34B区 S1094	不明鉄製品	1	弥生後期	113	棒状の鉄製品二本	
		44 区 S10161	不明鉄製品	1	弥生後期後半	114	円子形	
		34E区 S11001	不明鉄製品	1	弥生後期～古墳前期	115	板状、一端が尖る	
		36B区 S11036	不明鉄製品	1	弥生後期～古墳前期	116	複土出土	
		44 区 SK0222	不明鉄製品	1	古墳前期末葉	117	複土下層出土	
		34A区 S1031	不明鉄製品	1	古墳前期	118	薄手の板状	
		34A区 S1046	鉄鏃破片	1	古墳前期	120	鍔二部部分の破片	
		千代南原遺跡 第XVII地点	鑿	1	弥生後期	107	柄の木質一部残存	b
		6号住居址	不明鉄製品	1	弥生後期～古墳前期	119		
		千代南原遺跡 第XVIII地点	遺構外					
小田原市								

第4表 銅製品追加資料一覧表

市町村	遺跡番号	遺跡名	遺構名	遺物名	数量	時期	図番号	備考	文献 No.
平塚市	38	真田・北金目遺跡群	23B区 S11003	銅鏃	1	弥生後期～古墳前期	106		a
			44 区 重構外	銅鏃	1	弥生後期～古墳前期	107	茎部欠損	
			34A区 S1050	銅劍片	1	弥生後期	108		
			36B区 SDH1001	銅劍	1	弥生後期	109		
			44 区 S10045	銅劍破片	1	古墳前期	110		
			44 区 S10073	銅劍破片	1	古墳前期	111		
			44 区 S10131	銅劍破片	1	弥生後期後半	112		
			44 区 S10146	銅劍破片	1	弥生後期後半	113		
			44 区 S10097	銅劍破片	1	古墳前期前半	114		
			44 区 S10075	銅劍破片	1	古墳前期	115		
			44 区 S10090	銅劍破片	1	弥生後期後半	116		
			12F区 S15038	銅環	1	弥生後期～古墳前期	117		
			34B区 S1088	銅環	1	弥生後期	118		
			36B区 S11031	銅環	1	弥生後期	119		
			28C区 重構外	銅環破片	1	弥生後期～古墳前期	120		
			34C区 S1163	銅環破片	1	古墳前期	121		
			34F区 SDH2002	銅環	1	弥生後期～古墳前期	122		
			47 区 重構外	銅環	1	弥生後期～古墳前期	123		
			49A区 S1008	銅環破片	1	弥生後期	124		
			44 区 S10159	銅鏡片	1	弥生後期後半	125	重圓文鏡か	
			44 区 重構外	銅鏡片	1	弥生後期～古墳前期	126	連弧文鏡か	
			23C区 S12015	銅板破片	1	弥生後期	127		
			34C区 S1142	銅板破片	1	弥生後期	128		

神奈川県における古代の鉄（1）

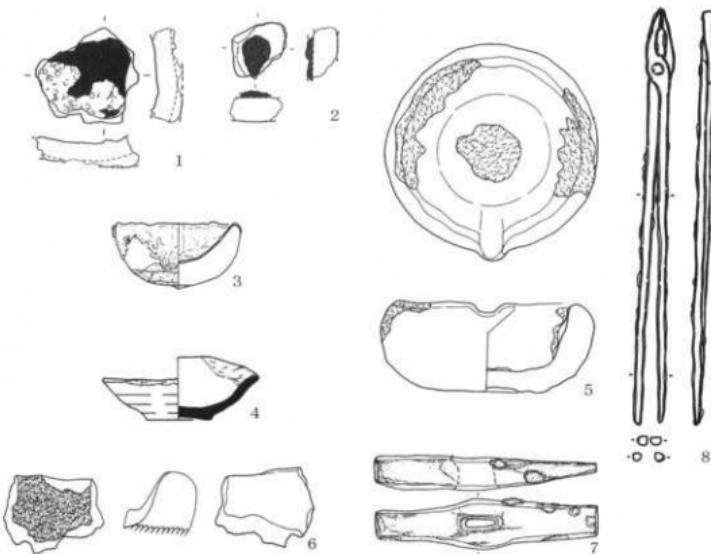
－生産関連遺物の集成－

奈良・平安時代研究プロジェクトチーム

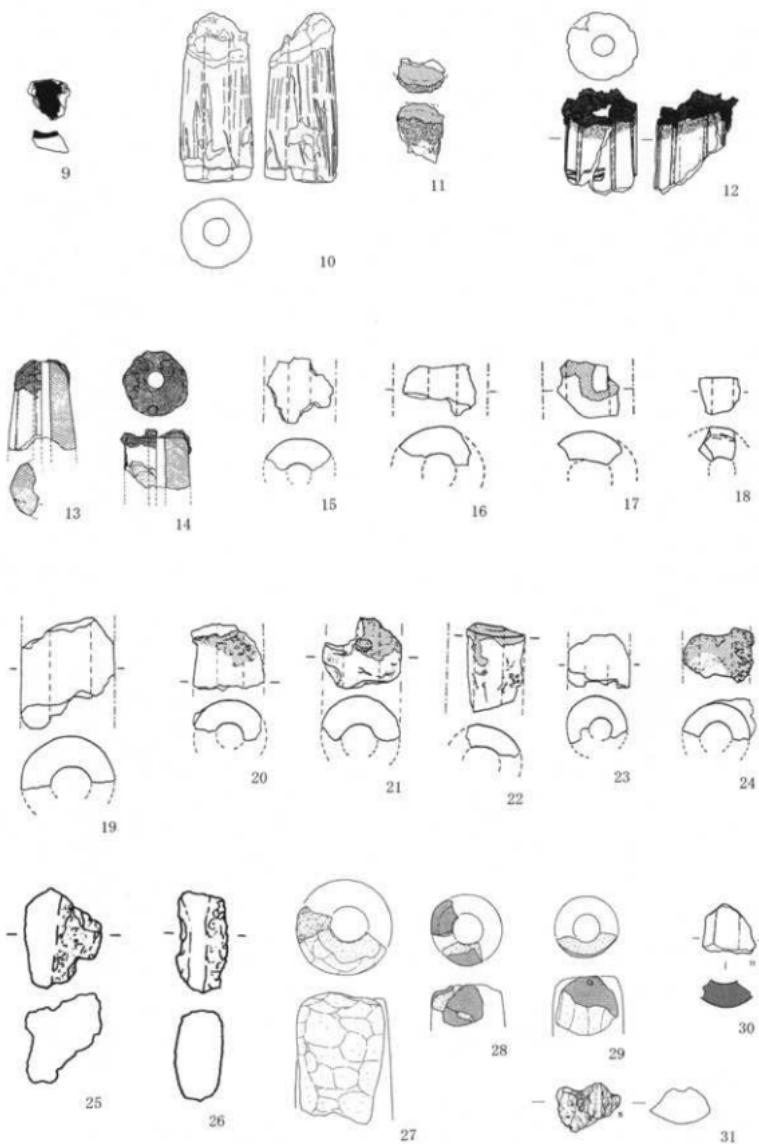
1. はじめに

奈良・平安時代研究プロジェクトチームでは以前、「神奈川県内における奈良・平安時代の農具」という題で鉄製農具の集成を行ったことがある。そのときは旧相模国地域出土の鎌、穂摘み具、鋤歎先について考察を行っている。鉄製品は破損・欠損しても貴重な原料として再利用される確率が高い。たとえ再利用されなくとも土器や石器と違い長い年月地中にあると、腐蝕が進み遺存していない場合も多いだろう。そしてそれらがどこで生産され、流通していったのか不明であった。近年の発掘で、平塚市の六ノ城遺跡から鍛冶工房址が発見されたことにより神奈川県内での生産の一端が明らかになった。

今回、奈良・平安時代研究プロジェクトチームでは、県内各地で出土した鉄生産に関連する遺物の集成を行った。他にどのような規模、施設で生産行為が行われていたのか、地域差があるのか明らかにすることを目指すことにした。鉄滓については主に楕円形を中心に掲載し、遺構内であっても単独で出土した小鉄滓は除いた。紙面の都合により、横浜市・川崎市の旧武藏国と発見例の多い平塚市は次年度に送る。表の計測値は報告書に記載が無く、図がある場合は計測した。また、図版はすべて1/4に統一した。

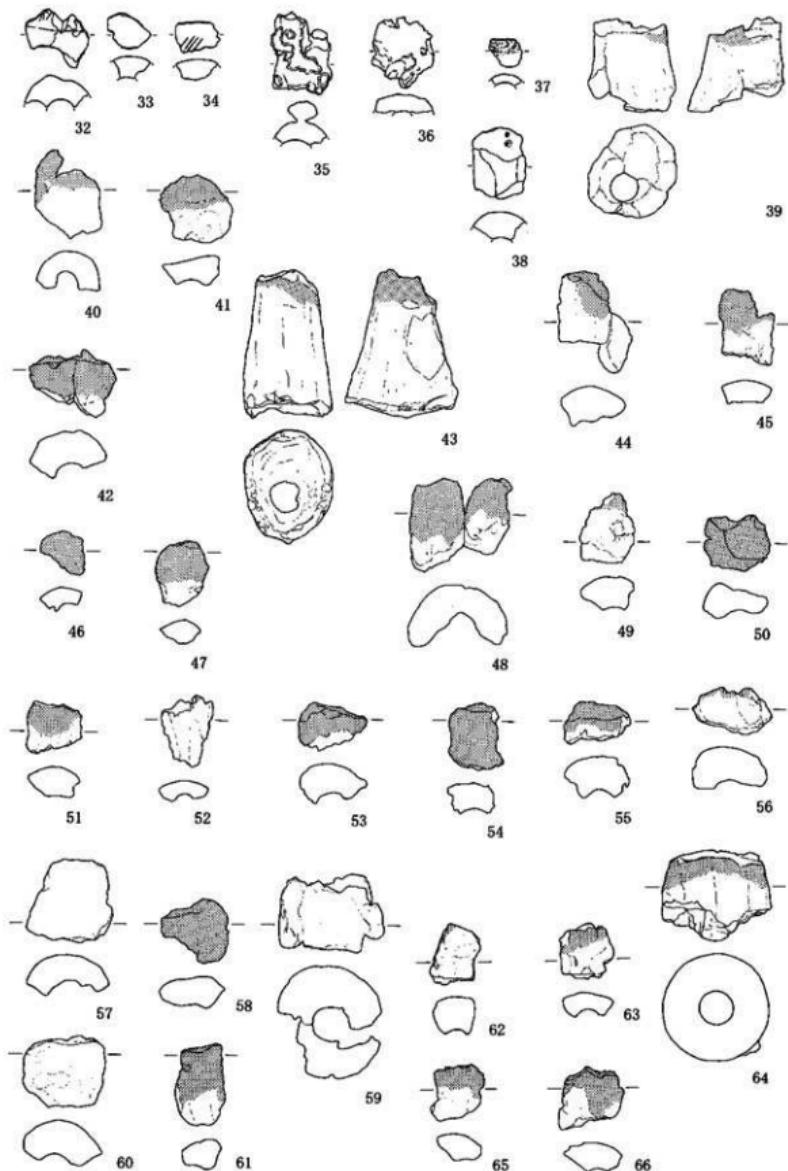


第1図 鉄生産関連遺物 1

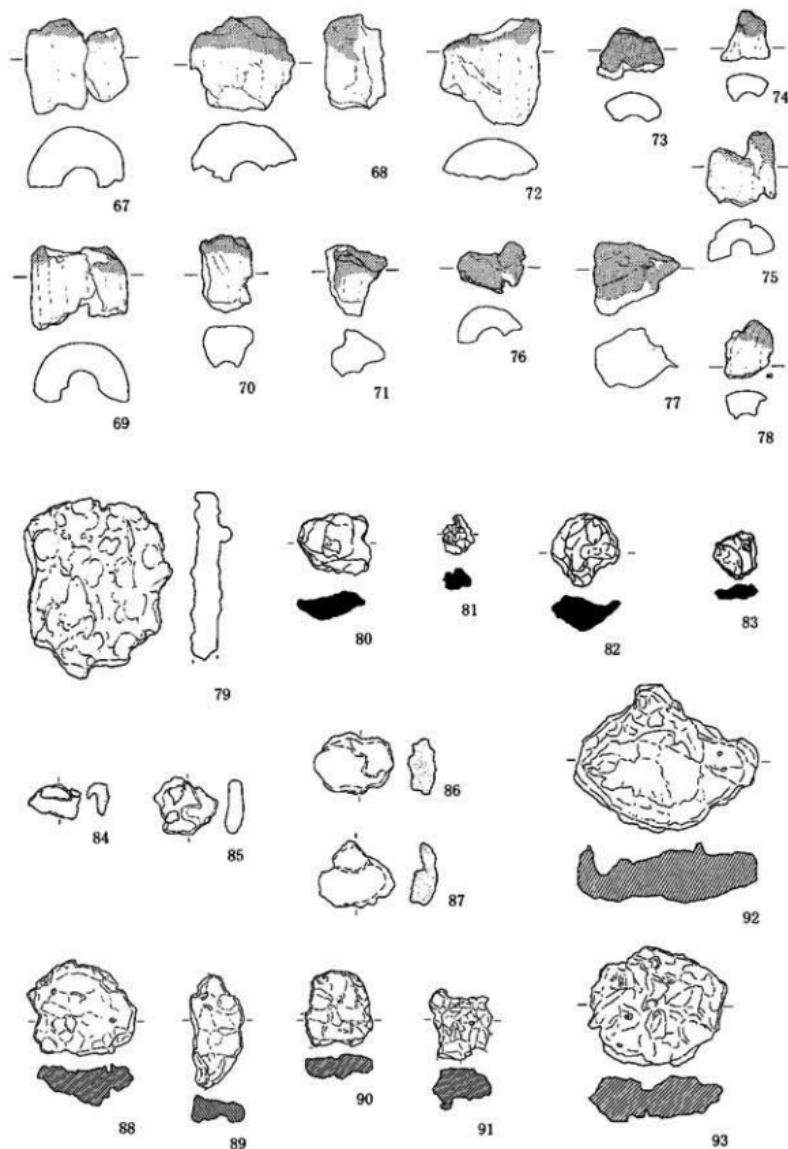


第2図 鉄生産関連遺物 2

神奈川県における古代の鉄 (1)

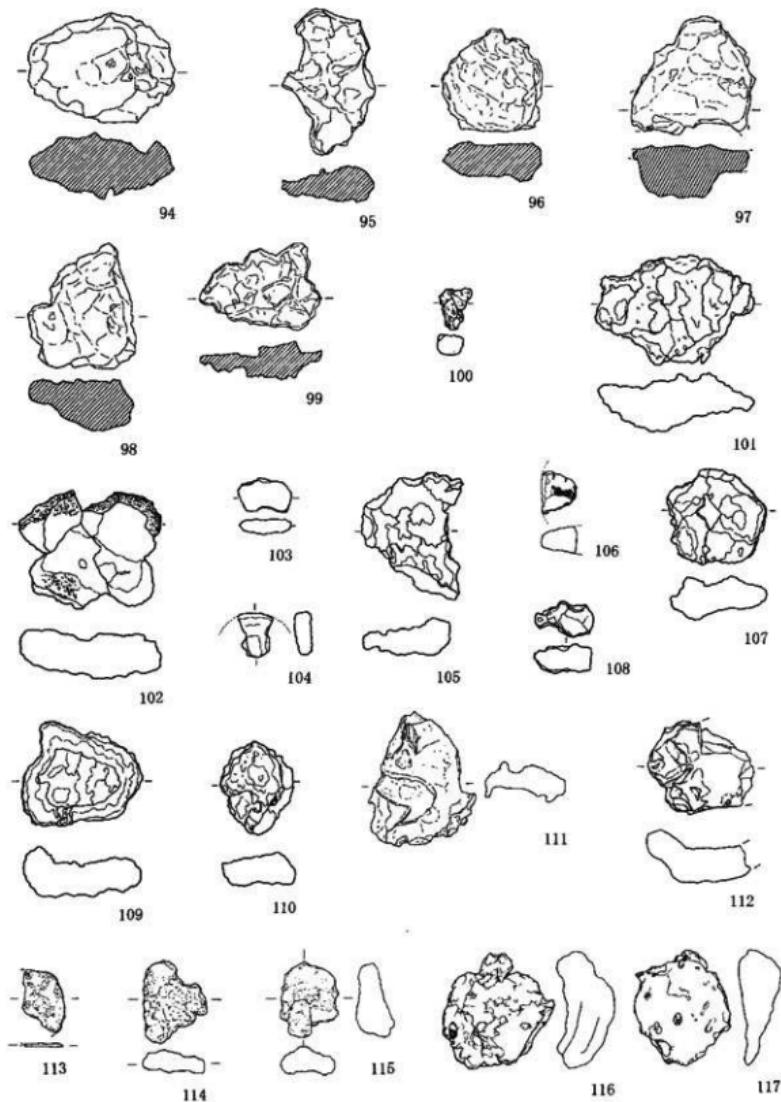


第3図 鉄生産関連遺物 3

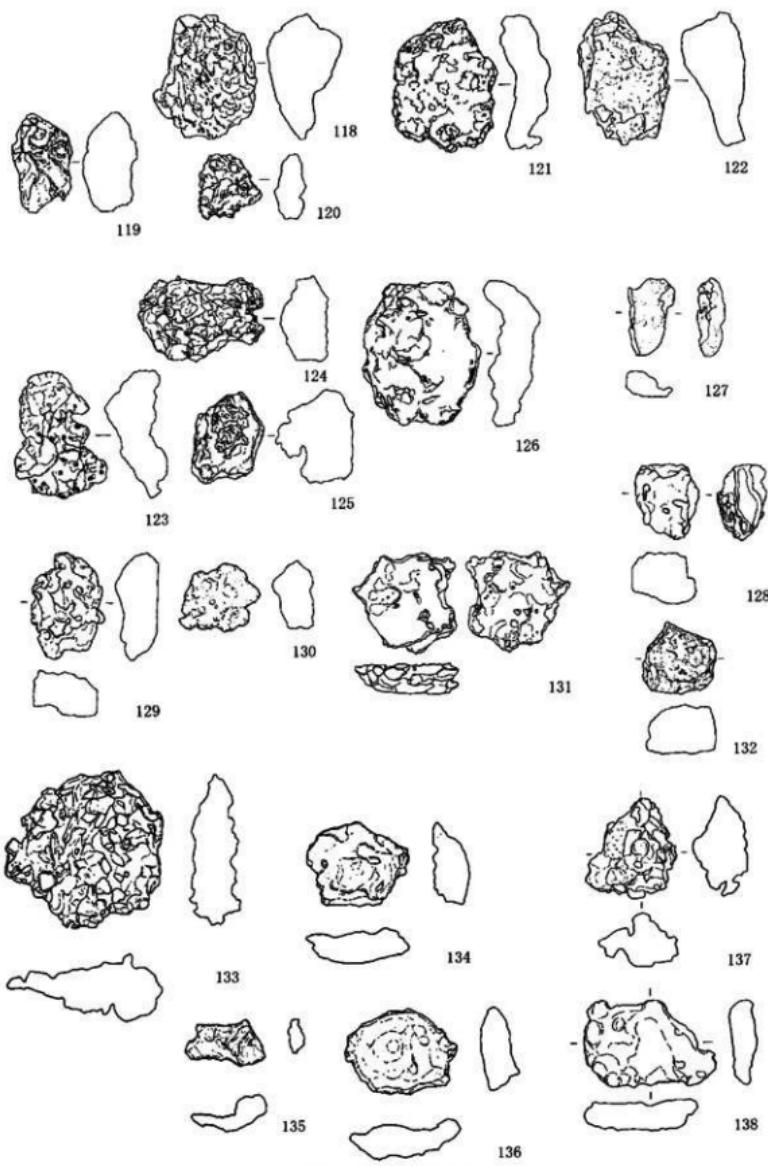


第4図 鉄生産関連遺物4

神奈川県における古代の鉄 (1)



第5図 鉄生産関連遺物 5



第6図 鉄生産関連遺物 6

【埴燒・取瓶】

・横須賀市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量(cm)			遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み			
1	埴燒	宋元寺D地点		1トレンチ		(7.0)	(7.5)	2.2		発泡	横須賀市教育委員会2007『横須賀市文化財調査報告書第44集』宗元寺C・D地点発掘調査報告
2	埴燒	宋元寺D地点		1トレンチ		(4.0)	(4.0)	2.3		発泡、鉄分付着	横須賀市教育委員会2007『横須賀市文化財調査報告書第44集』宗元寺C・D地点発掘調査報告

・茅ヶ崎市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量(cm)			遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み			
3	埴燒	七堂伽藍跡	2トレンチ 整穴住居址			9.8	-	5.1		銅鏡鏡 土師器転用	大村浩司2004『下寺七堂伽藍跡確認を概報』
4	取瓶	小出川遺跡群	111号住居			12.7	5.3	5.3	139.7	須恵製壺転用	小池聰人2010『小出川河川改修事業箇所遺跡群』

・鎌倉市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量(cm)			遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	重さ(g)			
5	取瓶	平和坂遺跡	第2号住居址			14.7	9.6	7.6	8世紀後半～9世紀前半	炉あり	小池聰他1993『平和坂遺跡』
6	取瓶	平和坂遺跡	第2号住居址			-	-	-		小破片	小池聰他1993『平和坂遺跡』

【鉄製品】

・厚木市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量(cm)			遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み			
7	鉢	鹿尾遺跡	55号整穴住居址	-		13.8	3.2	2.0	10世紀後半		国平健三他1975『鹿尾遺跡』

・相模原市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量(cm)			遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み			
8	カナシ	田名塩田原遺跡	8号住居址	覆土	完形	34.0	-	-	9世紀後半		高澤在也1993『田名塩田原遺跡』

【羽口】

・小田原市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量(cm)			遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み			
9	羽口	永翠下り畠遺跡	H9号住居址	覆土か	-	-	-	-			高木秀雄他2002『下曾我遺跡・水塚下り畠遺跡第IV地点』

・秦野市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量(cm)			遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み			
9	羽口	諏訪原遺跡	SD008		1/4以下	(4.3)	4.5	-	中世にはいる?	内面に鉄付着。色調:褐色	青出俊治他2006『諏訪原遺跡』秦野市今泉諏訪原土地区画整理事業に伴う調査報告』
10	羽口	鶴巣天神台遺跡(9902地点)	S104	南壁裏	床面直上	(17.8)	7.7	7.5	8世紀後半	先端に鉄付着	青出俊治他2007『秦野の遺跡』
11	羽口	草山遺跡	S101	櫻字中～下層		-	-	-	9世紀前半	鉄洋・轆片多數	安藤文一他1983『草山遺跡N-24地点』
12	羽口	草山遺跡	112号整穴住居址			(3.5)	-	-	10世紀		村上吉正他2000『草山遺跡』
										ガラス状の鉄滓の付着。外 面に軸方向のU字状の浅い 溝六ヶ所あり	村上吉正他1997『中里遺跡(N-31)・西大竹 上原遺跡(N-32)』

・那木市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量(cm)			遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み	孔径		
13 羽口	虎尾遺跡	遺構外	-			(5.3)	4.0	1.0	-	奈良・平安	国平健三郎1975「虎尾遺跡」
14 羽口	虎尾遺跡	遺構外	-			(3.3)	3.7	3.7	1.0	奈良・平安	国平健三郎1975「虎尾遺跡」
15 羽口	飛川天台遺跡	11号住居址	廻上・中層			(5.2)	(5.4)	2.0	-	-	日野一郎1997「飛川天台遺跡」
16 羽口	飛川天台遺跡	1号廻居址	廻土			(7.2)	-	-	(2.8)	9～10世紀	日野一郎1997「飛川天台遺跡」
17 羽口	飛川天台遺跡	1号廻居址	廻土			-	-	-	-	9～10世紀	日野一郎1997「飛川天台遺跡」
18 羽口	飛川天台遺跡	1号廻居址	廻土			(6.3)	-	-	(2.2)	9～10世紀	日野一郎1997「飛川天台遺跡」
19 羽口	飛川天台遺跡	2号廻居址	廻土			(7.2)	-	-	(3.2)	9～10世紀	日野一郎1997「飛川天台遺跡」
20 羽口	飛川天台遺跡	2号廻居址	廻土			(5.6)	-	-	(2.1)	9～10世紀	日野一郎1997「飛川天台遺跡」
21 羽口	飛川天台遺跡	2号廻居址	廻土			(6.0)	-	-	(2.8)	9～10世紀	日野一郎1997「飛川天台遺跡」
22 羽口	飛川天台遺跡	2号廻居址	廻土			(6.0)	-	-	(2.2)	9～10世紀	日野一郎1997「飛川天台遺跡」
23 羽口	飛川天台遺跡	2号廻居址	廻土			(5.0)	-	-	(1.8)	9～10世紀	日野一郎1997「飛川天台遺跡」
24 羽口	飛川天台遺跡	2号廻居址	廻土			(5.2)	-	-	(2.4)	9～10世紀	日野一郎1997「飛川天台遺跡」
25 羽口	下伏野山中遺跡	遺構外	-			(5.6)	4.2	-	-	-	日野一郎1998「下伏野山中遺跡」
26 羽口	下伏野山中遺跡	遺構外	-			(5.9)	2.0	-	-	-	日野一郎1998「下伏野山中遺跡」

・相模原市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量(cm)			遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み	孔径		
羽口	縹本遺跡	73号住居址	廻土			-	-	-	-	10世紀第2四半期	重畠永好他1986「縹本遺跡」
27 羽口	相原田ノ上遺跡	7号堅穴住居址	廻土			(10.2)	(7.6)	(7.5)	(3.0)	9世紀前半～中ごろ	青木義他1980「相原田ノ上遺跡」
28 羽口	相原田ノ上遺跡	7号堅穴住居址	廻土			(3.2)	(5.6)	(5.6)	(2.30)	9世紀前半～中ごろ	青木義他1980「相原田ノ上遺跡」
29 羽口	相原田ノ上遺跡	7号堅穴住居址	廻土			(4.6)	5.0	-	-	9世紀前半～中ごろ	青木義他1980「相原田ノ上遺跡」

・海老名市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量(cm)			遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み	孔径		
羽口	海老名本郷	19号住居址				-	-	-	-	-	合田秀正ほか1987「海老名本郷(Ⅲ)」
30 羽口	海老名本郷	42号住居址				-	-	-	-	-	合田秀正ほか1987「海老名本郷(Ⅳ)」
31 羽口	海老名本郷	M P N 8号住居址				(3.2)	(5.0)	-	-	-	合田秀正ほか1988「海老名本郷(Ⅴ)」

・多ヶ崎市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量(cm)			遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み	孔径		
32 羽口	下寺尾西方人遺跡	H 1号堅穴住居址				(4.6)	(4.9)	2.0	-	8世紀第2四半期	村上吉正他2003「下寺尾西方人遺跡」
33 羽口	下寺尾西方人遺跡	H 1号堅穴住居址				(2.8)	(3.3)	1.7	-	8世紀第2四半期	村上吉正他2003「下寺尾西方人遺跡」
34 羽口	下寺尾西方人遺跡	H 1号堅穴住居址				(2.4)	(3.4)	1.6	-	8世紀第2四半期	村上吉正他2003「下寺尾西方人遺跡」
35 羽口	下寺尾西方人遺跡	H 2号堅穴住居址				(6.8)	(5.1)	4.5	-	8世紀第2四半期	村上吉正他2003「下寺尾西方人遺跡」
36 羽口	下寺尾西方人遺跡	H 2号堅穴住居址				(5.8)	(5.0)	1.4	-	8世紀第2四半期	村上吉正他2003「下寺尾西方人遺跡」
37 羽口	下寺尾西方人遺跡	H 2号堅穴住居址				(2.3)	(2.7)	0.7	-	8世紀第2四半期	村上吉正他2003「下寺尾西方人遺跡」
38 羽口	下寺尾西方人遺跡	H 1号堅穴住居址				(5.5)	(4.3)	2.0	-	8世紀以降	村上吉正他2003「下寺尾西方人遺跡」

・鎌倉市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量(cm)			遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み	孔径		
羽口	今小路西遺跡	古代層				-	-	-	-	古代	鎌倉市教育委員会1990「今小路西遺跡(御成小学校内)発掘調査報告書 第1分冊本文編」

・逗子市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量(cm)			遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み	孔径		
羽口	泡子遺跡群	第3号構造遺構				-	-	-	-	-	-

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量 (cm)			遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み 孔径			
39	羽口	池子遺跡群	C VE62区			(7.0)	(6.3)	(7.2)	2.2	182.8g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
40	羽口	池子遺跡群	C VE62区			(7.2)	5.0	(3.0)	1.7	63.9g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
41	羽口	池子遺跡群	B VE80区			(5.3)	(5.6)	(2.8)	-	56.6g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
42	羽口	池子遺跡群	B VE89区			(5.4)	(6.5)	(3.6)	-	73.8g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
43	羽口	池子遺跡群	C VE71区			(11.5)	6.6	8.7	2.2	337.4g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
44	羽口	池子遺跡群	B VE89区			(7.9)	(5.7)	(3.4)	-	68.7g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
45	羽口	池子遺跡群	B VE89区			(5.9)	(4.3)	(1.8)	-	35.7g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
46	羽口	池子遺跡群	B VE89区			(2.8)	(3.9)	(1.6)	-	12.5g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
47	羽口	池子遺跡群	B VE89区			(5.0)	(4.1)	(2.1)	-	34.2g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
48	羽口	池子遺跡群	B VE81区			(7.3)	(7.8)	(5.0)	2.0	170.5g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
49	羽口	池子遺跡群	B VE89区			(5.4)	(4.3)	(2.6)	-	41.2g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
50	羽口	池子遺跡群	C VE81区			(4.9)	(5.1)	(2.3)	-	48.3g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
51	羽口	池子遺跡群	C VE81区			(4.2)	(4.4)	(2.2)	-	30.3g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
52	羽口	池子遺跡群	C VE81区			(5.4)	(4.2)	(1.6)	-	20.4g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
53	羽口	池子遺跡群	B VE90区			(4.1)	(5.3)	(2.8)	-	37.5g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
54	羽口	池子遺跡群	B VE90区			(5.4)	(4.3)	(2.4)	-	50.3g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
55	羽口	池子遺跡群	B VE90区			(4.3)	(5.2)	(2.7)	-	41.7g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
56	羽口	池子遺跡群	B VE95区			(3.6)	(6.2)	(3.1)	-	52.9g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
57	羽口	池子遺跡群	C VE91区			(6.4)	(6.7)	(3.6)	-	115.4g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
58	羽口	池子遺跡群	B VE99区			(5.2)	(5.2)	(2.8)	-	40.3g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
59	羽口	池子遺跡群	B VE9区			(6.5)	(8.2)	8.4	3.2	229.1g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
60	羽口	池子遺跡群	H VE100区			(5.5)	(6.5)	(3.2)	-	98.8g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
61	羽口	池子遺跡群	B VE100区			(6.3)	(4.1)	(2.3)	-	54.6g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
62	羽口	池子遺跡群	B IX 9区			(4.7)	(4.0)	(3.1)	-	40.0g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
63	羽口	池子遺跡群	B IX 9区			(4.2)	(4.3)	(1.7)	-	24.8g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
64	羽口	池子遺跡群	B IX 100区			(7.7)	8.5	8.5	2.6	382.0g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
65	羽口	池子遺跡群	B IX 10区			(4.0)	(4.5)	(2.2)	-	31.4g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
66	羽口	池子遺跡群	B IX 28区			(5.0)	(5.3)	(2.9)	-	48.6g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
67	羽口	池子遺跡群	B IX 28区			(7.6)	(7.5)	(4.2)	2.7	143.3g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
68	羽口	池子遺跡群	B IX 39区			(7.5)	(8.2)	(4.5)	2.6	178.8g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
69	羽口	池子遺跡群	B IX 205区			(6.3)	(7.4)	(4.6)	2.3	162.0g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
70	羽口	池子遺跡群	B IX 28区			(5.9)	(4.0)	(2.9)	-	60.1g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
71	羽口	池子遺跡群	B IX 39区			(5.6)	(4.1)	(3.7)	-	53.5g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
72	羽口	池子遺跡群	C IX 51区			(8.5)	(7.7)	(3.1)	-	140.2g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
73	羽口	池子遺跡群	B IX 50区			(4.0)	(5.2)	(2.4)	-	34.7g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
74	羽口	池子遺跡群	C IX 58区			(3.8)	(3.8)	(2.0)	-	16.6g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
75	羽口	池子遺跡群	C IX 67区			(6.2)	5.3	(3.1)	1.6	55.8g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
76	羽口	池子遺跡群	C IX 67区			(4.4)	(5.2)	(2.7)	-	26.4g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
77	羽口	池子遺跡群	C IX 90区			(5.9)	(6.8)	(3.9)	-	84.3g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』
78	羽口	池子遺跡群	C IX 79区			(4.4)	(3.7)	(1.9)	-	27.3g	長谷川厚也1999『池子遺跡群』

【鉢洋】

・小田原市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量 (cm)	重量 (g)	遺構時期	備考	文献名
79	鉢洋	千代南原遺跡 (第XV地点)	遺構外	-	-	6.9	5.6	1.9	-	長澤亮介2008『千代南原遺跡第XV地点・千代南原遺跡第XIX地点』

・秦野市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 量 (cm)	重量 (g)	遺構時期	備考	文献名
80	鉢洋	芦原原遺跡	S1001堅穴住居址	覆土	-	4.1	3.3	2.0	26.0	古墳時代後期以降 斎藤浩介2006『坂井原遺跡・秦野市今泉坂井原地区面整理実業に伴う調査報告』

No.	器種名	遺跡名	出土場所	出土位置	存査状況	法 長 幅 厚 み (cm)			重 量 (g)	造構時期	備考	文獻名
						長さ	幅	厚み				
81	鉄滓	諏訪原遺跡	S1001竪穴住居址	覆土		7.0	6.1	2.3	153.0		発泡	南出後古代2006『諏訪原遺跡 東野市今泉諏訪原上地区西面理事業に伴う調査報告』
82	鉄滓	諏訪原遺跡	SD001	覆土		5.5	5.4	2.6	84.0		発泡	南出後古代2006『諏訪原遺跡 東野市今泉諏訪原上地区西面理事業に伴う調査報告』
83	鉄滓	諏訪原遺跡	PIT097	覆土		3.8	3.3	1.0	15.0		発泡	南出後古代2006『諏訪原遺跡 東野市今泉諏訪原上地区西面理事業に伴う調査報告』
84	鉄滓	鶴巣天神右遺跡 (9902地点)	S103	覆土		4.9	3.2	2.0	25.0			南出後古代2007『東野の遺跡』
85	鉄滓	鶴巣天神右遺跡 (9902地点)	S104	覆土か		5.8	5.8	1.7	78.0	8世紀後半		南出後古代2007『東野の遺跡』
86	鉄滓	小舟遺跡	SP20	覆土か		5.8	5.5	2.8	210.0	時期不詳		南出後古代2007『東野の遺跡』
87	鉄滓	小舟遺跡	遺構外	-		6.5	8.1	3.0	190.0	-		南出後古代2007『東野の遺跡』
88	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		7.2	7.9	2.9	177.8			村上吉正他2000『草山遺跡』
89	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		8.6	4.1	2.1	100.6			村上吉正他2000『草山遺跡』
90	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		5.6	5.1	1.9	77.8			村上吉正他2000『草山遺跡』
91	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		5.3	4.5	3.1	60.1			村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土			4.4	3.4	2.6	45.2			村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土			4.4	3.3	2.6	43.0			村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土上層			5.7	3.9	2.7	42.0			村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土			4.5	3.2	2.7	39.4			村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土			4.5	2.8	2.1	34.4			村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土			4.1	3.5	2.0	33.4			村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土			3.9	3.8	2.1	29.8			村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土			5.9	2.9	1.5	27.1			村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土			3.6	2.5	2.0	23.6			村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土			-	-	-	23.4			破損品
鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土			3.6	3.0	2.2	23.1			村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土上層			3.3	2.9	1.4	22.0			村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	新カマド			5.1	5.4	1.8	21.4			村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土上層			3.0	2.9	1.6	21.2			村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土			3.3	2.8	2.7	20.5			村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土上層			2.8	2.6	1.6	20.0			村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土上層			2.9	2.9	1.6	18.0			村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土			3.3	2.3	1.9	17.7			村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土			2.7	3.3	2.0	17.1			村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	田カマド			3.6	2.4	2.5	16.6			村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土上層			2.6	1.9	1.9	15.8			村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土			2.6	2.4	2.1	15.7			村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土			3.6	2.6	1.3	14.1			村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土			3.1	3.2	1.9	13.7			村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土上層			3.4	2.4	1.5	13.6			村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土上層			3.2	2.1	1.1	12.8			村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土			2.5	2.2	1.6	12.6			村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土			3.3	2.2	1.4	11.3			村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土			-	-	-	11.2			村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土			2.5	2.2	1.4	10.7			村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土上層			2.9	2.6	1.7	10.1			村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土			2.6	2.3	1.5	9.4			村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土			2.6	1.7	1.5	8.9			村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土			3.0	2.5	1.4	8.5			村上吉正他2000『草山遺跡』

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 長 幅 厚 cm	重量 g	遺構時期	備考	文献名
1	草山遺跡	1号竪穴住居	層土	2.4	1.6	1.6	7.5			村上吉正他2000『草山遺跡』
2	草山遺跡	1号竪穴住居	層土	2.1	1.6	1.6	7.2			村上吉正他2000『草山遺跡』
3	草山遺跡	1号竪穴住居	新カマド	1.8	1.8	1.5	6.2			村上吉正他2000『草山遺跡』
4	草山遺跡	1号竪穴住居	層土	2.8	1.4	1.4	5.3			村上吉正他2000『草山遺跡』
5	草山遺跡	1号竪穴住居	層土	2.0	1.4	1.3	5.0			村上吉正他2000『草山遺跡』
6	草山遺跡	1号竪穴住居	層土	2.0	0.9	0.8	2.7			村上吉正他2000『草山遺跡』
7	草山遺跡	1号竪穴住居	層土	2.2	1.7	6.2	2.6			村上吉正他2000『草山遺跡』
8	草山遺跡	1号竪穴住居	層土	2.1	1.6	1.3	1.3			村上吉正他2000『草山遺跡』
92	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居		8.5	10.4	3.3	232.2	楕形洋・也鉄津21点中8点楕形	村上吉正他2000『草山遺跡』
93	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居		6.9	7.8	2.6	149.2	楕形洋・也鉄津21点中8点楕形	村上吉正他2000『草山遺跡』
94	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居		6.4	8.4	3.5	212.9	楕形洋・也鉄津21点中8点楕形	村上吉正他2000『草山遺跡』
95	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居		8.4	5.4	2.0	79.2	楕形洋・也鉄津21点中8点楕形	村上吉正他2000『草山遺跡』
96	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居		5.9	5.8	2.1	127.9	楕形洋・也鉄津21点中8点楕形	村上吉正他2000『草山遺跡』
97	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居		7.6	6.8	3.0	137.1	楕形洋・也鉄津21点中8点楕形	村上吉正他2000『草山遺跡』
98	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居		7.3	6.1	2.8	152.5	楕形洋・也鉄津21点中8点楕形	村上吉正他2000『草山遺跡』
99	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居		5.0	7.1	2.1	66.9	楕形洋・也鉄津21点中8点楕形	村上吉正他2000『草山遺跡』
100	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居		9.4	5.8	2.4	176.6	楕形洋	村上吉正他2000『草山遺跡』
101	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居		8.8	4.0	2.7	99.2	楕形洋	村上吉正他2000『草山遺跡』
102	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	カマド	7.9	4.6	2.0	84.5	楕形洋	村上吉正他2000『草山遺跡』
103	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土	5.4	4.4	2.1	77.9	楕形洋	村上吉正他2000『草山遺跡』
104	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土	4.2	3.3	2.2	65.6	楕形洋	村上吉正他2000『草山遺跡』
105	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土	6.1	3.5	2.8	65.4	楕形洋	村上吉正他2000『草山遺跡』
106	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土	5.4	4.0	2.6	64.2	楕形洋	村上吉正他2000『草山遺跡』
107	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土	4.5	3.7	3.4	59.5	楕形洋	村上吉正他2000『草山遺跡』
108	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土	5.3	5.1	2.1	59.8	楕形洋	村上吉正他2000『草山遺跡』
109	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土	4.9	3.7	1.9	59.4	楕形洋	村上吉正他2000『草山遺跡』
110	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土	7.0	4.3	1.9	58.4	楕形洋	村上吉正他2000『草山遺跡』
111	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土	4.7	3.6	2.6	52.3	楕形洋	村上吉正他2000『草山遺跡』
112	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土	6.2	3.1	1.7	50.2	楕形洋	村上吉正他2000『草山遺跡』
113	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	カマド掘り	4.6	2.8	2.4	48.8	楕形洋	村上吉正他2000『草山遺跡』
114	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土	4.9	3.4	2.7	45.5	楕形洋	村上吉正他2000『草山遺跡』
115	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土	3.6	2.9	1.9	39.5	楕形洋	村上吉正他2000『草山遺跡』
116	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土	4.6	2.9	2.6	36.7	楕形洋	村上吉正他2000『草山遺跡』
117	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土	4.1	3.6	2.9	34.8	楕形洋	村上吉正他2000『草山遺跡』
118	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土	4.9	3.2	1.5	32.5	楕形洋	村上吉正他2000『草山遺跡』
119	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土	6.0	2.8	1.7	28.6	楕形洋	村上吉正他2000『草山遺跡』
120	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土	3.5	2.9	2.2	28.3	楕形洋	村上吉正他2000『草山遺跡』
121	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土	-	-	-	25.9	破損品	村上吉正他2000『草山遺跡』
122	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土	4.4	3.3	1.9	23.3	楕形洋	村上吉正他2000『草山遺跡』
123	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土	4.4	3.1	1.7	21.1	楕形洋	村上吉正他2000『草山遺跡』
124	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土	4.7	3.3	2.1	19.7	楕形洋	村上吉正他2000『草山遺跡』
125	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土	3.6	2.9	1.5	19.7	楕形洋	村上吉正他2000『草山遺跡』
126	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土	3.8	2.3	1.8	19.2	楕形洋	村上吉正他2000『草山遺跡』
127	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土	3.3	3.1	2.3	19.0	楕形洋	村上吉正他2000『草山遺跡』
128	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土	2.9	2.4	1.9	18.0	楕形洋	村上吉正他2000『草山遺跡』
129	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土	2.7	2.7	1.4	16.1	楕形洋	村上吉正他2000『草山遺跡』
130	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	床下	3.7	3.0	1.7	15.2	楕形洋	村上吉正他2000『草山遺跡』
131	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土	3.4	2.9	1.7	15.1	楕形洋	村上吉正他2000『草山遺跡』
132	鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	二	3.3	2.3	1.8	15.0	楕形洋	村上吉正他2000『草山遺跡』

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 長さ 幅 厚み (cm)	重量 (g)	遺構時期	備考	文献名
鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土			2.6	2.4	1.8	15.0	村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土			3.4	1.9	1.5	12.1	村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土			3.3	2.1	2.4	11.9	村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土			2.3	2.0	1.4	10.8	村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土			3.8	3.2	1.6	10.6	村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土			2.0	1.7	1.3	10.0	村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土			3.1	2.4	1.8	9.0	村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土			2.8	1.7	1.2	6.3	村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土			2.4	1.5	1.3	5.9	村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土			2.4	2.1	1.4	5.8	村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土			1.9	1.3	0.5	3.5	村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土			2.5	1.4	1.6	3.2	村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土			2.0	1.4	1.1	2.8	村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土			2.2	1.8	1.4	2.3	村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土			1.8	1.4	0.7	1.9	村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土			1.7	1.5	1.1	1.0	村上吉正他2000『草山遺跡』
鉄津	草山遺跡	2号竪穴住居	層土			1.9	1.3	0.9	0.8	施形洋・鉄津洋21点中8点略形 村上吉正他2000『草山遺跡』

・大歳町

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 長さ 幅 厚み (cm)	重量 (g)	遺構時期	備考	文献名
鉄津	抵園塗跡 〔D地点〕	SK02	復土か			-	-	-	-	鈴木一夫他1993『発掘調査の記録Ⅱ - 大歳町文化財調査報告書 第38集 -』
鉄津	抵園塗跡 〔D地点〕	SD01	復土か			-	-	-	9~10世紀	鈴木一夫他1993『発掘調査の記録Ⅱ - 大歳町文化財調査報告書 第38集 -』

・伊勢原市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 長さ 幅 厚み (cm)	重量 (g)	遺構時期	備考	文献名	
100 鉄津	天王原遺跡	1号住居址	復土下層			2.3	1.9	1.1	7.3	9世紀後半 條形洋	後藤喜八郎1996『天王原遺跡発掘調査報告書第Ⅲ地点』
101 鉄津	天王原遺跡	7号住居址	復土上層			9.0	6.2	3.0	148.9	8世紀後半～9世紀	後藤喜八郎1997『天王原遺跡発掘調査報告書第Ⅳ地点』
102 鉄津	天王原遺跡	10号住居址	復土上層			8.2	6.9	2.5	201.6	8～9世紀 條形洋	後藤喜八郎1998『天王原遺跡発掘調査報告書第Ⅴ地点』
103 鉄津	天王原遺跡	43号住居址	復土表面			3.2	1.7	-	5.6	9世紀前半 條形洋	後藤喜八郎1999『天王原遺跡発掘調査報告書第Ⅵ地点』
104 鉄津	天王原遺跡	43号住居址	復土下層			2.5	2.1	4.6	6.9	9世紀前半 條形洋	後藤喜八郎2000『天王原遺跡発掘調査報告書第Ⅶ地点』
105 鉄津	天王原遺跡	53号住居址	貼り床			7.4	6.0	2.2	88.0	9世紀後半 條形洋	後藤喜八郎2001『天王原遺跡発掘調査報告書第Ⅷ地点』
106 鉄津	天王原遺跡	79号住居址	床直			3.2	2.7	2.0	23.5	9世紀中～後半 條形洋 木質付着	後藤喜八郎2002『天王原遺跡発掘調査報告書第Ⅸ地点』
107 鉄津	天王原遺跡	79号住居址	復土中層			5.6	5.4	2.5	60.8	9世紀中～後半 條形洋	後藤喜八郎2003『天王原遺跡発掘調査報告書第Ⅹ地点』
108 鉄津	天王原遺跡	103号住居址	貼り床			3.4	2.0	1.5	12.3	9世紀後半 條形洋	後藤喜八郎2004『天王原遺跡発掘調査報告書第Ⅺ地点』
109 鉄津	天王原遺跡	29号				6.8	6.1	2.9	98.3	8世紀後半 條形洋	後藤喜八郎2005『天王原遺跡発掘調査報告書第Ⅻ地点』
110 鉄津	天王原遺跡	ピット555	復土			5.4	4.3	1.9	45.0	-	後藤喜八郎2006『天王原遺跡発掘調査報告書第Ⅼ地点』
111 鉄津	弥杉・上ノ台遺跡	3号住居址	復土			7.7	6.1	1.9	-	7世紀後半～奈良初頭 條形洋	田尾誠子1995『弥杉・上ノ台遺跡』
112 鉄津	下槽屋・丸山遺跡	堅穴住居址	復土	1/4		6.1	5.4	3.0	95.0	古墳後期末～奈良初頭 條形洋	濱口外也2010『下槽屋・丸山遺跡(第6地点)』
113 鉄津	石田・羽黒遺跡	5号住居址	復土			4.8	3.0	4.0	-	10世紀後半 條形洋	降幡類子1998『石田・羽黒遺跡』
114 鉄津	石田・羽黒遺跡	5号住居址	復土			6.6	4.9	1.8	-	10世紀後半 條形洋	降幡類子1998『石田・羽黒遺跡』
115 鉄津	石田・羽黒遺跡	6号掘立柱建物址	復土			9.0	6.0	3.6	-	-	降幡類子1998『石田・羽黒遺跡』

・蘿木市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 長さ 幅 厚み (cm)	重量 (g)	遺構時期	備考	文献名	
116 鉄津	及川天台遺跡	11号住居址	復土中層			6.8	5.5	3.8	-	1250g出土	日野一郎他1997『及川天台遺跡』

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 長さ 幅 厚み (cm)	重量 (g)	遺構時期	備考	文献名
117	鉄滓	及川天台遺跡	11号住居址	階土中層	9.1	7.4	3.4	-	1260g出土。	日野一郎他1997『及川天台遺跡』
118	鉄滓	及川天台遺跡	12号住居址	階土	9.8	8.0	5.8	350.0	-	発泡状を呈す。
119	鉄滓	及川天台遺跡	12号住居址	階土	7.8	4.7	4.3	150.0	-	発泡状を呈す。
120	鉄滓	及川天台遺跡	12号住居址	階土	5.1	5.0	2.5	50.0	-	タール状に固結。
121	鉄滓	及川天台遺跡	1号般治址	階土	10.4	8.4	3.2	290.0	-	塊形滓
122	鉄滓	及川天台遺跡	1号般治址	階土	10.4	7.2	4.9	305.0	-	塊形滓
123	鉄滓	及川天台遺跡	2号般治址	階土	10.0	7.0	4.7	176.0	-	アメーバ状に小瘤を有す。 表面に木質小片付着。
124	鉄滓	及川天台遺跡	2号般治址	階土	6.8	9.9	3.8	155.0	-	鐵乳石状を呈す。
125	鉄滓	及川天台遺跡	2号般治址	階土	7.2	5.3	6.0	179.0	-	鐵乳石状を呈し、炭化物の付着あり。
126	鉄滓	及川天台遺跡	2号般治址	階土	11.3	9.3	4.5	320.0	-	塊形滓。ガラス質部分、発泡部分あり。
127	鉄滓	及川宮ノ西遺跡	3号住居址	階土	5.9	3.5	-	45.0	-	日野一郎他1996『及川宮ノ西遺跡』
128	鉄滓	及川宮ノ西遺跡	7号住居址	階土	5.8	5.0	-	95.0	-	日野一郎他1996『及川宮ノ西遺跡』
129	鉄滓	及川宮ノ西遺跡	15号住居址	階土	8.3	5.1	-	160.0	-	日野一郎他1996『及川宮ノ西遺跡』
130	鉄滓	及川宮ノ西遺跡	遺構外		-	-	-	150.0	-	日野一郎他1996『及川宮ノ西遺跡』

・清川村

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 長さ 幅 厚み (cm)	重量 (g)	遺構時期	備考	文献名	
131	鉄滓	北原遺跡	H2号竪穴住居址	復土	変形	6.1	5.4	1.9	68.4	9世紀中～	市川正史他1997『宮ヶ瀬遺跡群』

・萬老名市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 長さ 幅 厚み (cm)	重量 (g)	遺構時期	備考	文献名
	鉄滓	萬老名本郷遺跡	19号住居址		-	-	-	-	10世紀後半	合田秀正他1987『萬老名本郷(Ⅲ)』
	鉄滓	萬老名本郷遺跡	20号住居址		-	-	-	-	-	合田秀正他1987『萬老名本郷(Ⅲ)』
	鉄滓	萬老名本郷遺跡	42号住居址		-	-	-	-	9世紀前半	合田秀正他1987『萬老名本郷(Ⅲ)』
132	鉄滓	尼寺北方遺跡	1号住居址	階土	5.5	5.5	3.7	172.0	9世紀前半	千田利明2002『尼寺北方遺跡第35次調査』

・茅ヶ崎市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 長さ 幅 厚み (cm)	重量 (g)	遺構時期	備考	文献名
133	鉄滓	七堂伽藍跡	34号竪穴住居址	階土	12.3	12.9	5.2	551.4	8世紀中～後半	小川浩人2010『小出川河川改修事業関連遺跡群』
134	鉄滓	七堂伽藍跡	34号竪穴住居址	階土	6.5	8.1	2.9	-	9世紀中～後半	小川浩人2010『小出川河川改修事業関連遺跡群』
135	鉄滓	七堂伽藍跡	36号竪穴住居址	階土	3.6	6.3	2.3	59.6	8世紀前半	小川浩人2010『小出川河川改修事業関連遺跡群』
136	鉄滓	七堂伽藍跡	36号竪穴住居址	階土	6.6	8.8	3.0	151.4	8世紀前半	小川浩人2010『小出川河川改修事業関連遺跡群』
	鉄滓	七堂伽藍跡	H1号竪穴住居址	階土	-	-	-	-	9世紀前半	大村浩司2005『下寺尾七金加跡の調査』
	鉄滓	七堂伽藍跡	H1号竪穴住居址	階土	-	-	-	-	9世紀前半	大村浩司2005『下寺尾七金加跡の調査』
	鉄滓	西方A遺跡	H1号竪穴住居址	階土	8.0	6.6	3.1	126.4	8世紀第2四半期	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』
	鉄滓	西方A遺跡	H1号竪穴住居址	階土	7.0	5.5	3.0	105.4	8世紀第2四半期	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』
	鉄滓	西方A遺跡	H1号竪穴住居址	階土	7.3	6.1	2.6	73.5	8世紀第2四半期	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』
	鉄滓	西方A遺跡	H1号竪穴住居址	階土	6.5	5.2	1.4	47.5	8世紀第2四半期	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』
	鉄滓	西方A遺跡	H1号竪穴住居址	階土	6.4	4.3	3.2	26.6	8世紀第2四半期	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』
	鉄滓	西方A遺跡	H1号竪穴住居址	階土	3.8	2.8	1.6	14.0	8世紀第2四半期	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』
	鉄滓	西方A遺跡	H1号竪穴住居址	階土	3.6	1.8	1.6	7.1	5世紀第2四半期	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』
	鉄滓	西方A遺跡	H1号竪穴住居址	階土	-	-	-	6.8	8世紀第2四半期	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』
	鉄滓	西方A遺跡	H1号竪穴住居址	階土	2.4	1.9	1.6	5.7	8世紀第2四半期	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』
	鉄滓	西方A遺跡	H1号竪穴住居址	階土	3.8	2.4	1.0	5.7	8世紀第2四半期	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』
	鉄滓	西方A遺跡	H1号竪穴住居址	階土	3.4	1.5	1.3	3.2	8世紀第2四半期	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 長さ 幅 厚さ (cm)	重 量 (g)	造構時期	備考	文献名
鉄滓	西方A遺跡	H1 2号堅穴住居址	層土		2.0 2.3 0.6	2.4	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』	
鉄滓	西方A遺跡	H1 1号堅穴住居址	層土		- - -	1.5	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』	
鉄滓	西方A遺跡	H1 1号堅穴住居址	層土		4.3 2.5 1.6	1.3	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』	
鉄滓	西方A遺跡	H1 1号堅穴住居址	層土		1.9 1.5 1.3	1.3	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』	
鉄滓	西方A遺跡	H2 2号堅穴住居址	層土		9.2 8.0 7.0	288.7	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』	
鉄滓	西方A遺跡	H2 1号堅穴住居址	層土		9.4 6.4 7.5	265.8	8世紀第2四半期	楕形澤	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』	
鉄滓	西方A遺跡	H1 2号堅穴住居址	層土		8.6 6.1 3.3	133.2	8世紀第2四半期	楕形澤	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』	
鉄滓	西方A遺跡	H2 2号堅穴住居址	層土		7.6 7.0 2.7	74.5	8世紀第2四半期	楕形澤	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』	
鉄滓	西方A遺跡	H1 2号堅穴住居址	層土		6.3 5.7 1.7	66.1	8世紀第2四半期	楕形澤	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』	
鉄滓	西方A遺跡	H2 2号堅穴住居址	層土		6.0 4.7 4.1	50.6	8世紀第2四半期	楕形澤	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』	
鉄滓	西方A遺跡	H1 2号堅穴住居址	層土		4.8 3.3 2.9	50.0	8世紀第2四半期	楕形澤	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』	
鉄滓	西方A遺跡	H1 2号堅穴住居址	層土		3.6 3.5 2.5	33.6	8世紀第2四半期	楕形澤	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』	
鉄滓	西方A遺跡	H2 2号堅穴住居址	層土		5.7 3.5 1.7	31.5	8世紀第2四半期	楕形澤	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』	
鉄滓	西方A遺跡	H1 2号堅穴住居址	層土		4.8 4.4 3.4	25.9	8世紀第2四半期	楕形澤	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』	
鉄滓	西方A遺跡	H2 2号堅穴住居址	層土		5.8 4.8 1.6	24.0	8世紀第2四半期	楕形澤	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』	
鉄滓	西方A遺跡	H2 2号堅穴住居址	層土		5.0 3.0 1.4	22.0	8世紀第2四半期	楕形澤	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』	
鉄滓	西方A遺跡	H1 2号堅穴住居址	層土		4.5 3.6 1.9	21.6	8世紀第2四半期	楕形澤	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』	
鉄滓	西方A遺跡	H2 2号堅穴住居址	層土		4.2 3.4 2.4	19.5	8世紀第2四半期	楕形澤	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』	
鉄滓	西方A遺跡	H2 2号堅穴住居址	層土		3.7 2.6 2.5	16.9	8世紀第2四半期	楕形澤	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』	
鉄滓	西方A遺跡	H1 2号堅穴住居址	層土		3.0 2.6 1.4	9.4	8世紀第2四半期	楕形澤	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』	
鉄滓	西方A遺跡	H2 2号堅穴住居址	層土		3.1 2.4 1.7	7.1	8世紀第2四半期	楕形澤	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』	
鉄滓	西方A遺跡	H1 2号堅穴住居址	層土		2.8 2.5 0.8	5.4	8世紀第2四半期	楕形澤	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』	
鉄滓	西方A遺跡	H2 2号堅穴住居址	層土		2.6 1.7 1.3	5.2	8世紀第2四半期	楕形澤	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』	
鉄滓	西方A遺跡	H2 2号堅穴住居址	層土		2.0 1.7 1.0	3.7	8世紀第2四半期	楕形澤	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』	
鉄滓	西方A遺跡	H2 2号堅穴住居址	層土		2.2 1.8 1.0	3.7	8世紀第2四半期	楕形澤	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』	
鉄滓	西方A遺跡	H2 2号堅穴住居址	層土		2.5 1.5 1.1	3.4	8世紀第2四半期	楕形澤	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』	
鉄滓	西方A遺跡	H1 2号堅穴住居址	層土		2.5 1.6 0.9	2.8	8世紀第2四半期	楕形澤	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』	
鉄滓	西方A遺跡	H2 2号堅穴住居址	層土		2.1 2.0 1.2	0.4	8世紀第2四半期	楕形澤	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』	

・横須賀市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 長さ 幅 厚さ (cm)	重 量 (g)	造構時期	備考	文献名
137 鉄滓	宗元寺	1トレンチ			7.0 6.5 3.8	103.7				横須賀市教育委員会2007『横須賀市文化財調査報告書第44集』宗元寺C・D地点確認調査報告
138 鉄滓	宗元寺	1トレンチ			6.2 9.4 2.7	146.0				横須賀市教育委員会2007『横須賀市文化財調査報告書第44集』宗元寺C・D地点確認調査報告

・逗子市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 長さ 幅 厚さ (cm)	重 量 (g)	造構時期	備考	文献名
	泡子遺跡群	B VI89区			- - -	- - -	-		40点1.02kg	長谷川厚介1990『泡子遺跡群』
	泡子遺跡群	B IX28区			- - -	- - -	-		14点1.6kg	長谷川厚介1990『泡子遺跡群』

神奈川の中世城館（3）

中世研究プロジェクトチーム

はじめに

本プロジェクトでは「神奈川の中世城館」と題し、県内城館の集成を行っている。前回は、後北条氏の本城である小田原城を取り上げ、堀の規模・形態・年代に関する基礎集成を行った。今回は、基礎集成の対象を県内全域へ広げ、今後の検討につなげることを目的としている。

例 言

1. 本集成は、前回の基礎集成に基づき、対象範囲を県内の中世城館に広げたものである。検討対象としたのは、本プロジェクトの「神奈川の中世城館（1）」で行った発掘調査が実施されている中世城館である。また、この集成時から新たに発掘調査報告書が刊行された遺跡と遺漏があった遺跡については、今回検討対象に追加している。なお、今年度（平成22年度）に刊行された報告書については、入手可能な範囲で追加を行っている。
2. 集成は、報告書において堀と報告されるもの、また堀の機能が推測されている溝なども含んでいる。基本的には中世の堀を対象としているが、古代から続く堀や近世へと続く堀も対象としている。
3. 集成表の項目は基本的に前回・前々回と同様であるが、変更した個所については以下のとおりである。
 - (1) 遺構名：原則的に発掘調査報告書で使用されている名称を使用した。同じ遺構で異なる地点を発掘調査している場合は、調査区名・トレンチ名を追加している。
 - (2) 傾斜角：法面の傾斜角が異なる場合は分けて記した。法面が曲輪の内側・外側に対応する場合は、その旨を記入し、不明な場合は方角で記した。
 - (3) 文献番号：「神奈川の中世城館（1）」に対応する。
4. 新たに発掘調査報告書が刊行された遺跡と遺漏があった遺跡については概要を巻末に記した。項目は「神奈川の中世城館（1）」に準じ、参考文献は以下のとおりである。

参考文献

- 117 依田亮一ほか 2007『湘南新道開闢遺跡Ⅰ－大會原遺跡・六ノ城遺跡－』かながわ考古学財団調査報告 208
- 118 馬瀬和雄 1986『相模玉縄城』鎌倉考古学研究所報告第3集 鎌倉考古学研究所
- 119 穴戸信裕ほか 2003『上ノ町遺跡』かながわ考古学財団調査報告 143
- 120 富永樹之ほか 2009『上ノ町遺跡II』かながわ考古学財団調査報告 232
- 121 近藤英夫・石丸彌・野口浩史 2003『津久井城の調査 1996-2001』1 津久井城遺跡調査会・津久井町教育委員会
- 122 近藤英夫・野口浩史・佐藤昌彦・米山あかね 2005『津久井城の調査 2002-2004』2 津久井城遺跡調査会・津久井町教育委員会
- 123 近藤英夫・佐藤昌彦・新田宏子・上本進二 2009『津久井城の調査 2006-2008』3 相模原市教育委員会
- 124 嵐中俊明・義谷正信・櫻井真貴ほか 2010『津久井城跡馬込地区』かながわ考古学財団調査報告 249
- 125 滝沢亮・小池聰・細井佳治ほか 1997『神明若宮地区内遺跡』神明若宮地区内遺跡発掘調査団
- 126 香川達郎・北平朗久 2009『丸山遺跡第IV地点発掘調査報告書』玉川文化財研究所
- 127 北平朗久・香川達郎 2010『丸山遺跡第5地点発掘調査報告書』玉川文化財研究所
- 128 渡辺外・大塚健一・龍芝勉・林雅志 2010『下轟屋・丸山遺跡（第6地点）』かながわ考古学財団調査報告 260
- 129 加藤拓也・砂田佳弘・藤波啓容 2009『河村城跡』神奈川県足柄上郡山北町教育委員会

横浜市	名称	遺跡名	堆上幅×堆高幅×深さ (m)	形態	傾斜角 (°)	土壠	土種	遺産 形状	出土遺物	遺物年代	備考	文獻 番号
茅ヶ崎城	茅ヶ崎城址	6 T 内堀跡	5.8×2.0×2.5	一	東：60 西：65	x	x	-	国宝陶器、板井	14世紀代		1
		8 T 内堀跡	2.3×1×1.9	一	90	○	x	-				
		10 T 内堀跡	4.0×1.2×1	一	75	x	x	-				
		14 T 内堀跡	5.4×3.9×1.6	一	70	x	x	-				
		22 T 内堀跡	6.4×3.3×4.5	一	北：70 南：83	x	x	-				
		23 T 内堀跡	3.8×2.3×2.5	一	80	x	x	-				
		24 T 内堀跡	4.9×3.7×3.2	一	69	○	x	-				
		25 T 内堀跡	3.3×1.1×3.0	一	80	x	x	-	常滑窯、瀬戸灰釉瓦・板井、 かわらけ	15世紀後半～16世紀		
		北堀外側面西面	3.3×2.5×1.0	面	内：70 外：80～90	x	○	1-B	青磁碗、常滑窯、かわらけ	15～16世紀		
		北堀外側面北面	3.8×1.7×2.5	面	内：75 外：80～90	x	○	1-B				
横須賀市		内郭南面	-	面	内：55 外：60	○	○	1-B				3
		西郭北堀	4.0×2.0×(1.3)	面	内：50 外：65	○	○	1-B				
		牛郭中堀	4.0×1.1×5.0	面	-	x	x	-				
		H15年度調査区A区	(4.2)×(2.7)×(1.6)	面	70	x	x	-				
		H17年度調査区A区	(4.0)×(0.6)×(1.0)	面	-	x	x	-				
		H17年度調査区B区	(5.5)×3.0×4.25	面	70	x	x	-	かわらけ			
		H17年度調査区C区	2.9×3.8×1.1～1.35×4.25	面	70	x	x	-	かわらけ			

横須賀市	名称	遺跡名	堆上幅×堆高幅×深さ (m)	形態	傾斜角 (°)	土壠	土種	遺産 形状	出土遺物	遺物年代	備考	文獻 番号
水呑城	水呑城跡	-×-×-	-	-	-	-	-	-			土呑・城切のみの確認。 詳細不明。	8
松田城	吉井城山	SD01	4.4×2.2×1.7	面	55	x	x	-				17

平塚市	名称	遺跡名	堆上幅×堆高幅×深さ (m)	形態	傾斜角 (°)	土壠	土種	遺産 形状	出土遺物	遺物年代	備考	文獻 番号
岡崎城	岡崎城跡	周囲堀跡	-×-×-	-	-	-	-	-			城跡裏手のため詳細不明	18
		桜通堀跡	1.0×1.2×0.5～1.0×0.2×0.3	面	80	-	-	-			桜通堀が北辺を除く 3辺に構築。	21
		御所ヶ谷遺跡	7号塁	南北1.8×2.2、東西2.4×2.5 ×西方0.3、東方1.5×1.6 ×西方0.4、東方1.0	面	西：45 東：50	-	-	かわらけ、古礫・嵌入板子、 常滑窯、石晶	鎌倉から室町時代		27
		10号塁	1.8×0.3×0.4×0.7	面	50	-	-	-	常滑窯	13世紀後半～14世紀前半		
		片岡村(城)	1T	1.5×0.5×1.2	面	50	-	-				28
		2T	1.8×0.5×1.1	面	60	-	-	-				29
		SD01	2.2×0.5×0.9～2.2	面	55	-	-	-				
		1号櫓跡遺跡	4.8×1.7×0.7	面	-	-	-	-				
		10区堀SD001	東側1.4×2.3、西側2.0×3.4× 東側1.4×1.2、西側1.0×1.9×2.3	面	50～60	-	-	-	かわらけ、瀬戸美濃焼陶器、 陶瓶、小柄	15世紀代		
		10区堀SD002	3.9×4.0×2.0～2.2×2.1	面	65	-	-	2-A				
真田城	真田・北金日遺跡群	10区堀SD003	-×-×1.3	面	40	-	-	-	かわらけ、常滑窯、把手段板 状製品	15世紀後半		36
		10区堀SD004	南北1.6×0.8～0.9×2.3 東西1.6×1.2～1.4×2.3	面	南北1.6×0.8 東西1.6×1.2～1.4×2.3	-	-	-	かわらけ、常滑窯	中世		
		10区堀SD005	2.5×1.6×1.9	面	60～70	-	○	-				
		10区堀SD006	3.4×2.8×2.9×2.0	面	75	-	-	-				

真田城	真田・北金日越跡群	19A区塚SD001	6.2×1.3~1.7×1.8~2.1	南	北: 60 南: 70	-	-	常滑窯、高美焼	小破片のみ詳細不明	36
		19B区塚SD001	6.5× - × 2.3	南	60	-	-	-	-	37
豊田城 (豊田城の内)	豊田本郷	SD 4 6	2.0×4.0×0.8~1.8×1.0~1.4	南	東: 50 西: 60	-	-	-	かわらけ	39
堀ノ内堀 (豊田城の内)	堀ノ内鉢跡	SD 0 1	2.8×13×1.1	南	50	-	-	-	調査では堀ノ丸塚、志野丸塚 が出土	40
低伏道構		2.1~3.8×0.7~1.0×1.0~2.3	南	80	-	-	-	青磁盤、堀ノ丸子・四耳壺、 豆輪器	41	
古沢跡	上・下大沢市堀地区遺跡群	I分塚	2.5×0.5×1.5	南	65	○	-	-	-	42
高林寺遺跡	高林寺遺跡 第7・9・12地点	SD 0 1	2.3~2.6×0.6~1.0×1.0~1.6	南	40~60	-	-	-	-	43~ 44~45
C 8号窓状遺構		2.2~3.0×0.4~1.0×0.6~0.8	南	40	-	-	-	-	-	
C 9号窓状遺構		1.6~3.8×0.2~0.4×1.4	南	北: 50 南: 50	-	-	-	白磁皿、古瀬戸灰釉輪錐豆、 鋸皿、南戸鉢輪錐豆、瓦質上 盤、常滑窯・片口鋸	14世紀後半~15世紀前半、16 世纪後葉	
C 11~18号窓状遺構		1.4~3.4×0.2~0.6×0.6~1.4	南	北: 50 南: 50	-	-	-	かわらけ、古瀬戸灰釉平瓶、 輪錐豆、板戸灰釉輪錐豆、常滑 窯	12世纪后半、14世纪后葉、15 世纪初~後半、16世纪後葉	
C 14号窓状遺構		2.0×1.0×0.6	南	北: 55 南: 55	-	-	-	南戸灰釉花瓶、常滑窯・片口 鋸	12世纪中期~後半、13世纪初 ~後半、14世纪中期~後葉	
C 17号窓状遺構		1.2~1.8×0.2~0.5×0.8~1.2	南	東: 55 西: 45	-	-	-	青磁碗、かわらけ、古瀬戸灰 釉輪錐豆、板戸灰釉輪錐豆、常 滑窯・片口鋸	12世纪中~後半、15世纪前半 ~中葉、16世纪代	
C 21号窓状遺構		1.5~2.7×0.1~0.7×0.5~1.0	南	東: 40 西: 35	-	-	-	常滑窯	12世纪末~13世纪初	

総合市

名称	遺跡名	遺構名	堤上幅×壁厚幅×深さ (m)	形態	傾斜角 (°)	土壇	土築	堤底 形状	出土遺物	遺物年代	備考	文獻 番号	
杉本寺周辺遺跡群	杉本寺周辺遺跡群	塚 1	3.2×0.4×1.3	南	東: 40 西: 45	-	-	-	青磁碗・鋸、青瓦片、常滑窯・ 鋸、木製品	12世纪後葉	-	49	
五岡城	上岡城跡	西側堀切	II~14×1.5~2.0×1.5~10.8	南	約45	○	×	1~B	-	-	堤底に帆立貝殻、疋 2 個 所、馬糞形土壇		
		東側堀切	7.5~11×2.2~2.8×1.5~9.4	南北	内: 35~75 外: 36~75	×	○?	1~B	常滑	-	堤底に土壇 1 個所、段 2 個所、土壇は地磚子の役 割りか。	22	
		堅塙 1	約13~25× - ×約8	裏研	北: 45 南: 30	×	×	-	-	-	堅塙 2 に繋がる。		
		堅塙 2	約13.5~15× - ×約4.8	裏研	北: 49 南: 30	×	×	-	-	-	上部より下部の方が狭い。		
		堅塙 3	約14× - ×約4.5~5	南	北: 35 南: 40	×	×	-	-	-	-		
		堅塙 4	約9~22× - ×約8	裏研	北: 30 南: 20	×	×	-	-	-	上部に比べて下部が極端 に狭い。		
		堅塙 5	約15~20× - ×約8	裏研	北: 40 南: 34	×	×	-	-	-	-		
		堅塙 6	(18~19)× - ×3.5以上	南?	-	×	×	-	-	-	現反対堤、堅塙 7 と対応 する位置で、間に繋がりが 存在か。	118	
		堅塙 7	(20~21.5)× - ×10以上	裏研?	-	×	×	-	-	-	現反対堤、堅塙 6 と対応 する位置で、間に繋がりが 存在か。		
		堅塙 8	約10~21× - ×約2.5	南	-	×	×	-	-	-	自然地形とも考えられる。 堅塙 2 に繋がる。		
		堅塙 9	約14.5~16× - ×約5	南	-	×	×	-	-	-	3時限複記、裏研塙から 推測。		
		塹切 1	約10.3~14×1.3~1.5×約4	裏研~南	北: 30 南: 35	×	×	-	-	-	6時限複記。裏研塙から 推測。		
		塹切 2	15以上×1前後×7.3以上	裏研~南	北: 40 南: 50	×	×	-	-	-	-		

藤沢市

名称	遺跡名	遺構名	壁上幅×壁底幅×深さ (m)	形態	傾斜角 (°)	土質	土種	埋蔵 形状	出土遺物	遺物年代	備考	文獻 番号
大庭城	大庭城址		-×-×-	-	-	-	-	-			上段：堅切のみの確認、 詳細不明。	63
			-×-×-	-	-	-	-	-			土色：堅切のみの確認、 詳細不明。	64
	西斜211地点遺跡	壁SD01	7.0×0.4×2.4	箱	80	○	-	-				
		壁SD07	4.2~5.0×0.3×2.3	箱	南：40 北：65	○	-	-				

茅ヶ崎市

名称	遺跡名	遺構名	壁上幅×壁底幅×深さ (m)	形態	傾斜角 (°)	土質	土種	埋蔵 形状	出土遺物	遺物年代	備考	文獻 番号
近藤右衛門 副佐方跡	上ノ町遺跡	49・80・87号房	2.5~3.85×0.5~1.1×1.1~1.4	箱	東：40~60 西：50~60	-	-	-	有磁鐵、棒、青白釉合子、腰 戸美濃大正陶、灰陶瓦、灰 瓦、燒瓦瓦、赤陶瓦、志山 品萩燒碗盤、楳輪燒杯、常滑 片口鉢、かわらけ、内瓦鍋	14世紀後半~16世紀後半		119
		K.1・17号房	3.8~4.5×0.3~0.8×0.2~1.4	箱	東：60 西：40	-	-	-	青磁碗、酒会盃、白磁碗、明 治付陶、古窯窓脚、腰戸末 燒灰釉碗、燒物掛鉢、青白瓷、 かわらけ、伊勢系削鉢	13世紀~16世紀前半		120

逗子市

名称	遺跡名	遺構名	壁上幅×壁底幅×深さ (m)	形態	傾斜角 (°)	土質	土種	埋蔵 形状	出土遺物	遺物年代	備考	文獻 番号
逗子市 城郭遺跡	逗子市671遺跡	-×-×-	-	-	-	-	-	-			表面開発で礎石状構造が 確認された	67

相模原市

名称	遺跡名	遺構名	壁上幅×壁底幅×深さ (m)	形態	傾斜角 (°)	土質	土種	埋蔵 形状	出土遺物	遺物年代	備考	文獻 番号
津久井城跡 (碑版塗輪跡)	1号塹		2.5~3×1.5~3.2×1.7~2.5	箱	75	○	×	-	白磁罐、明代染付盤・合子、 漆器圓筒、腰戸、美濃灰釉輪 瓦蓋(大葉1)、瓦質火鉢	15世紀末~16世紀	三帯焼の低い腰戸に書 き跡、天正18年の落城 後、残して立たれる。外 側に瓦分土塁。	121 122
	2号塹	(1.5~2)×0.7×1.3	箱	北：75 南：50~80	×	×	+	-			1号古窯窓を下るための 防護施設。	121
	1号塹縁1 (トレンチ1)	2.72×-×1.1	箱	62	×	+	-	-		腰戸、1~6は連続する。 東側正面を確認。		
	1号塹縁2 (トレンチ1)	-×-×-	箱	-	+	+	+	-		未調査のため、腰戸など 不明。		
	1号塹縁3 (トレンチ2)	(2.0)×-×2.6以上	箱	64	+	+	-	-		東側正面を確認。腰戸ま で腰戸せず。		
	1号塹縁4 (トレンチ3)	-×-×-	箱研	39~87	+	+	-	-		4~9の腰戸は腰戸状。 東側正面のみ確認。		123
	1号塹縁4 (トレンチ4)	3.8×0.61×1.79	蓋研	50~80	+	+	-	-		腰戸に大型の腰・腰戸を 瓦丸と平坦面を造成。東 側正面を確認。		
	1号塹縁5 (トレンチ4)	4.6×-×2.03	箱	59	+	+	-	-		東側正面を確認。		
	1号塹縁6	5.2×-×3.1	蓋研?	46~70	+	+	-	-		テラス状の付帯施設。2 時期で確認。		124
津久井城跡馬込地区	甕製	6.2~9.0×2.2~4.2×(1.1~5.1)	箱	北：33 南：22	+	+	+	-	近世陶器	近世		

三浦市

名称	遺跡名	遺構名	壁上幅×底面幅×高さ (m)	形態	傾斜角 (°)	土壘	土築	埋蔵 形狀	出土遺物	遺物年代	備考	文部 省号
新井城	新井城跡	SD01	2.2×1.3×0.6	箱	—	—	—	—	瀬戸焼鉢	15世紀末～16世紀後半		89
		SD02	2.2×1.3×0.7	箱	—	—	—	—				

大和市

名称	遺跡名	遺構名	壁上幅×底面幅×高さ (m)	形態	傾斜角 (°)	土壘	土築	埋蔵 形狀	出土遺物	遺物年代	備考	文部 省号
下越原城址	下越原城山	環濠(外堀)	—×—×2.5以上	箱?	—	○	×	—			現底まで削平せず 法面は傾斜角が変化する か。	97

深見城	深見城跡	外堀(内堀)	3.5×2.5×約2.0	箱	70	○	×	—				
		(第1・2レンチ)										
		内堀(内堀)	4.3×3.5×約2.2	箱	内：約75 外：75	○	×	—				
		(第1・2レンチ)										
		外堀(内堀)	約5×約2×—	箱?	50~70	○	○	—	火鉢(上機反対側の内堀から 出土)	14世紀		
		(第3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・15・16・17・18・19・20・21・22・23・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33・34・35・36・37・38・39・40・41・42・43・44・45・46・47・48・49・50)			?	60	×	○				
		外堀(内堀)	4.0×3.1×約2.2	箱	内：85 外：80	○	×	—			法面は傾斜角が変化する か。	
		(第5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・15・16・17・18・19・20・21・22・23・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33・34・35・36・37・38・39・40・41・42・43・44・45・46・47・48・49・50)			?	75	×	×			法面は傾斜角が変化する か。	
		外堀(内堀)	3.3×2.6×2.1	箱	95	○	×	—			法面は傾斜角が変化する か。	
		(第9・10・11・12・13・14・15・16・17・18・19・20・21・22・23・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33・34・35・36・37・38・39・40・41・42・43・44・45・46・47・48・49・50)			?	75	×	×			法面は傾斜角が変化する か。	

深見城	深見城跡	外堀(内堀)	4.5×3.5×2.6	箱	内：75 外：70	×	×	跳痕				
		(第9・10・11・12・13・14・15・16・17・18・19・20・21・22・23・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33・34・35・36・37・38・39・40・41・42・43・44・45・46・47・48・49・50)			?	—	—	—			外堀の通切れを確認。	98
		外堀(内堀)	—×—×—	箱	内：80 外：75	×	○	—			法面は傾斜角が変化する か。	
		(第12・13・14・15・16・17・18・19・20・21・22・23・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33・34・35・36・37・38・39・40・41・42・43・44・45・46・47・48・49・50)			?	—	—	—				
		外堀(内堀)	—×—×—	箱	—	—	○?	—				
		(第11・12・13・14・15・16・17・18・19・20・21・22・23・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33・34・35・36・37・38・39・40・41・42・43・44・45・46・47・48・49・50)			?	—	—	—				
		外堀(天竺塗)	—×—×—	箱	内：70 外：65	×	×	—				
		(第16・17・18・19・20・21・22・23・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33・34・35・36・37・38・39・40・41・42・43・44・45・46・47・48・49・50)			?	—	—	—				
		外堀(内堀)	—×—×—	箱	内：75 外：65	×	×	—				
		(第19・20・21・22・23・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33・34・35・36・37・38・39・40・41・42・43・44・45・46・47・48・49・50)			?	—	—	—				

深見城	深見城跡	外堀(内堀)	4.1×2.9×1.6	箱	内：75 外：65	×	×	—				
		(第15・16・17・18・19・20・21・22・23・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33・34・35・36・37・38・39・40・41・42・43・44・45・46・47・48・49・50)			?	—	—	—				
		外堀(天竺塗)	—×—×—	箱	—	—	—	—				
		(第13・14・15・16・17・18・19・20・21・22・23・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33・34・35・36・37・38・39・40・41・42・43・44・45・46・47・48・49・50)			?	—	—	—				
		内堀(本第・第II)	8.3×—×1.6~2.2	—	85	○	○	—				
		(第10・22・23・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33・34・35・36・37・38・39・40・41・42・43・44・45・46・47・48・49・50)			?	—	—	—				
		内堀(内堀・第II)	約7×—×—	—	—	○	○	—				
		(第21・22・23・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33・34・35・36・37・38・39・40・41・42・43・44・45・46・47・48・49・50)			?	—	—	—				
		西内堀	4.2~4.7×2.8×(主郭)4.85、 (B郭)4.50	箱	80	○	○	—				
		(主郭・郭II)	4.5~5.0×3.5~4.5×(主郭)5.50、 (B郭)3.5~4.5	箱	内：75 外：70	○	○	—	瀬戸戸焼腰隠(大室3)、瓦 (?)	16世紀中頃		

深見城	深見城跡	外堀(大室・外外堀)	—×—×(第A)3.7、(外外堀)2.2	箱	(?)~85	○	—	—				
		(トレンチ24)										
		中央外堀(第C・外外堀)	3.5×2.5~2.7×(第C)2.6、 (外外堀)2.1	箱	内：75 外：70	○	—	—				
		(トレンチ26)										
		天竺坂塗	(トレンチ27~29)	—	40~50	○	×	—				
		(トレンチ27~29)	(20)×1.5~2.8×5.7~8.3	薬研	40~50	○	×	—				
		内側塗	(トレンチ27~29)	10×3×7.2	箱	内：80 外：70	○	×	—			
		(トレンチ27~29)										
		神明若宮地区内遺跡	約4~7×1.5~2.65×1.28~2.24	箱	内：50 外：30~50	×	×	1~2 2~A	近世陶磁器	近世のみ		125
		第3号構造状構										

伊勢原市

名稱	遺跡名	遺構名	幅上幅×幅底幅×奥さ (mm)	形態	傾斜角 (°)	土星	土壌	堆積 形状	出土遺物	遺物年代	備考	文献 番号
1:柏原・小川道路	第1号構		4.1×1.6×2.35	箱	東: 55 内: 55	×	×	-	瓦永通宝	近世	周辺の遺跡から、丸山城 開発の遺構と推察される。	102
	第2号構		4.76×2.4×2.24	箱	35	×	×	-				
	第3号構		4.12×1.9×1.9	箱	北: 40~60 南: 70	×	×	-	瓦永通宝	近世		
成瀬第二地区遺跡群	箱	(29トレンチ)	1624 l: × - × -	-	30~60	×	×	-			堀の片側法面を確認。場 底まで調査せず。	104
	箱	(34トレンチ)	- × - ×約2	箱	60	×	×	1-B			堀の片側法面を確認	
	箱	(36トレンチ)	- × - × -	素研	35	-	-	-			堀の片側法面を確認	
	成瀬第二地区遺跡群 下構造C地区第1地点	1号構	4.4×3.5×1.45	箱蓋研	北: 40~60 南: 50~60	×	×	-	かわらけ、同安窯青磁 唐代	12世紀後半、15世紀後半~16 世紀	蓋部の堀。	
成瀬第二地区/遺跡群 下構造D地区	1号構		6.0~8.0×0.8~2.0×2.4~2.7	箱蓋研	34~68	○	×	-	かわらけ、龍泉窯青磁 鶴戸美濃天目碗、近世陶器	13世紀前半、16世紀後半、近 世のピット。		105
	2号構		15.0×10.0×6.0~9.8	箱蓋研	北: 40~70 南: 40~75	○	○	1-B	常滑、近世陶器	16世紀後半、近世	瓦子、施皮、3号構と 連絡。	
	3号構		4.0~5.0×0.4~2.4×2.1~2.6	素研	50	○	×	-	かわらけ、古窯津、常滑 白磁、磁皇窯系青磁、近世陶 器、瓦	11世紀後半~近世	大走り状の平壠。2~4 段に複数。	
	4号構		- × 5 × 2.3	-	-	×	×	1-B?			上部は調査区外のため不 明。	
丸山城 丸山遺跡第IV地点	1号構 (A区)		(15) × 2 以上 × 3.6~5.15	箱	65	×	×	-	古窯津瓶子		堀の西廻を検出。	126
	1号構 (B区)		(10) × 2.4 以上 × 1.7~2.7	-	-	×	×	-	かわらけ、常滑片付	15世紀後半~16世紀前半	堀の東廻を検出。堀底 に飛出。	
丸山遺跡第V地点	1号構 (1 a + b区)		約13.5 × - × 1.5以上	-	-	×	×	-	かわらけ、近世陶器		北の尾屋跡で大走り検 出。	127
	1号構 (2 a + b区)		(17) × - × -	-	-	×	×	-			他の京外側(北西側)廻 を検出。	
	1号構 (4区)		8.0~10.1 × 1.7~4.0	箱	内: 40 外: 45	×	×	-				
	1号構 (5区)		13.5 × - × 2 以上	-	-	×	×	-	かわらけ		堀の廻を検出。	
上池原・メ引北道路	1号構		2.4~3.8×0.7~1.4×1.1~1.8	箱	内: 49 外: 54	○	○	-	かわらけ、古窯津小瓶、常滑 片口鉢、足付火鉢、明治 片付	13~16世紀	堀の内側。14世紀中期 の遺構とされる。	107
	下構屋・丸山道路 (第6地点)	箱 (A地区)	約17×約7.5×約5	箱	内: 38~65 外: 15~55	×	○?	1-B	かわらけ、常滑瓶、瓶		土器は遺跡第2の可能性あ り。瓶底に大きさ。	
岡崎城 岡崎城跡	箱 (B地区)		約 6 × 約 0.7 × 約 3	箱蓋研	北: 40~65 南: 45~60	×	×	-	かわらけ、謹高窯、常滑瓶、 古窯津小瓶、青磁瓶、瓦	13世紀~16世紀	瓦が多く出土した。	128
	内構 (第3トレンチ)		- × - ×約3.5	-	60~75	×	×	-			御殿の廻。	
	内構 (2グリッド)		- × - × -	-	約50	×	×	-			御殿の廻。堀の廻を検出。	
	SD-2		- × - × 1.9	-	50	×	×	-			二ノ堀の廻。堀の片側法 面を検出。	
	SD-3		4 × - × -	-	内: 65 外: 70	×	×	-			二ノ堀の廻。堀底は未検 出。	
	SD-4		1.6 × - × -	-	内: 60 外: 90	×	×	-			二ノ堀の廻。堀底は未検 出。	
	現状遺構 (第1トレンチ)		- × 0.6 × 1.5以上	素研	-	?	×	-			西側社叢を検出。堀の 廻を未検出。	
	内構 (第1グリッド)		- × - × -	-	50~65	×	×	-			南側で検出。堀の東廻を 検出。	

南足柄市

名稱	遺跡名	遺構名	壁上幅×底座幅×深さ (m)	形態	傾斜角 (°)	土質	土構	壁面 形状	出土遺物	遺物年代	備考	文獻 番号
浜居城城跡	浜居城城跡	空堀 (4号トレンチ)	- × - × 1~2.4	基壇	東: 45 西: 10	×	×	-			主郭と西櫓台の間の堀。	109
		空堀 (6号トレンチ)	- × - × 3.4	-	40	×	×	-			中御門の法曲のみ確認。	
		空堀 (7号トレンチ)	- × - × -	-	16~50	×	×	-			主郭側の法曲のみ確認。	
		空堀 (8号トレンチ)	- × - × 1.6~3.95	基壇	北: 10 東: 27	×	×	-			主郭と北櫓台の間の堀。	
		空堀 (9号トレンチ)	- × - × 4.05	基壇	30~50	×	×	-				
		空堀 (10号トレンチ)	- × - × 2.9	基壇	東: 15 西: 31	×	×	-				
		空堀 (11号トレンチ)	- × - × 2.4	基壇	東: 37 内: 15	×	×	-			西櫓台と西側半堀との間の堀。	
		空堀 (12号トレンチ)	- × - × 1.42~2	基	北: 22 南: 44	×	×	-				
		北大空堀 (1号トレンチ)	× 5 × 0.85以上	基	外: 10~40	○	×	-			外側に土塁。	
		北大空堀 (2号トレンチ)	- × 3.4 × -	基	内: 40~47 外: 45~50	○	×	-				
羽田城	羽田城跡	空堀A	約3.5×約2.1×約0.9	基	北: 40~50 内: 15	×	×	-			通路として使用された可能性あり。	110
		空堀B	約3.6×約2.2×約1	基	北: 40~50 内: 20~30	×	×	-				

綾瀬市

名稱	遺跡名	遺構名	壁上幅×底座幅×深さ (m)	形態	傾斜角 (°)	土質	土構	壁面 形状	出土遺物	遺物年代	備考	文獻 番号
早川城	早川城跡	壁切 (I A - 10 T)	13.95×2.3×4~5.7	基	内: 45~50 外: 20~40	×	×	-				112
		壁切 (II - 2 T)	8.82×2.4×0.3~6.1	基	内: 50 外: 40	○	×	-				
		壁切 (II - 3 T)	9.24×2.2×5~6.7	基	内: 50 外: 50	○	×	-			裾底に段。	
		壁切 (III - 4 T)	- × 2.4~4.5×2.1	-	内: 40~50	○	×	-			堅壁と重複。	
		壁切 (III - 5 T)	- × 2.8×0.32	基	内: 70 外: 25	×	×	-				
		壁切 (III - 1 T)	- × 0.96×2.68	基	内: 60 外: 65	×	×	-				
		壁切 (III - 2 T)	10.45×1.89×0.96~6.15	基	内: 35~50 外: 30	○	×	-				
		壁切 (III - 3 T)	- × 1.26~3.5×1.42~3	基	内: 30~60 外: 35	○	×	-			裾底に段。	
		壁切 (IV - 2 T)	6.8×1.1×0.4~5.75	基	内: 30~50 外: 50	○	×	-				
		壁切 (V - 5 T)	- × 1.2×0.94	基	内: 60 外: 45	×	×	-			裾底に段。	
		壁切 (V - 6 T)	- × 1.45~1.6×1.45	基	内: 45 外: 40~55	×	×	-			裾底に段。	
		壁切 (V - 7 T)	- × 2.62×0.3	基	内: 50 外: 35	×	×	-				
		壁切 (V - 8 T)	- × 2.24×0.75	基	内: 50 外: 40	×	×	-				
		壁切 (V - 9 T)	8.5×1.45~1.9×1.04~6.3	基	内: 40~70 外: 50	×	×	-			裾底に段。	
		壁切 (V - 10 T)	- × 1.92×1.10	基	内: 40~60 外: 50	×	×	-			裾底に段。	

早川城跡	早川城跡	輪郭 (VI-3 T) 堀切 (I B-1 T) (I B-3 T) (IV-6 T)	8.55×0.95×0.9~4.3 3.5~4×0.26~0.86×1.5~2.1	高 堀面研	内：30~50 外：40 内：40~80 外：50	× × × ×	× ○? × ×	- - -			112
------	------	--	--	----------	------------------------------------	------------------	-------------------	-------------	--	--	-----

松田町

名称	遺跡名	遺構名	壁上幅×掘面幅×深さ (m)	形態	傾斜角 (°)	土壌	土相	壁面 形状	出土遺物	遺物年代	備考	文献 番号
松田城	松田城址	空堀	5.2×2.4×1.6~2.6	高	北：55 南：60	×	○?	-			西端に土標か。	
		堀切	約6×約2.4×6~8	高	北：45 南：50	×	×	-			整堤と連続。	114
		堀底	約2~2.7×1.5~1.7×0.1~1.6	高	60	×	×	-			堀切と連続。東側は低い。	

山北町

名称	遺跡名	遺構名	壁上幅×掘面幅×深さ (m)	形態	傾斜角 (°)	土壌	土相	壁面 形状	出土遺物	遺物年代	備考	文献 番号
河村城	河村城跡	堀切2	約25×約16.6×約12	高	東：40~50 西：50	×	○	I-B	青磁瓦、明代尖付瓶、常滑窯、近世陶磁器	15世紀前半~16世紀後半、近世	障子風。	115
		堀切3	約20×約9.3~約5.5×約8	堀面研	東：40~60 西：40~50	×	×	-	常滑窯		最高層の焼成時に備附置機を作った。	116
		空堀1	約10×約1.7×約3	高	東：40~50 西：45	×	×	-			空堀より古い。	117
		空堀2	約13~18×約2.4×約8	高	東：30~60 西：60~70	×	×	-			空堀3と連続する。障底を通過として使用か。3~4階削除後、空堀2と連続する。	118
		空堀3	約11~17×約3×約5	高	約40	×	×	-	かわらけ		空堀4と連続する。	119
		空堀4	約11×約1.5×約3.5~約5	高	北：20~5 南：60	×	×	-	青磁瓶、常滑窯、かわらけ			115
		空堀5	約7×約1×約4	高	20~60	×	×	-	古瀬戸梅瓶(後期1)、常滑窯	14世紀後半~15世紀前半		
		空堀6	12.5×~×6以上	高	東：50 西：49 南北：55	×	×	I-B	かわらけ、常滑窯、瀬戸美濃丸、近世陶磁器	16世紀中葉~近世	堀障子。	115
		空堀7	約6~8×約1×約5	高	東：49 西：50	×	×	-	船載荷物四耳壺		空堀6・空堀1より古い。	115
		堀底1	約14×~×2.5M以上	-	東：20~50 西：30~50	×	×	-	常滑窯	16世紀後半	空堀7より新しい。	115

遺跡・新規追加

名称	遺跡名	所在地	概要	文献 番号
村浦屋敷	六ノ城跡	宇摩市真上字六ノ城 252-9他所在	7条の構造遺構に区画された堅穴式造跡・井戸・土坑が確認されている。調査地点の北側側一帯が、後文氏の家臣の杉板蔵藤谷門の墓地地であるとの伝承が残っている。	117
玉岡城	山岡城跡	健磯市城越半打越165	東西斜面で6条、西斜面側で3条の堅穴式造跡が検出され、5~10m間隔で構築されている。堅明は2か所で確認され、それぞれ3時頃、5時頃の掘り戻しが確認され、大きく裏手形	118
近藤右衛門 別荘旁居所	上ノ町跡	多ヶ崎市上ノ町	構造遺構に区画された堅穴式造跡、ビット、井戸が集中して確認され、主殿として報告されている。近藤右衛門別荘旁居所の居館の別宅の可能性が指摘されている。	119
津久井城	津久井城跡込込地区	梅橋町字小字馬込 135-1、137-2外	津久井城跡込込地区的上層を伴う曲輪を検出。この中に、壇式式柱、蓮池遺構を検出した。	120
神明宮跡地区内塗跡		大和市宮跡N10号外	中世から近世にかけての獨立立柱跡や井戸、地下水戸、土坑などを検出。また、これら遺構を取り戻すように廣が検出され、廣によって埋められた塗敷地と考えられる。	121
丸山城	丸山遺跡第4地点	伊勢原市下槽屋字丸山 2191-1外	その跡の堅跡に沿う場を検出。堅、堅状造跡、蓮池遺構などから丸山城の虎口の一つと想定される。この他、堅立柱跡、櫓跡、堅穴式造跡、地業屋などが確認されている。	122
	丸山遺跡第5地点	伊勢原市下槽屋字丸山 2191-1外	丸山城の外側を通る塹から上層状の埴子を検出した。また塹の外側からは廣や段切りによる区画を検出した。この他に北の軒と内部の間の壁を検出した。	123
	下槽屋・丸山遺跡 (第6地点)	伊勢原市下槽屋2181、 220212-6		124
阿村城	阿村城跡	足納上郷山11町北1北	堀切2、近修6、馬廻戸の調查。堀切2からは第3の堅跡子を確認した。また、空堀6からも堀障子を確認している。	125

近世民家の集成（8）

近世プロジェクトチーム

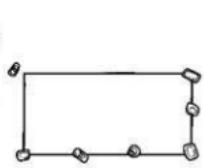
はじめに

県内の近世民家の集成の第8回目である。本プロジェクトチームでは、県内で調査された近世建物址の集成を行い、これまでに229棟分のデータを蓄積してきた。前回をもっておおむね県内で報告されている近世建物を収集できたと思われるが、2009年から2010年3月までに刊行された報告書にも報告例が認められる。今回は、平塚市真田・北金目遺跡群、相模原市はじめ沢下遺跡、同市津久井城跡馬込地区の23棟分を追加した。

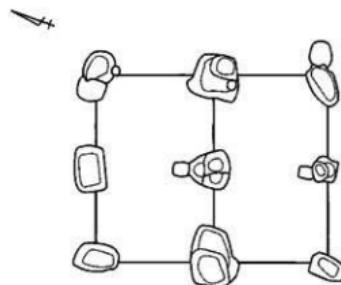
凡例

- 資料番は近世民家の集成（1）からの続き番号である。
- 遺構名は報告書の記載に基づく。
- 建物の縮尺は1/100とし、スケールを省略したが、規模の大きいものについては適宜縮尺を変え、図面ごとにスケールを示した。
- 梁間、桁行の間数は単に柱穴の数ではなく、柱間距離から概略割り出した1間の梁間及び桁行寸法で換算した数値を示している。
- 坪数は梁間×桁行の面積を、現行の一坪3.3m²で除したものである。
- 建物の機能・構築時期については、報告書の記載に準じているが、母屋と付属建物の別が明確なもの、出土遺物から時期が推定できるものについては記載した。

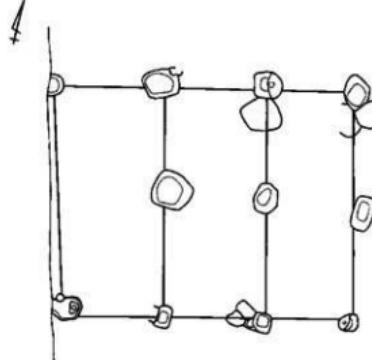
資料番	230	遺跡名	真田・北金目遺跡群	所在地	平塚市北金目		
遺構名	SB6001		構築場所	丘陵裾部を造成した平坦面			
規模	梁間	1.8 m	桁行	3.45 m	2 × 3 間	面積	6.2 m ²
柱穴の形状	方形・長方形主体	柱間距離	梁	0.8 m	桁	1.1～1.2 m	主軸方位
出土遺物				付属施設			
建物の機能				構築時期			
備考	SB6002・SB6003と重複、SB6002・SB6003より新しい						



資料No.	231	遺跡名	真田・北金目遺跡群	所在地	平塚市北金目
遺構名	SB6002	構築場所	丘陵裾部を造成した平坦面		
規模	梁間 3.8 m 柱間 4.6 m	桁行 2 × 2 間	面積 17.5 m ²	坪数 5.3 坪	
柱穴の形状	方形・長方形主体	柱間距離 梁 1.9 m 桁 2.3 m	主軸方位 N - 18° - W		
出土遺物		付属施設			
建物の機能	倉庫？	構築時期			
備考	SB6001・SB6003と重複、SB6001より古い、SB6003は新旧不明				

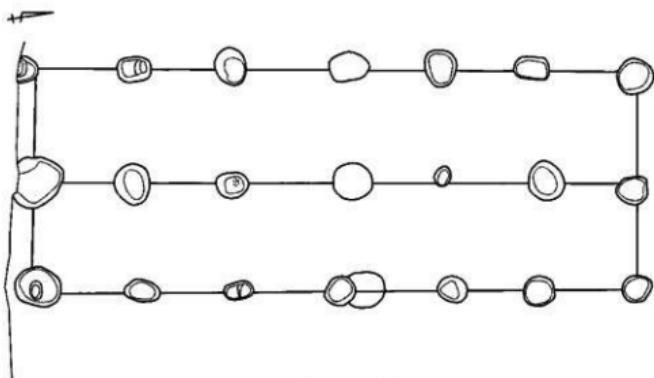


資料No.	232	遺跡名	真田・北金目遺跡群	所在地	平塚市北金目
遺構名	SB6003	構築場所	丘陵裾部を造成した平坦面		
規模	梁間 4.6 m 柱間 6.2 m	桁行 3 × 3 間	面積 28.5 m ²	坪数 8.6 坪	
柱穴の形状	方形・長方形主体	柱間距離 梁 1.8 ~ 1.9 m 桁 2.3 m	主軸方位 N - 75° - W		
出土遺物	瀬戸・美濃陶器	付属施設			
建物の機能		構築時期			
備考	SB6001・SB6002と重複、SB6001より古い、SB6002は新旧不明				

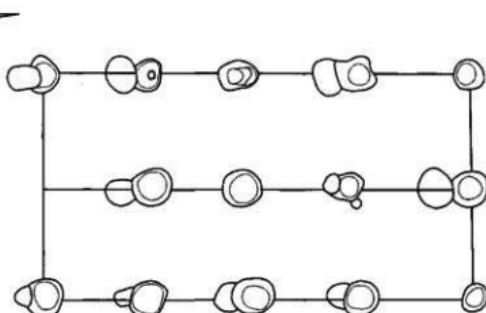


近世民家の集成 (8)

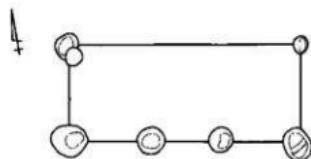
資料№	233	遺跡名	真田・北金目遺跡群	所在地	平塚市北金目
遺構名	SB0001	構築場所	丘陵裾部を造成した平坦面		
規模	梁間 4.35 m 柱間 12.9 m	桁行 2 × 6 間	面積 56.1 m ²	坪数 17 坪	
柱穴の形状	円形・楕円形主体	柱間距離 梁 1.8 ~ 2.3 m	桁 1.8 ~ 2.2 m	主軸方位 N - 10° - E	
出土遺物	鉄製品	付属施設			
建物の機能		構築時期			
備考	SB0002・SB0005と重複、SB0002より新しい、SB0005は新旧不明				



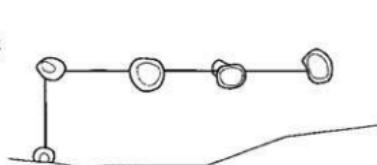
資料№	234	遺跡名	真田・北金目遺跡群	所在地	平塚市北金目
遺構名	SB0002	構築場所	丘陵裾部を造成した平坦面		
規模	梁間 4.5 m 柱間 8.7 m	桁行 2 × 4 間	面積 39.2 m ²	坪数 11.9 坪	
柱穴の形状	円形・楕円形主体	柱間距離 梁 2.2 ~ 2.3 m	桁 2.1 ~ 2.3 m	主軸方位 N - 10° - E	
出土遺物	瀬戸・美濃陶器	付属施設			
建物の機能		構築時期			
備考	SB0001と重複、SB0001より古い、南側1間は庇の可能性も考えられる				



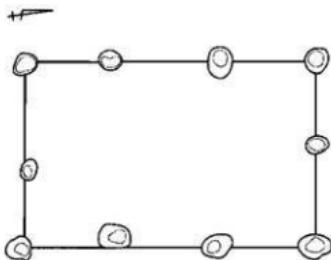
資料No.	235	遺跡名	真田・北金目遺跡群				所在地	平塚市北金目		
遺構名	SB0003	構築場所	丘陵裾部を造成した平坦面							
規模	梁間 柱間距離	1.9 m 1.9 m	桁行 梁	4.55 m 1	× 3間		面積	8.6 m ²	坪数	2.6坪
柱穴の形状	楕円形・円形	柱間距離	梁	1.9 m	桁	1.5 m	主軸方位	N - 78° - W		
出土遺物	瀬戸・美濃陶器		付属施設							
建物の機能			構築時期							
備考										



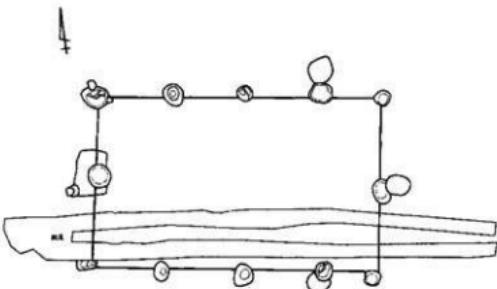
資料No.	236	遺跡名	真田・北金目遺跡群				所在地	平塚市北金目		
遺構名	SB0005	構築場所	丘陵裾部を造成した平坦面							
規模	梁間 柱間距離	1.8 m 2.0 m	桁行 梁	5.45 m 1	× 3間		面積	9.8 m ²	坪数	3坪
柱穴の形状	楕円形・円形	柱間距離	梁	2.0 m	桁	1.7 m	主軸方位	N - 83° - W		
出土遺物			付属施設							
建物の機能			構築時期	近世						
備考	SB0001と重複、新旧は不明									



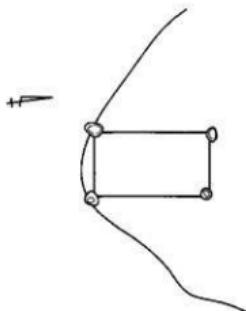
資料No.	237	遺跡名	真田・北金目遺跡群	所在地	平塚市北金目
遺構名	SB0007	構築場所	丘陵裾部を造成した平坦面		
規模	梁間 3.75 m	桁行 5.95 m	2 × 3 間	面積 22.3 m ²	坪数 6.8坪
柱穴の形状	梢円形・楕丸方形	柱間距離 梁 1.55 ~ 2.2 m	桁 1.9 ~ 2.1 m	主軸方位 N - 8° - E	
出土遺物		付属施設			
建物の機能		構築時期			
備考	SB0009と重複、SB0009より新しい				



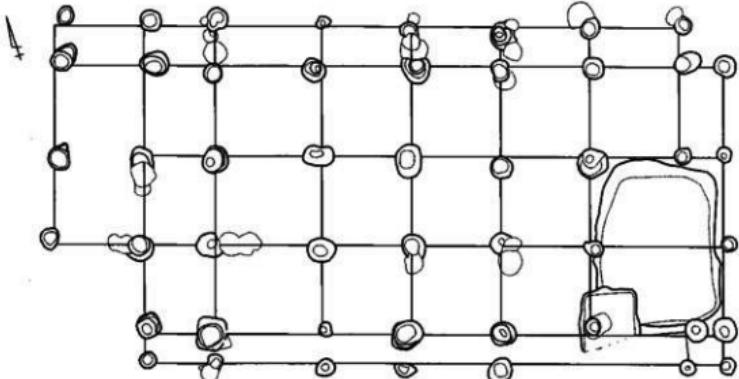
資料No.	238	遺跡名	真田・北金目遺跡群	所在地	平塚市北金目
遺構名	SB0009	構築場所	丘陵裾部を造成した平坦面		
規模	梁間 4.6 m	桁行 7.3 m	2 × 4 間	面積 33.6 m ²	坪数 10.2坪
柱穴の形状	円形・梢円形主体	柱間距離 梁 2.15 ~ 2.3 m	桁 1.25 ~ 2.05 m	主軸方位 N - 83° - W	
出土遺物	瀬戸・美濃陶器	付属施設			
建物の機能		構築時期			
備考	SB0007と重複、SB0007より古い				



資料No.	239	遺跡名	真田・北金目遺跡群	所在地	平塚市北金目
遺構名	SB0010	構築場所	丘陵裾部を造成した平坦面		
規模	梁間 柱穴の形状	1.4 m 円形・梢円形主体	桁行 柱間距離	2.4 m 梁 1.2・1.4 m	1 × 1 間 桁 2.35・2.4 m
出土遺物			面積	3.4 m ²	坪数 主軸方位
建物の機能				1坪 N-3°-E	構築時期
備考					

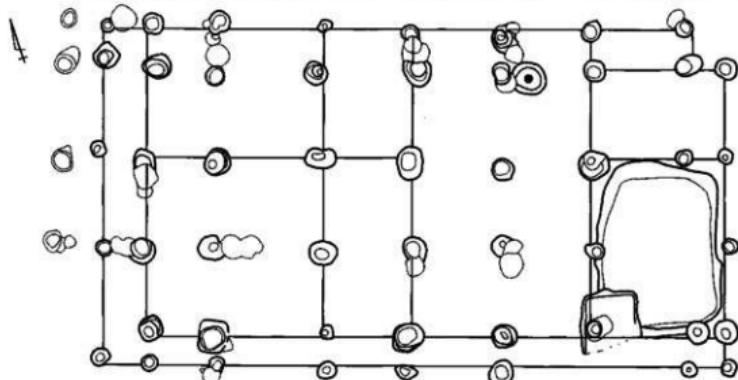


資料No.	240	遺跡名	はじめ沢下遺跡	所在地	相模原市緑区中沢(旧城山町)
遺構名	K1号掘立柱建物址a	構築場所	段切りによって開削された南向きの整地面		
規模	梁間 柱穴の形状	5.4 m 円形主体	桁行 柱間距離	10.8 m 梁	3 × 6 間 1.8 m 桁 1.5～2.1 m
出土遺物			面積	58.3 m ²	坪数 主軸方位
建物の機能	母屋		構築時期	江戸中～後期	
備考	K2号・K4号掘立と重複、K2号・K4号掘立より古い、炉址、竪穴状遺構を伴う				

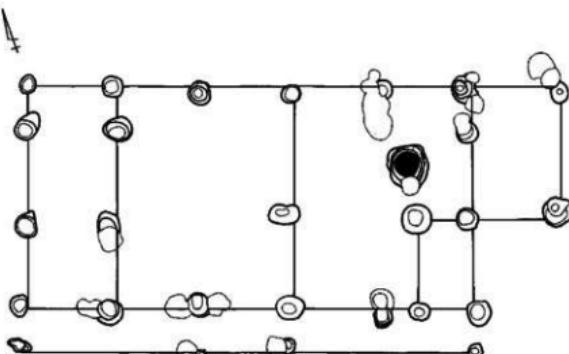


近世民家の集成 (8)

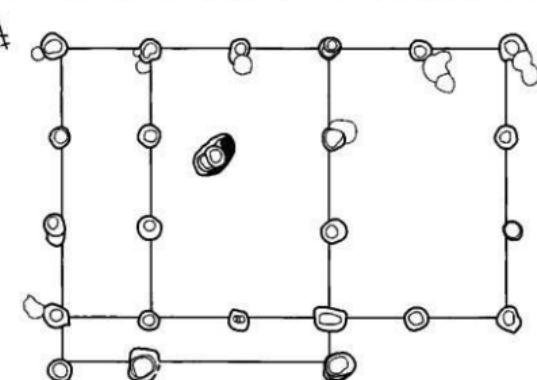
資料編	241	遺跡名	はじめ沢下遺跡	所在地	相模原市緑区中沢(旧城山町)
遺構名	K 1号掘立柱建物址 b	構築場所	段切りによって開削された南向きの整地面		
規模	梁間 5.4 m 柱間距離 梁	10.8 m	3 × 6 間	面積	58.3 m ² 坪数 17.7 坪
柱穴の形状	円形主体	柱間距離 梁	1.8 m	桁	1.5 ~ 2.1 m 主軸方位 N - 71° - W
出土遺物	寛永通宝、鉄鍋、砥石	付属施設	西側と南側に庇		
建物の機能	母屋	構築時期	江戸中～後期		
備考	K 2号・K 4号掘立と重複、K 2号・K 4号掘立より古い、炉址・竪穴状遺構を伴う				



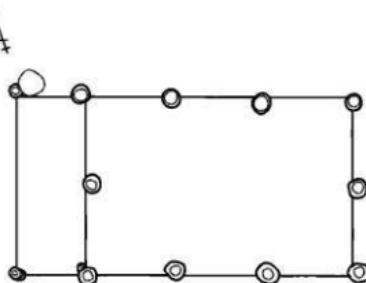
資料編	242	遺跡名	はじめ沢下遺跡	所在地	相模原市緑区中沢(旧城山町)
遺構名	K 2号掘立柱建物址	構築場所	段切りによって開削された南向きの整地面		
規模	梁間 4.5 m 柱間距離 梁	9.0 m	3 × 5 間	面積	40.5 m ² 坪数 12.3 坪
柱穴の形状	円形主体	柱間距離 梁	0.9 ~ 1.8 m	桁	0.8 ~ 1.8 m 主軸方位 N - 70° - W
出土遺物		付属施設	東側に張り出し、南側に庇		
建物の機能	母屋	構築時期	江戸中～後期		
備考	K 1号・K 4号掘立と重複、K 1号掘立より新しくK 4号掘立より古い、炉址を伴う				



資料No.	243	遺跡名	はじめ沢下遺跡	所在地	相模原市緑区中沢(旧城山町)
遺構名	K3号掘立柱建物址	構築場所	段切りによって開削された南向きの整地面		
規模	梁間 5.4m	桁行 9.0m	3×5間	面積 48.6m ²	坪数 14.7坪
柱穴の形状	円形主体	柱間距離	梁 1.8m	桁 1.8m	主軸方位 N-72°-W
出土遺物	瀬戸・美濃陶器	付属施設	南側に庇		
建物の機能	母屋	構築時期	江戸中～後期		
備考	炉址を伴う				

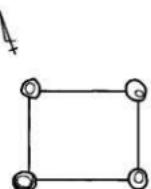


資料No.	244	遺跡名	はじめ沢下遺跡	所在地	相模原市緑区中沢(旧城山町)
遺構名	K4号掘立柱建物址	構築場所	段切りによって開削された南向きの整地面		
規模	梁間 3.6m	桁行 5.4m	2×3間	面積 19.5m ²	坪数 5.9坪
柱穴の形状	円形主体	柱間距離	梁 1.8m	桁 1.8m	主軸方位 N-70°-W
出土遺物	砥石	付属施設	西側に庇		
建物の機能	母屋	構築時期	江戸中～後期		
備考	K1号・K2号掘立と重複、K1号・K2号掘立より新しい				

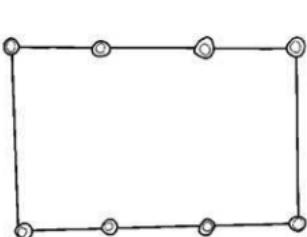


近世民家の集成 (8)

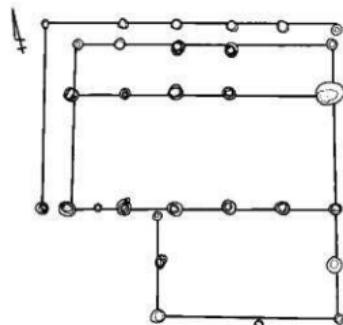
資料番号	245	遺跡名	はじめ沢下遺跡				所在地	相模原市緑区中沢（旧城山町）			
遺構名	K 5 号掘立柱建物址	構築場所	段切りによって開削された南向きの整地面								
規模	梁間	1.7 m	桁行	2.1 m	1 × 1 間	面積	3.6 m ²	坪数	1.1 坪		
柱穴の形状	円形主体	柱間距離	梁	1.7 m	桁	2.1 m	主軸方位	N - 70° - W			
出土遺物				付属施設							
建物の機能	付属			構築時期	江戸中～後期						
備考	K 4 挖立の付属										



資料番号	246	遺跡名	津久井城跡馬込地区				所在地	相模原市緑区小倉（旧城山町）			
遺構名	K 1 号掘立柱建物址	構築場所	東向きの緩斜面を削平して造り出した平場								
規模	梁間	3.8 m	桁行	5.7 m	2 × 3 間	面積	21.7 m ²	坪数	6.6 坪		
柱穴の形状	円形主体	柱間距離	梁	3.8 m	桁	1.9 m	主軸方位	N - 77° - W			
出土遺物				付属施設							
建物の機能	副屋			構築時期	17世紀代						
備考											

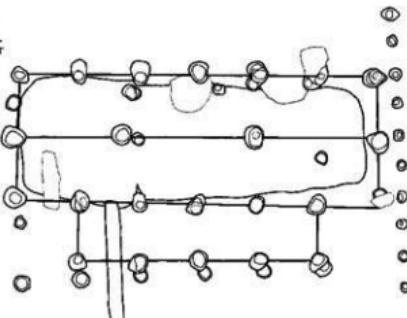


資料No.	247	遺跡名	津久井城跡馬込地区	所在地	相模原市緑区小倉(旧城山町)
遺構名	K 2 号掘立柱建物址	構築場所	東向きの緩斜面を削平して造り出した平場		
規模	梁間 6.6 m 柱間 10.5 m	桁行 4 × 6 間	面積 69.3 m ²	坪数 21 坪	
柱穴の形状	円形主体	柱間距離 梁 2.1 ~ 2.3 m	桁 2.0 ~ 4.6 m	主軸方位 N - 75° - W	
出土遺物		付属施設	南側に張り出し、北側と西側に庇		
建物の機能	主屋	構築時期			
備考					



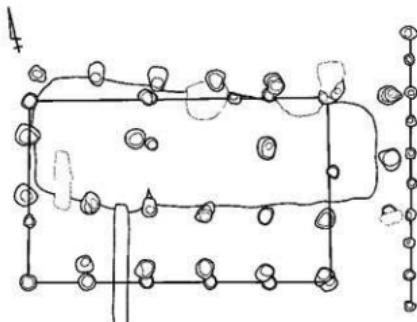
[S : 1/200]

資料No.	248	遺跡名	津久井城跡馬込地区	所在地	相模原市緑区小倉(旧城山町)
遺構名	K 3 号掘立柱建物址 a	構築場所	南東向きの緩斜面		
規模	梁間 3.8 m 柱間 11.0 m	桁行 2 × 6 間	面積 41.8 m ²	坪数 12.7 坪	
柱穴の形状	不整円形	柱間距離 梁 1.8 ~ 2.0 m	桁 1.8 ~ 2.0 m	主軸方位 N - 74° - W	
出土遺物	陶磁器	付属施設	南側に張り出し		
建物の機能	主屋	構築時期			
備考	堅穴状造構、溝状造構を作う				



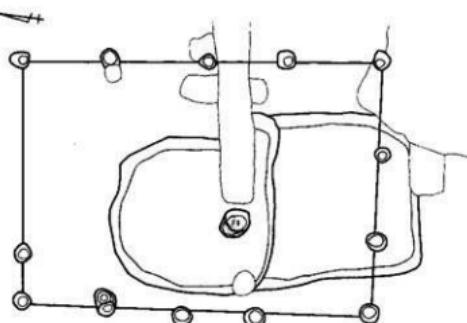
[S : 1/150]

資料№	249	遺跡名	津久井城跡馬込地区				所在地	相模原市緑区小倉(旧城山町)	
遺構名	K3号掘立柱建物址 b		構築場所	南東向きの緩斜面					
規模	梁間	5.4 m	桁行	9.2 m	3 × 5間	面積	49.7 m ²	坪数	15坪
柱穴の形状	不整円形		柱間距離	梁	1.8 m	桁	1.8 ~ 1.9 m	主軸方位	N - 75° - W
出土遺物					付属施設				
建物の機能					構築時期				
備考	東側にピット列、K3号掘立aの建て替えの可能性あり								

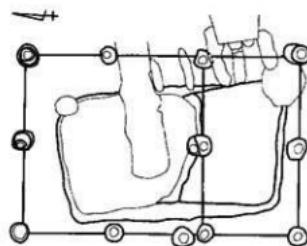


〔S : 1/150〕

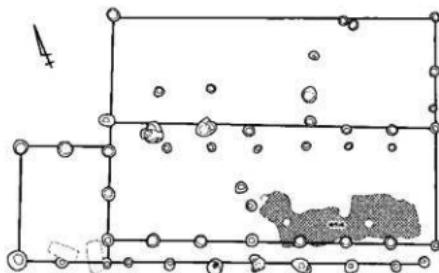
資料№	250	遺跡名	津久井城跡馬込地区				所在地	相模原市緑区小倉(旧城山町)				
遺構名	K4号掘立柱建物址		構築場所	東に向かって落ちる斜面を削平して造り出した平場								
規模	梁間	5.0 m	桁行	7.3 m	3 × 4間	面積	36.5 m ²	坪数	11.1坪			
柱穴の形状	円形主体		柱間距離	梁	1.5 ~ 1.8 m	桁	1.5 ~ 2.2 m	主軸方位	N - 8° - W			
出土遺物	陶磁器				付属施設							
建物の機能	主屋				構築時期	17世紀以降						
備考	炉穴、竪穴状遺構を伴う											



資料No.	251	遺跡名	津久井城跡馬込地区				所在地	相模原市緑区小倉(旧城山町)					
遺構名	K 5号掘立柱建物址		構築場所	東に向かって落ちる斜面を削平して造り出した平場									
規模	梁間	3.6 m	桁行	5.6 m	2 × 3 間	面積	20.2 m ²	坪数	6.1 坪				
柱穴の形状	円形主体	柱間距離	梁	1.8 ~ 2.0 m	桁	1.8 m	主軸方位	N - 4° - W					
出土遺物	陶磁器		付属施設										
建物の機能	主屋		構築時期		17世紀以降								
備考	竪穴状遺構を伴う												



資料No.	252	遺跡名	津久井城跡馬込地区				所在地	相模原市緑区小倉(旧城山町)					
遺構名	K 6号掘立柱建物址		構築場所	耕作地付近の平場									
規模	梁間	9.2 m	桁行	13.4 m	5 × 7 間	面積	123.3 m ²	坪数	37.4 坪				
柱穴の形状	円形	柱間距離	梁	1.8 ~ 1.9 m	桁	1.8 ~ 2.0 m	主軸方位	N - 68° - W					
出土遺物			付属施設		西側に張り出し、南側に庇								
建物の機能	主屋		構築時期										
備考	南東側に硬化面有り												



[S : 1/200]

人物埴輪にみる地域相の分析と工人集団の復元

—神奈川県の人物埴輪を中心に—

新山 保和

1.はじめに

近年の埴輪研究は、円筒埴輪の分析が主流となっている。特に工具痕である刷毛目の同定に着目し、古墳出土埴輪を類型化する同正品論が盛んである（註1）。その一方で、形象埴輪、特に人物埴輪の研究はあまり進展が見受けられない。一時期、埴輪研究は、編年論（川西1978、群馬県考古学談話会など1985）や埴輪祭記論（水野1971、橋本1980、）が主流であったが、今では円筒埴輪の刷毛目研究にその座を奪われている。筆者は以前、人物埴輪の造形、特に女子人物埴輪における髪の造形に着目し、女子人物埴輪の分類を試みたことがある（新山2006）。人物埴輪の造形表現をつぶさに観察すると、同じ古墳から出土する同種の人物埴輪においても、その成形方法や造形表現に相違が見受けられる。特に髪や美豆良などの頭髪表現、耳朶・耳孔などの顔表現、耳飾りや冠帽などの装飾品表現など、細かい造形表現が個体ごとに異なるケースがある。また、同様に異なる種類の人物埴輪でも、同一成形方法や造形表現が認められるケースがある（註2）。拙稿では、先行研究の埴輪同正品論を整理し、女子人物埴輪の同正品同定方法に焦点をしづり、女子人物埴輪の工人集団の復元を試みた。その結果、女子人物埴輪の髪成形は、工人の識別に有効であることが分かった。そこで本稿では、神奈川県出土の人物埴輪を対象として、工人集団の鑑別方法を念頭に置きながら、人物埴輪工人の系譜・系統について分析・整理を試みたい。

2.問題の所在

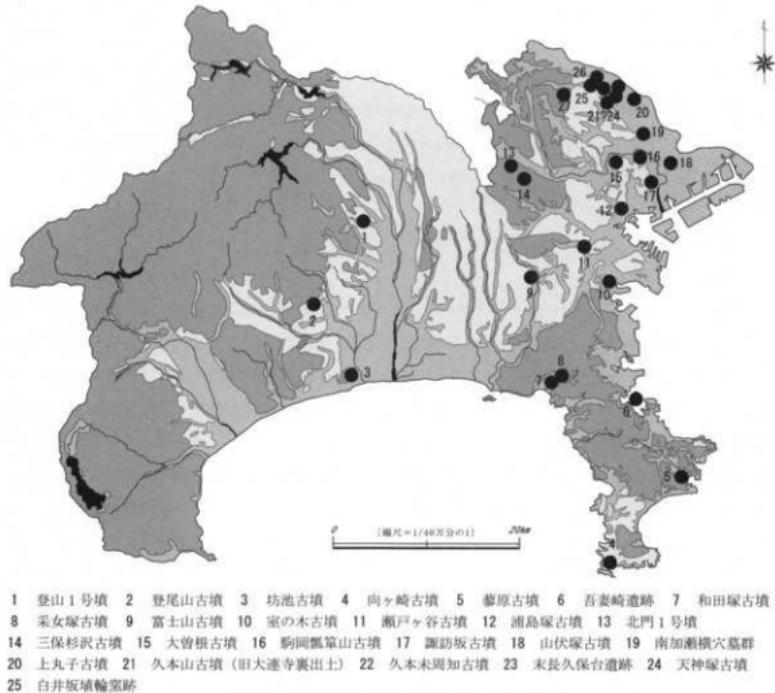
(1)研究小史

人物埴輪における同正品論の先駆けは、小林行雄氏（小林1974）の研究と言える。小林氏は、城山1号墳出土の人物埴輪を観察し、そこに見られる共通表現や手法を「作風」として捉えている。この作風が共通する埴輪を同正品と指摘する。その後、この「作風」についての共通認識が浸透し、同一古墳内出土埴輪での分析（米田1976、車崎1988、右島1992、小橋2004）、遠距離にある古墳間での分析（杉山1976、橋本1980、今津1988、若狭1993、梅澤1998）など、多くの研究がある。その中で、日高慎氏の一連の研究（日高1995、1996、1997A、1997B、1999）は秀逸と言える。日高氏は、髪や頭巾などの人物埴輪における共通表現を抽出し、その分布状況から埴輪製作集団の動向を明らかにする。日高氏は、人物埴輪に表現された各部位には、特定の埴輪工人集団が共有する共通表現がある点を指摘する。日高氏の指摘する共通表現は、頭巾や髪などの部位や脚部や足結などに見られ、その形態的な特徴を分類・精査することにより、抽出が可能であることを指摘する。筆者も日高氏の「共通表現」の認識には同意見であり、人物埴輪に表現された髪などの部位に注目することにより埴輪工人集団の動向が読み取れると考えている。また、稻村繁氏（稻村1999）も、人物埴輪における各部位の形態的な分類を行い、同一表現の人物埴輪の類型化・編年作業を行うことで、人物埴輪工人集団の抽出や工人集団間の交流などを整理する。稻村氏の分類は詳細で、筆者の分類

項目と多くの点で共通する。そこで本稿では、神奈川県内の人物埴輪を対象として、主に器の造形表現に注目することにより、古墳ごと、あるいは古墳群ごとの造形表現の比較検討を行い、人物埴輪工人集団の動向を探ってみたい。

(2) 神奈川県の埴輪

神奈川県では、伝承なども含めると埴輪が出土している遺跡は65地点を数える。その中には実物が確認できない遺跡も含まれるので、実際に埴輪が出土した遺跡は57地点となる。内訳を見ると、古墳36、横穴墓6、埴輪窯1、その他（集落や性格不明な遺構）14を数える。その中で、人物埴輪の出土が知られている遺跡は25を数える（図1）。埴輪出土の遺跡分布を見ると、①県北東部の鶴見川と多摩川流域、②鎌倉市を含めた三浦半島内、③県内最大河川の相模川を有する県央部、3つの地域に分けられる。その中で、最も埴輪が集中するのは①県北東部の鶴見川と多摩川流域である。これは、対岸に位置する東京都大田区・世田谷区・狛江市内に東京都内の埴輪出土遺跡が集中するのと呼応しており、多摩川下流域から鶴見川流域にかけての地域が、神奈川県と東京都を股にかけた埴輪密集地帯であったと言える。この地域の埴輪は、5世紀後半の日吉矢上古墳を筆頭に埴輪が導入される。その後、6世紀に入り白井坂埴輪窯の操業が開始され、西福寺古墳



第1図 神奈川県内人物埴輪出土古墳・遺跡分布図

などに供給されるようになる。6世紀前半の綱島古墳や西福寺古墳では人物埴輪を含む形象埴輪は見つかっていないが、白井坂埴輪窯跡や末長久保台遺跡では出土しているので、この時期から人物埴輪は製作されていったと考えられる。埴輪窯跡が見つかっているが、この地域で積極的に埴輪作りが展開する様相は見受けられない。6世紀後半になると、前半よりは埴輪を作り古墳が増えしていく。対岸の東京都では、5世紀前半の野毛大塚古墳で形象埴輪が出土しているので、5世紀の早い段階から埴輪が導入されていたと考えられる。その後、5世紀後半の浅間神社古墳で形象埴輪（人・動物など）が出土しているので、その後に続くものと見られる。②鎌倉市を含めた三浦半島内からは、海岸近くの低砂地から埴輪が出土している。低砂地は古墳

第1表 人物埴輪出土古墳

No	古墳名	所在地	遺構種別	墳形	埴輪
1	登山1号墳	厚木市飯山	古墳	円墳（約20m）	円・人・馬・家・鳥
2	登尾山古墳	伊勢原市三ノ宮	古墳		円・人・家
3	坊池古墳	中郡大磯町高麗	古墳（低地）		円・人・形
4	向ヶ崎古墳	三浦市向ヶ崎町	古墳		円・人・馬
5	藤原古墳	横須賀市神明町	古墳（低地）	帆立（28m）	円・人・馬・家
6	吾妻崎遺跡	横須賀市箱崎町	低地遺跡		人
7	和田塚古墳	鎌倉市由比が浜	古墳（低地）		円・人・馬
8	采女塚古墳	鎌倉市由比が浜	古墳（低地）		円・人・馬
9	富士山古墳	横浜市戸塚区上矢部町	古墳	円墳（約25.5m）	円・人・馬・鳥
10	宝の木古墳	横浜市磯子区久木町	古墳（低地）	円墳（約30m）	人
11	獅子ヶ谷古墳	横浜市保土ヶ谷区瀬戸ヶ谷町	古墳	前後（約41m）	円・人・馬・家・器
12	浦島塚古墳	横浜市神奈川区七島町ほか	古墳		人
13	北門1号墳	横浜市緑区十日市場町	古墳	円墳（約20m）	人
14	三保杉沢古墳	横浜市緑区三保町	古墳	前後（約28m）	円・人・馬
15	大曾根古墳	横浜市北区大曾根	古墳		人・馬
16	駒岡瓢箪山古墳	横浜市鶴見区駒岡町	古墳	円墳？	円・人・馬
17	源訪坂古墳	横浜市鶴見区源訪坂付近	古墳	前後？	人・馬
18	山伏塚古墳	川崎市川崎区池田	古墳		人？
19	南加瀬横穴墓群	川崎市幸区南加瀬	横穴墓		人
20	七丸子古墳	川崎市中原区丸子通り	古墳（低地）	前後？	人
21	大連寺裏	川崎市高津区久木400付近			人
22	久本末周知古墳	川崎市高津区久木490付近	古墳	円墳（約20m）	人
23	末長久保台遺跡	川崎市高津区末長365付近	遺跡		円・人・馬
24	天神塚古墳	川崎市高津区諏訪	古墳（低地）	円墳？（約18m）	円・人・形
25	日向5号横穴墓	川崎市高津区下作延2012	横穴墓		人
26	日向古墳	川崎市高津区下作延2012	古墳	円墳（約20m）	人
27	白井坂埴輪窯跡	川崎市宮前区大藏	窯跡		円・人・馬・器・形

※前後…前方後円墳

築造に適さないことから、埴輪が出土する古墳は意図的に占地したと考えられる（稻村 1996）。海に近い立地を考えると、この地域における埴輪導入は、海を介した交流がうかがえる。③県内最大河川の相模川を有する県央部は、海岸付近から内陸部にまで広く分布しているが、築造された古墳の数と比較すると埴輪の出土が少ないが、県内でも最古の埴輪が出土していることから、この地域に最初に埴輪が導入されたと考えられる。

3. 問題の所在

拙稿（新山 2006）で、女子人物埴輪を頭部成形と鬚の成形・形状・貼付位置により分類を行ったが、ここで再度分類基準の整理を行ってみたい。

(1) 頭部成形

頭部は、頭頂部の成形手法により開放型と閉塞型の2つに大別ができる。開放型は、頭部を成形するのに頭頂部を閉塞せずに開いているタイプを指す。閉塞型は、頭頂部まで粘土を輪積みして頭部を成形するタイプを指す（第5図）。閉塞型は、男子人物埴輪に一般的な成形である。開放型は、群馬県保渡田VII遺跡の人物埴輪や福島県原山1号墳、東京都亀塚古墳出土の人物埴輪などに見られる（註3）。開放型は、その開放度合により平行開放タイプ（第2図）とドーム開放タイプ（第3・4図）の2つに細別が可能である（註4）。平行開放タイプ（第2図）とドーム開放タイプの最大の違いは、額部分を成形するのに内側に輪積みを行うかどうかである。そのまま連続して輪積み成形するのが平行開放タイプ、内側に絞って額部分を成形するのがドーム開放タイプである。また、ドーム開放タイプも頭頂部の円孔の大きさにより2つに細別が可能である。①途中まで粘土紐で積み上げるものと、②鬚で孔をふさぐ直前段階まで粘土紐を積み上げるものがある。

(2) 鬚の成形

鬚の表現には、粘土帯で成形して表現する鬚と線刻で表現する鬚がある。前者は、「つぶし島田」と呼称される平面的な板作りと、立体的な造形の折り返し作りの2つに大別できる。平面的な板作りが一般的で、神奈川県の事例もほとんどが板作りである。折り返し作り技法には、関東では、群馬県葛城音山古墳の人物埴輪（第4図-2）、埼玉県小前田8・9・10号墳、東京都喜多見障屋2号墳などが挙げられる。この立体的な造形は、「畿内的人物埴輪」の特徴の一つであることが指摘されている（永井 1998）が、県下では見つかっていない。線刻で表現する事例は、久保山古墳出土のものが挙げられる（第8図）。

(3) 鬚の貼付位置

粘土帯を成形して作る鬚は、頭部と別作りで造られている。頭部に粘土板を填込んで成形する。頭部に付ける位置で頭頂部（第2・3・5図-2）、斜位（第4図）、後頭部（第5図-1）3つに分類が可能である。

(4) 鬚の形状

島田鬚の形状は、角形と分銅形の2種類に大別した杉山氏の分類（杉山 1983）、その分類基準に側面の要素を組み入れて5つに分けた日高氏の分類（日高 1995）、鬚の平面と側面の形態を組み合わせて3つに大別し、それを16に細分する福村氏の分類（稻村 1999）がある。拙稿では、杉山氏の分類を基本的に踏襲して、分銅形・鼓形・長方形の3つに大別した。神奈川県からは、その3種類の鬚が出土している（第2表参照）。

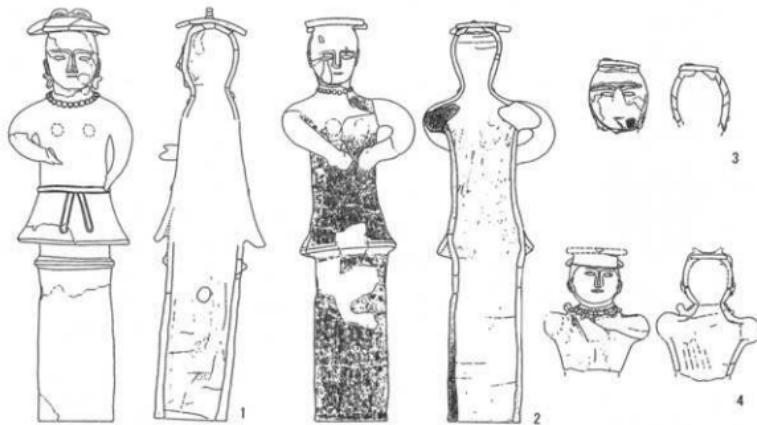
4. 事例分析

本稿で分析対象は女子人物埴輪で、主に頭部が観察できる人物埴輪を対象とした。



1 八幡地区 2～3 世良田・諏訪下3号墳

第2図 頭部成形（平行開放タイプ）+罈（水平）[1/10]



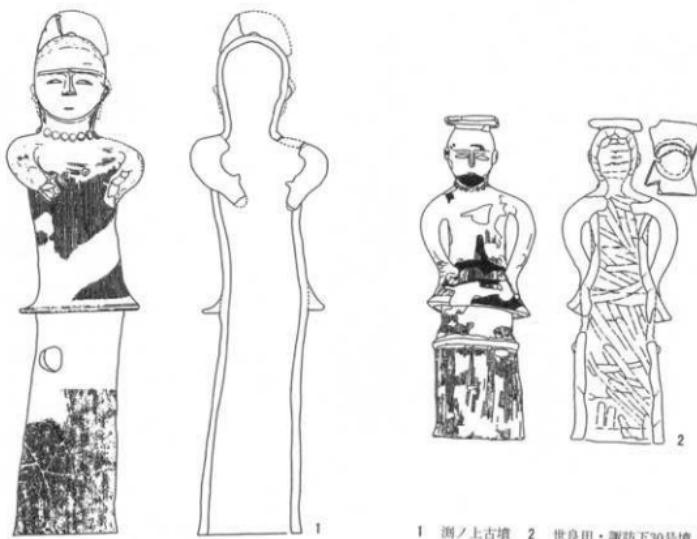
1～2 神保下條2号墳 3 高崎情報団地遺跡23号墳 4 保渡田八幡塚古墳

第3図 頭部成形（ドーム開放タイプ）+罈（水平）[1/10]



1 板下古墳 2 織貫觀音山古墳

第4図 頭部成形（ドーム開放タイプ）+盤（斜位）[1/10]



第5図 頭部成形（閉塞型）+盤（平行・水平）[1/10]



1~7 登山1号墳 8~10 萩原古墳

第6図 神奈川県出土人物埴輪（1）[1/10]

(1) 登山1号墳 (第6図)

登山1号墳からは、形象埴輪が多数出土している。その中で、分析に耐えられる女子人物埴輪は3体出土している。第6図-1は、長方形つぶし島田で、斜位に貼り付けている。頭部は、変形閉塞タイプである。頭頂部は長さ5cm、幅0.7cmほどにわたって切り込みを入れ、その後に髪を貼付する(写真1)。この技法は、他の人物埴輪には見られない特徴である。一度閉塞した後に再切開をして髪を貼付しており、かなり手間のかかる製作手法と言える(註5)。髪は中央部で髪の束ねを表現する。ハケメを見ると、粗いハケメと細かいハケメの2種類で調整されている。顔の造形が平坦である。第6図-2は、長方形つぶし島田で、斜位に貼付する。頭部は閉塞型で、絞ったように頭頂部を閉塞する(写真2)。顔が頭部より小さく、顔に面を貼り付けるように成形しており、盛り上がっている印象を受ける。髪は中央部で髪の束ねを表現する。第6図-3は、島田髪が欠損しているが、斜位に貼付する。頭部成形は不明である。

(2) 向ヶ崎古墳 (神奈川県教委 1970)

昭和33年の城ヶ島大橋の工事中に形象埴輪が出土している。その中に女子半身像がある。髪は鼓型つぶし島田で、斜位に貼り付けている。頭部は、平行開放タイプである。向ヶ崎古墳出土埴輪は、埼玉県北東部(埼玉県鴻巣市生出塚埴輪製作遺跡)の埴輪工人の影響が指摘されている(稻村1992)。

(3) 莫原古墳

頭部が分かれる女子人物埴輪は、県立博物館に所蔵されている「まが玉をつけた女」(神奈川県教委 1970)が挙げられる。上半身のみであるが、残りは良好である。髪は、鼓型つぶし島田で、頭頂部に貼付する。頭部は、平行開放タイプである。その他に髪のみが出土している。鼓型つぶし島田(第6図-9)で、中央に髪飾りを表現する。剥離面を観察する限りは、「まが玉をつけた女」と同様に頭頂部に貼り付けるタイプで、頭部成形は平行開放タイプと言える。その他にも、人物埴輪が多数出土している。頭部成形の分かれる人物埴輪を観察すると、頭頂部に近付くに従い狭めてドーム形に粘土を輪積みしていく、最後に粘土で閉塞する。これらの人物埴輪は、全体的に小振りな造形から、群馬の埴輪工人との関連が指摘されている(稻村1992)。

(4) 采女塚古墳 (神奈川県教委 1970)

明治20年の道路工事に伴って多くの形象埴輪が出土しているが、多くは散逸してしまい、一部が京都大学と横浜国立大学に所蔵されている。京都大学所蔵の中にまが玉をつけた女子人物埴輪がある。髪は鼓型つぶし島田で、頭頂部に貼付する。頭部は、ドーム開放タイプである。これらの人物埴輪は、莫原古墳の埴輪との類似性が指摘されている(稻村1992)。頭部成形がドーム開放タイプであり、髪の形状が鼓形を呈することから、同一工人ではないが、製作技術が同一系譜と考えられる。

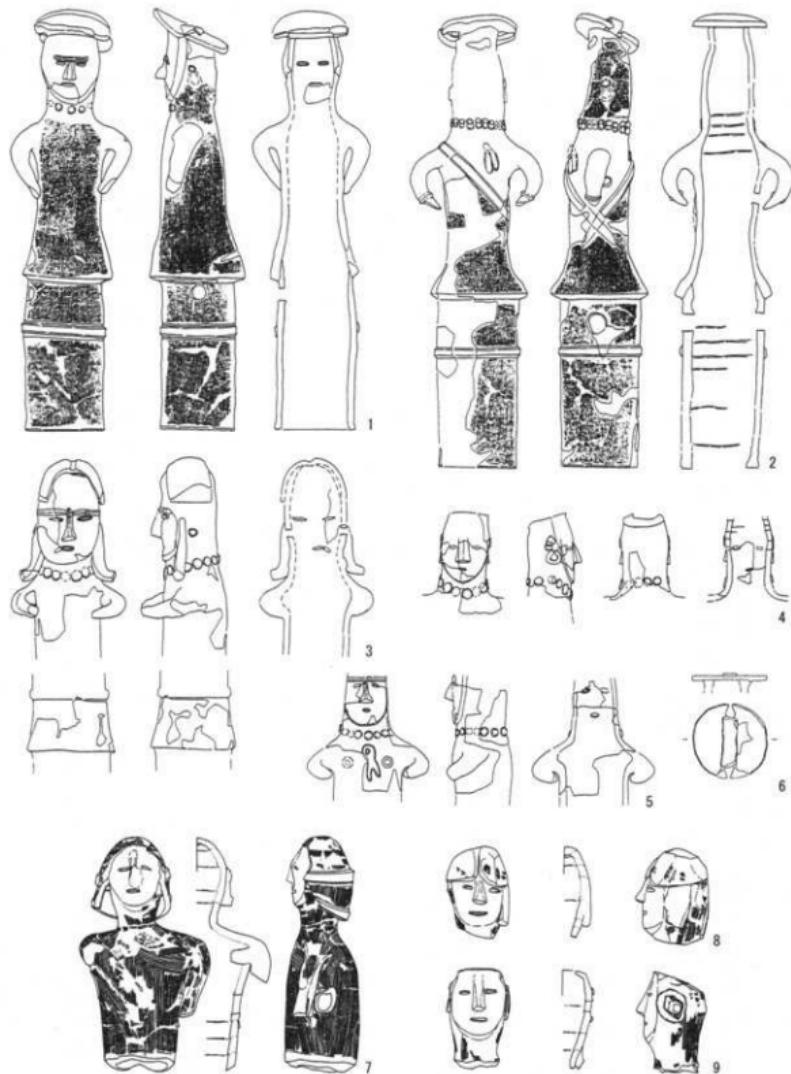
(5) 北門1号墳 (滝澤 2007)

北門1号墳からは、人物埴輪が12点確認されている。その中で、分析に耐えられる資料は2点ある。

第7図-1は、分銅形つぶし島田で、斜位に貼付する。頭部は、平行開放タイプである。第7図-2は、分銅形つぶし島田で、斜位に貼付する。頭部は、平行開放タイプである。その他に、髪のみも出土している。髪の形状は分銅形つぶし島田(第7図-6)である。本古墳出土の埴輪は、その形状や胎土から埼玉県生出塚埴輪窯との関係が指摘されている(滝澤2007)。

(6) 上丸子古墳 (浜田 1996)

上丸子古墳からは、5体の人物埴輪が報告されているが、うち2体の人物埴輪が写真のみでしか確認でき



1～6 北門1号墳 7～9 上丸子古墳

第7図 神奈川県出土人物埴輪(2) [1/10]

ない(浜田 1996)。この2体は、所在が不明である。所在が確認されている3体の人物埴輪の中に、1体女子人物埴輪がある。第7図-9は、島田監が欠損している。監は斜位に貼付する。頭頂部は平坦で、頸部はドーム開放型である。その他に武人埴輪と人物埴輪が出土している。これらは両方とも頸部成形は閉塞型である。頭部成形を見ると、頭頂部に近付くに従い狭めてドーム形に粘土を輪積みしていく、最後に粘土で閉塞するタイプで、両方とも同様な成形を施す。

(7)久本山古墳(旧大連寺裏出土)(浜田 1991)

昭和8年に旧大連寺の裏山から人物埴輪が出土している。頭部は閉塞型で、監は、頭頂部に線刻されている(第8図-1)。線刻された監表現を用いるのは、神奈川県内の埴輪では久本山古墳出土の人物埴輪のみである(註6)。後頸部にスカシ孔があり、その周辺には粘土が剥離した痕跡が認められる。何かブリッヂ状に張り付いていたものと見られる。頭部成形は、頭頂部に近付くに従い狭めてドーム形に粘土を輪積みしていく、最後に頭頂部を粘土で閉塞する。

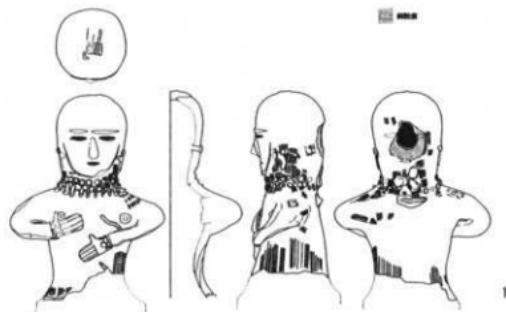
第2表 人物埴輪分析表

No.	古墳名	頭部成形	監成形	監貼付位置	監の形状	時期
第6図-1	登山1号墳	変形閉塞タイプ	板作り	斜位	長方形	6世紀前半
第6図-2	登山1号墳	閉塞型	板作り	斜位	長方形	6世紀前半
第6図-3	登山1号墳		板作り	頭頂部	長方形	6世紀前半
	向ヶ崎古墳	平行開放タイプ	板作り	斜位	鼓形	6世紀後半
第6図-9	藤原古墳	平行開放タイプ	板作り	頭頂部	鼓形	6世紀中葉
第7図-1	北門1号墳	平行開放タイプ	板作り	斜位	分鋼形	6世紀末
第7図-2	北門1号墳	平行開放タイプ	板作り	斜位	分鋼形	6世紀末
第7図-6	北門1号墳		板作り		分鋼形	6世紀末
	采女塚古墳	ドーム開放タイプ	板作り	頭頂部	鼓形	6世紀前葉
第7図-1	上丸子古墳	ドーム開放タイプ	板作り	斜位		6世紀後半
第8図-1	久本山古墳	閉塞型	線刻	頭頂部		6世紀後半

5. 収束

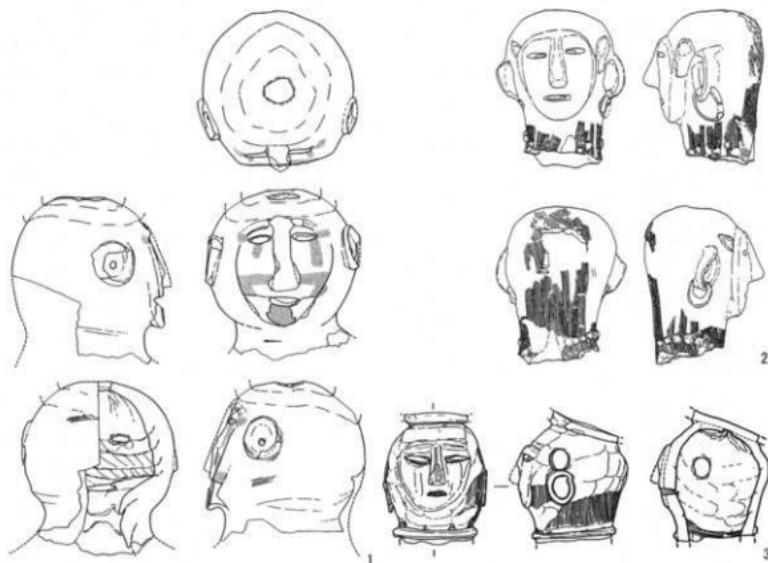
今回神奈川県出土の女子人物埴輪を対象に、主に監に注目して分析を試みてきた。以下、分類結果を整理して、神奈川県における埴輪製作の技術的な系譜について述べていく。神奈川県における埴輪製作の系譜については、稻村氏が精力的に研究している(稻村 1992・1996)。頗るすべき見解が多く、筆者も同意見な部分が多い。そこで、稻村氏の研究成果を踏襲しつつ、筆者の見解を述べてみたい。稻村氏は、神奈川県の埴輪製作は、独自の専門的な埴輪製作工人が成立せず、主に他地域に埴輪製作を依頼していることを指摘する。6世紀前半代は埼玉県北東部系、その後6世紀中葉頃になると群馬系の埴輪が出現し、6世紀後半になると、埼玉県北東部を中心に埼玉県西部系も加わり、三地域の埴輪工人が製作に関与したことを指摘する。はたして、そうなのだろうか。以下、比較資料の多い登山1号墳の人物埴輪から検証してみたい(註7)。

稻村氏は、登山1号墳・向ヶ崎古墳は、埼玉県北東部(鴻巣市生出塚埴輪製作遺跡)の工人の影響(稻村 1996)を受けている点を指摘する。拠点的な埴輪窯を維持して持たない神奈川県では、他地域の埴輪製



1 久本山古墳（旧大連寺裏出土）

第8図 神奈川県出土人物埴輪（3）[1/10]



1 富士見塚1号墳 2 浅間神社古墳 3 登山1号墳

第9図 類似する埴輪 [1/5]

作集団に依頼する形で埴輪を導入したと考えられる。特に円筒埴輪より高度な技術が必要な人物埴輪を作製するには、技術指導は欠かせない。登山1号墳の埴輪を見ると、胎土の色調が赤褐色の埴輪と黄白土の埴輪に分けられる。製作技術を比較すると、胎土の色調が黄白色を呈する埴輪には武人埴輪や坊主頭の人物埴輪などがあり、前者の埴輪と比較して丁寧な製作手法がうかがえる。この点から、埴輪製作には少なくとも2つの埴輪製作集団が関わっていたものと考えられる。

登山1号墳出土の女子人物埴輪を観察すると、3体ともに共通点と相違点が指摘できる。髪の形状と貼付位置は共通するが、頭部成形と顔の造形は不統一である（註8）。ここで挙げる女子人物埴輪の胎土は、すべて赤褐色を呈しており、黄白色を呈する埴輪群とは異なる。では、どの技法が工人ないしは工人集団の特徴に繋がるのだろうか。

第3図-1の女子人物埴輪は、顔が頭部より小さく、顔に粘土の面を貼付するように成形しており、極めて特徴的な造りと言える。同様な人物埴輪は、茨城県富士見塚1号墳（第9図-1）や同県結城郡石下町神子女、浅間神社古墳（浅間神社所蔵人物埴輪）（第9図-2）などから出土している。富士見塚古墳と浅間神社古墳、登山1号墳の顔に厚みを持たせる人物埴輪の共通点は、顔の造形だけではない。頭部成形もまた共通する。これらはすべて、頭頂部に円孔があいており、ドーム開放タイプの製作技法を用いて製作されている。ドーム開放タイプは輪積みの程度により細別することが可能である。これらの人物埴輪は、円孔を残すまで輪積みをしており、「閉塞タイプ」に近い「ドーム開放タイプ」と言える。この点を考慮すると、頭部成形と顔の造形には相関関係が認められる。これらの人物埴輪は、広範囲に分布が広がる点、胎土などに共通性が見いだせない点から、今津氏（今津1992）が指摘するように、工人の移動を想定するべきだと考えられる（註9）。また、多摩川対岸の東京都世田谷区喜多見陣屋2号墳・慶元寺1号墳の埴輪は、埼玉県西部の埴輪工人との関係が深いことが指摘されている（稻村1996）。この埼玉西部の埴輪工人は、髪の立体的な構造から畿内の埴輪工人の技術的な系譜・指導を受けていることがうかがえる。このような状況を鑑みると、6世紀前半の埴輪製作は、埴輪製作地が独立して埴輪生産や技術を向上していったのではなく、製作手法の情報が各地の埴輪製作地にオーブンに行き渡っていた可能性が高いと言える。

6. おわりに

人物埴輪の工人ないしは工人集団は、城山1号墳などの事例（小林1974）で指摘されているように、同じモチーフの人物埴輪のみを製作するのではなく、様々なモチーフの人物埴輪を製作している。同じ埴輪工人ないしは工人集団の埴輪は、共通の技術を用いて製作されるので、類似性が認められる。この「共通技術」は、埴輪工人ないしは埴輪工人集団が保有する技術であり、モチーフの表面的な模倣では決して真似の出来ないものである。この点が、日高氏の指摘する「他人のそら似」と同一工人ないしは同一工人集団の埴輪とを識別するポイントと言える。拙稿では、「共通表現」が工人ないしは工人集団を探る手がかりである点を指摘した。本稿では、登山1号墳の人物埴輪を手がかりにして、この「共通技術」が工人ないしは工人集団を探る手がかりになる点を明らかにした。本来ならば、複数の具体的な埴輪工人の類型化まで行いたかったが、本稿は神奈川県出土の女子人物埴輪を対象にしており、比較検討する資料数が少なく、大隸把な議論になってしまった。ご寛恕願いたい。今後は、本稿で取り上げた成形手法と顔の造形などの関連性について整理し、関東を中心とした人物埴輪の類型化を推し進めるとともに、埴輪工人同士の技術的な相関関係・交流など、地域に根ざした動向について考えていただきたい。

本稿提出にあたっては、研究紀要編集担当の渡辺外氏に様々な点で御配慮を賜った。資料の実見については、横須賀市人文博物館稻村繁氏、厚木市教育委員会佐藤健二氏、川崎市市民ミュージアム浜田晋介氏（現日本大学）らに格別のご配慮を賜った。また執筆にあたり、多くの方々より御指導・御教示をいただいた。文末ではあるが、皆様の御名前を記すことで謝意を表したい。

稻村繁、柏木善治、佐藤健二、新開基史、浜田晋介、渡辺外（敬称略・五十音順）。

註

- (註1) 刷毛目に注目した同工品論は、1973年に活発化した（吉田1973、川西1973、森1973）。その後、森氏の研究を継承する形で大木氏が方法論を整備し（大木1995・2005）、城倉氏が継承・発展させている（城倉2007・2009）。
- (註2) 山倉1号墳出土の人物埴輪13体について、作風が一致していることから同一工人の製作であることを指摘する（米田1976）。
- (註3) 上矢部町富士山古墳の人物埴輪（盾持人）は頭部開放タイプに見えるが、頭部成形が円筒埴輪の口縁部と同じであり、ここで指摘する頭部開放タイプとは種類が異なる。
- (註4) 既稿（新山2006）では、平行開放型とドーム開放型と表記したが、本稿では平行開放タイプとドーム開放タイプと表記する。
- (註5) この技法に最も近いのは、盾形埴輪などの形象埴輪に使う再切削技法が挙げられる。
- (註6) 葛又八幡神社古墳から後頭部に円孔が穿たれた人物埴輪が出土している（忍海区郷土と天文の博物館2009）。
- (註7) 北門1号墳からも多数出土しているが、この埴輪の系譜についてはすでに生出塚埴輪窯跡を中心とした研究（山崎2004）があるので、今回は触れないこととする。
- (註8) 橋本氏は、樹木系墓庭熊野古墳の「二人童女」と絶賛觀音山古墳の「三人童女」の共通性に着目し、この2つの人物埴輪が同一工人ないしは同一工人集団の製作した埴輪であることを指摘している（橋本1980）。その一方で、橋本氏は相違点も複数挙げているが、共通点と相違点の判断基準を述べていない。
- (註9) 福島県原山1号墳と東京都亀塚古墳出土の「冠をかぶった男子」人物埴輪は、造形手法から同一工人集団が製作したことが指摘されている（今津1988）。これらの人物埴輪と類似する資料が、群馬県勢多郡船川村からも出土しており（平野1993）、古墳間の距離が離れすぎているので、これらは埴輪の流通ではなく工人の系譜と関係が深いと考えられる。

引用・参考文献

- 今津節生 1988 「東北地方における埴輪の年代と系譜」『企画展 東国のはにわ』福島県立博物館
- 今津節生 1992 『登山1号墳出土遺物調査報告書』厚木市教育委員会
- 稻村繁 1992 「三浦半島の埴輪（I）」『横須賀市博物館研究報告（人文科学）』No.37
- 稻村繁 1996 「三浦半島の埴輪（II）」『横須賀市博物館研究報告（人文科学）』No.41
- 稻村繁 1999 『人物埴輪の研究』同成社
- 大木努 1995 「下絶型埴輪基礎考—埴輪同工品論序説—」『埴輪研究会会誌』第1号 塩輪研究会
- 大木努 2005 「下絶型埴輪再論」『埴輪研究会会誌』第9号 塩輪研究会
- 植山英史 1996 「神奈川県の埴輪出土古墳について（1）」『神奈川考古』第32号 神奈川考古同人会
- 梅澤重昭 1998 「（6）觀音山古墳の埴輪生産地」『絶賛觀音山古墳1墳丘・埴輪編』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業

団発掘調査報告書第242集 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

- 大塚真弘・渡部律子 1987 「藤原」『横須賀市文化財調査報告書』第13集 横須賀市教育委員会
葛飾区郷土と天文の博物館 2009 『柴又神社古墳Ⅶ(第1分冊古墳編)』
- 神奈川県教育委員会 1970 『かながわの埴輪』
- 川西宏幸 1978 「円筒埴輪総論」『考古学雑誌』第64巻第2号
- 群馬県考古学談話会など 1985 「埴輪の変遷—普遍性と地域性—」第6回三昧シンポジウム
- 車崎正彦 1988 「埴輪の作者」『早大所沢文化財調査室 月報』No34
- 小橋健司 2004 「山倉1号墳出土埴輪について」『市原市山倉古墳群』市原市埋蔵文化財センター
- 小林行雄 1972 『日本陶磁大系3 塩輪』平凡社
- 杉山晋作 1983 「人物埴輪頭部における装身表現」『季刊考古学』5 雄山閣
- 杉山晋作 1976 「房総の埴輪(-)一九十九里地域における人物埴輪の二相-」『古代』59・60合併号
- 城倉正祥 2007 「生出塚埴輪窯の基礎的研究」『埴輪研究会会誌』第11号 塩輪研究会
- 城倉正祥 2009 「埴輪生産と地域社会」学生社
- 榎澤亮 2007 『北門古墳群I』 整古堂
- 轟俊二郎 1973 『埴輪研究』第1冊
- 永井正浩 1998 「近畿地方における巫女形埴輪について」『網干善教先生古希記念考古学論集』
- 新山保和 2006 「人物埴輪の盤の造形表現について」『群馬県内的人物埴輪』 群馬県古墳時代研究会
- 浜田晋介 1991 「川崎の埴輪」『川崎市市民ミュージアム紀要』第4集
- 浜田晋介 1996 「川崎の埴輪」『川崎市市民ミュージアム紀要』第9集
- 浜田晋介 2009 「白井坂埴輪窯跡」『川崎市市民ミュージアム考古学叢書』6 川崎市市民ミュージアム
- 樋本博文 1980 「埴輪祭式論—人物埴輪出現後の埴輪配列をめぐって」『塚麗り古墳群』 群馬県教育委員会
- 日高慎 1995 「人物埴輪の共通表現とその背景」『筑波大学先史学・考古学研究』6
- 日高慎 1996 「人物埴輪表現の地域性—双脚人物像の脚部の検討-」『考古学雑誌・西野元先生退官記念論文集』
西野元先生退官記念会
- 日高慎 1997A 「埴輪からみた交流と地域性」『人物埴輪の時代』 葛飾区郷土と天文の博物館
- 日高慎 1997B 「埴輪にみる地域性」『地域史フォーラム 6世紀における房総と武藏の交流と地域性』
葛飾区郷土と天文の博物館
- 日高慎 1999 「人物埴輪の共通表現とその背景」『埴輪研究会誌』3
- 平野進一 1993 「第46回企画展 はにわ—極められた古代の祭祀ー」群馬県立歴史博物館
- 右島和夫 1992 「IV考察 1. 出土埴輪の特徴とその意義」『神保下條遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘
調査報告書第137集 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 水野正好 1971 「埴輪芸能論」『古代の日本』第2巻 角川書店
- 山崎武 2004 「生出塚埴輪窯の生産と供給」『市原市山倉古墳群』市原市文化財センター
- 吉田恵二 1973 「埴輪生産の復元」『考古学研究』第19巻第3号
- 米田耕之助 1976 「上総山倉1号墳の人物埴輪」『古代』第59・60合併号



正面



内部

写真1 堆山1号墳 人物埴輪



正面



内部

写真2 登山1号墳 人物埴輪

研究紀要16

かながわの考古学

発行日 2011(平成23)年3月31日

発行 財団法人かながわ考古学財団

〒232-0033 神奈川県横浜市南区中村町3-191-1

tel : (045)-252-8689 fax : 045-262-8162

<http://kaf@kaf.or.jp>

印刷 野崎印刷紙器株式会社

KANAGAWA NO KOUKOGAKU

Vol.16

(Bulletin of KANAGAWA Archaeology Foundation)

CONTENTS

Project Team for Paleolithic Studies: Paleolithic Artifacts in Kanagawa Prefecture Distribution (4) Layer B1～L2	1
Project Team for Jōmon Period Studies: Change of the Jōmon Culture in Kanagawa Prefecture (VII): An Example in the first part of Late Period. An Aspect of the Horinouti-Type Pottery Period, Part 2	13
Project Team for Yayoi Period Studies: The Corpus of Yayoi Era Metaltool in Kanagawa Prefecture (3)	25
Project Team for Kofun Period Studies: Track of Dr. Naotada Akaboshi, A Pioneer of Archaeological Research in Kanagawa Prefecture (8): A Report of Materials of the Kofun Period in the So-called "Akaboshi Note"	37
Project Team for Nara-Heian Period Studies: Hardware in the Nara and Heian Periods in Kanagawa Prefecture: The Corpus of iron manufacturing artifacts	51
Project Team for Medieval Age Studies: Castle Site in the Medieval Age in Kanagawa Prefecture (3)	65
Project Team for Early Modern Age Studies: The Corpus of Common Houses in the Early Modern Age (8)	73
Niiyama Yasukazu: The Analysis of the Aspects of Region and Reconstruction of the Workman Groups from the view point of the <i>Jinbutsu Haniwa</i> : with a central focus on <i>Jinbutsu Haniwa</i> in the Kanagawa Prefecture	85

March, 2011

KANAGAWA Archaeology Foundation

Yokohama, Japan